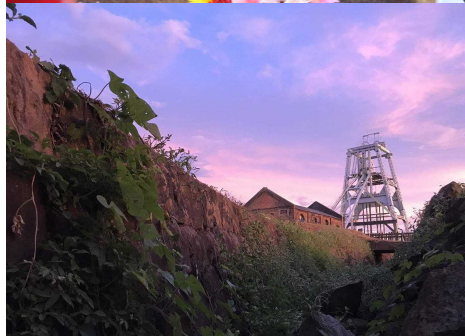
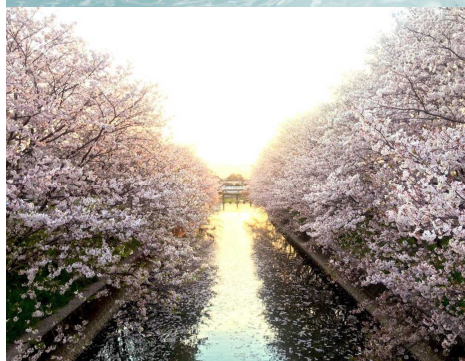
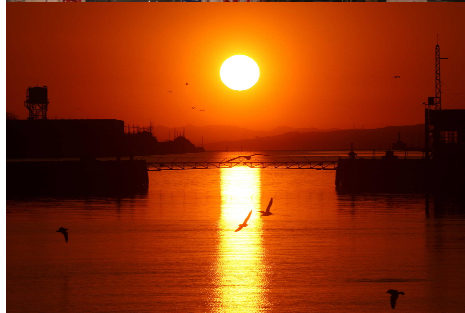


大牟田市観光基本計画

2022～2026

OMUTA CITY
Tourism basic plan

2022（令和4）年3月
大牟田市



大牟田市観光基本計画（R4～8FY）の体系

（体系図）

大牟田市における
観光振興の目的
（目指す方向）

- I 来訪者の域内消費拡大による地域経済への貢献
II 地域資源の魅力発信による本市イメージの向上

【基本方針】

- 1 地域資源の価値の再認識、磨き上げと活用・受入環境の整備
- 2 民間団体・事業者等との連携による域内消費の促進
- 3 広域連携的視点による誘客と効果的なプロモーション

本市の人口・財政、観光関連産業の動向

- ① 人口減少、少子高齢化の進展。今後、縮小社会への対応が必要。
- ② 幅広い資源を活用し振興を図ってきたが、入込客、消費額増に効果的に結びついていない。
- ③ 「宿泊業・飲食サービス業」の内では、飲食業の占める割合が大きく、宿泊業は小さい。

本市における観光の現状、入込客の特徴等

- ① 入込客数は年々減少しており、消費額はほぼ横ばいで推移。
- ② 入込客数は、世界遺産関連施設、動物園、「大蛇山」まつりの3つで全体の約半数を占める。
- ③ 市民が自慢できるもの上位3位は、「大蛇山」まつり、世界遺産、動物園。
- ④ 観光入込客は日帰りが9割を占める。
- ⑤ 県外は（隣県）熊本県、佐賀県が多い。
- ⑥ 周辺市と併せて本市に立ち寄る傾向がある。
- ⑦ 宿泊施設利用者の多くがビジネス利用。
- ⑧ 市内に宿を確保できない一定数が周辺市に宿泊している傾向がみられる。

本市の観光振興に向けた課題や方向性等

- ① 観光消費額は同程度の集客規模を有する周辺市と比較して高くない。
- ② 世界遺産関連施設への観光入込客数は減少傾向、また価値の理解は4割程度。
- ③ 動物園は年間安定した集客があるが、施設の老朽化、利便性向上等に課題。
- ④ 「大蛇山」まつりは大きな集客力があるが、天候等による影響が大きい。
- ⑤ 来訪者の市内回遊や消費拡大の方策が必要。
- ⑥ 近隣市町と連携し、双方の来訪者の取り込みが重要。
- ⑦ ワークショップでは、世界遺産関連施設や大牟田市動物園、有明海の景観、道路・鉄道によるアクセス性などが、大牟田市の観光の強みとする一方、資源が生かされていないことが課題とする意見が多かった。
- ⑧ ワークショップでは、今後の観光振興の方向性として、「資源の見つめなおし」「観光資源と飲食など多様な資源の連携」「世代や分野を超えた連携」等が重要とする意見などが得られた。

3章(1)

基本方針1

地域資源の価値の再認識、磨き上げと活用・受入環境の整備

【KPI】
主要施設の入場者数

基本方針2

民間団体・事業者等との連携による域内消費の促進

【KPI】
経済波及効果

基本方針3

広域連携的視点による誘客と効果的なプロモーション

【KPI】
新規HPの閲覧数

4章

【施策】

【事業】

※【推進主体】

【計画の推進体制】

①地域資源の
保全、活用

- 1 世界遺産関連施設の管理・活用
- 2 大牟田市動物園（ともだちや絵本美術館）の管理・活用
- 3 おおむた「大蛇山」まつりの活用
- 4 多様な地域資源の活用

②地域資源の
魅力向上

- 1 体験プログラムの磨き上げ及び活用
- 2 回遊ルートの提案

③受入体制の充
実と市民参画
の環境づくり

- 1 世界遺産関連施設のガイドシステムの見直し
- 2 ガイドの育成・仕組みの再構築
- 3 市民の参加推進と環境づくり

④観光案内機能
の充実

- 1 観光案内板や誘導サインの整備
- 2 交通事業者との連携

①域内消費拡大
に向けたイベ
ント等の支援

- 1 イベント等と連携した域内消費拡大事業
- 2 観光イベントへのプロモーション支援

②大牟田の「食」
「土産品」の開
発・販売支援

- 1 「食」「土産品」の開発及び磨き上げ
- 2 土産品等のプロモーション機会の提供

③ナイトタイム
エコノミーの
推進

- 1 資源の夜間活用
- 2 飲食等を活用したイベント等の実施
- 3 宿泊施設の充実と宿泊客の呼び込み

④誘客及び域内
回遊施策の実
施

- 1 誘客及び域内回遊事業

①有明圏域定住
自立圏等、広
域の枠組みの
連携強化によ
る誘客

- 1 有明圏域定住自立圏推進協議会広域観光振興部会での取組
- 2 多様な広域の枠組みによる取組
- 3 広域の枠組みを活用した情報発信と誘客

②目的や誘客層
に合わせた戦
略的な情報発
信の推進

- 1 ターゲットの絞り込みと志向に応じた情報発信の強化
- 2 ホームページの充実やターゲットに応じた SNS 等を活用した情報発信

1. 基本的考え方

行政、市民、関係団体、事業者等は、それぞれの役割と責任を担いながらお互いに情報共有し、相互に連携していく必要がある。

今後、人口減少やさらなる少子高齢化が進展する中、各施策、事業を展開するには、事業を推進する人材が大きな課題。

市全体として、また各組織、団体にとっても、新たな担い手となる人材や団体の発掘、育成等と、その人材や団体の活動等が促進されるような環境づくりがさらに重要となる。

～新たな推進機能（体制）の検討にあたって～

限られた人材や物的資源を考慮し、まず組織ありきでなく、計画を推進するために必要な機能（体制）を考えるものとする。

2. 各組織、団体の役割

- (1) 行政（観光担当課）
- (2) 市民
- (3) 観光関連団体
- (4) 民間事業者等（内容は本編に記載）

3. 計画推進を補完する機能（体制）の検討

- (1) 人、団体等を「つなぐ」機能
- (2) 本計画の進捗状況等を確認する機能（PDCAサイクルのC）

※市=大牟田市、観=観光協会、商=商工会議所、地=地域団体、民=民間団体、カ=ガイド団体、指=指定管理者、関=関係団体、事=民間事業者（交通、飲食、宿泊等）、振=まつり振興会、N=NPO、学=学校（順不同）

目次

1 章 観光基本計画の概要.....	1
(1) 計画策定の趣旨.....	1
(2) 計画の位置づけ.....	2
(3) 計画の期間.....	2
(4) 計画の構成.....	2
2 章 本市における観光の現状.....	3
(1) 観光をとりまく現状.....	3
(2) 本市が有する地域資源.....	18
(3) 現状の整理及び観光振興に向けた課題.....	22
3 章 本市における観光振興の目指す方向と基本方針.....	24
(1) 目指す方向.....	24
(2) 基本方針.....	24
4 章 重点施策と主な事業.....	28
基本方針 1 地域資源の価値の再認識、磨き上げと活用・受入環境の整備.....	29
基本方針 2 民間団体・事業者等との連携による域内消費の促進.....	35
基本方針 3 広域連携的視点による誘客と効果的なプロモーション.....	39
5 章 計画の推進体制.....	42
資料編.....	46

1 章 観光基本計画の概要

(1) 計画策定の趣旨

大牟田市（以下「本市」）は、日本の近代化を支えた、石炭産業とともに栄えたまちです。また、石油化学コンビナートの形成により様々な産業が生まれ、以来今日まで脈々と培われてきた技術を誇る企業等が存在します。

また、石炭産業は、このまちにたくさんの人々を集め、賑わいを生み出しました。それにより、おおむた「大蛇山」まつりをはじめとする様々な催事や食文化等の振興につながり、動物園などの施設も生まれ、受け継がれてきました。

このような中、本市では、観光基本計画を H14 年に策定し、本市固有の地域資源などを活用しながら、その時々状況に応じ、交流人口の拡大を図るための取組みを行ってきました。

三池炭鉱が閉山して四半世紀が経ちましたが、炭鉱施設等は近代化産業遺産として、改めて歴史的に高い評価を得ることとなり、H27 年に世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として、その普遍的価値が認められるものとなりました。

おおむた「大蛇山」まつりは本市を代表し多くの市民が自慢できるものとして毎年大牟田の夏を彩り、また、80 年の歴史を持つ大牟田市動物園は動物福祉の先進的な取組みなどで注目を集めています。

さらに、まちなかには、かつて石炭産業が賑わっていた頃の面影を残す商店街や飲食店があり、その歴史と趣を活かした店づくりも、若手経営者の新たな取組みにより進んでいます。

このように、まちには、独自のルーツやアイデンティティと呼ばれる、時代を超えて変わらないもの、変えてはいけないうものがあり、観光やまちの振興のためには、そうしたものを大事に育み継承していくことが重要です。

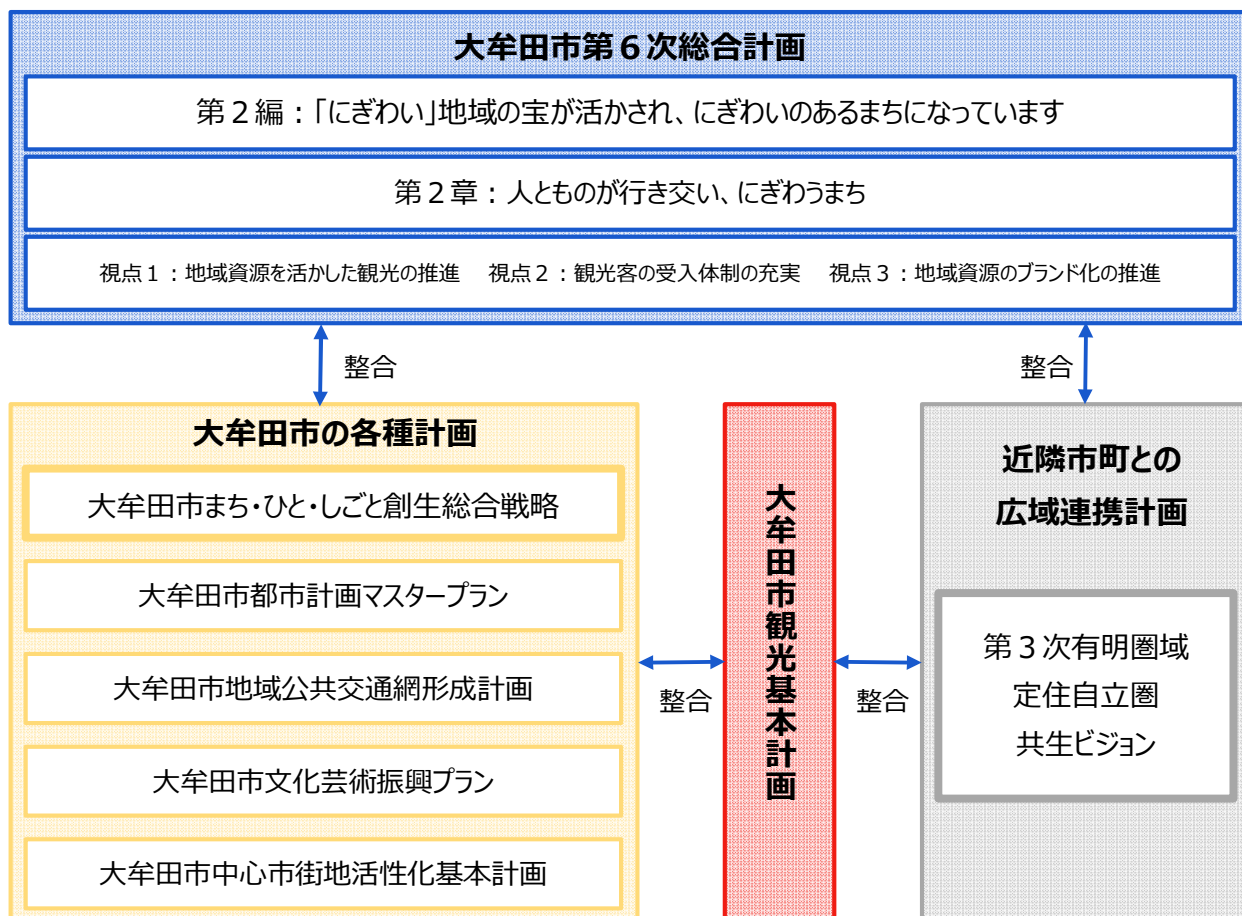
近年、国においては「観光立国」の実現に向け、外国人観光客増加のための取組み等が進められてきました。一方で、R2 年から世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症により、新たな旅のスタイルが求められるなど、人々のライフスタイルや観光ニーズは多様化しています。人の気持ちを動かし行動につながる情報も、そのコンテンツは日々進化、多様化しているため、観光施策を考えるに当たっては、そのような変化を捉えたスピードや柔軟性が求められます。

また、本市においては今後さらなる人口減少や少子高齢化の進展等が予測されることから、今後の取組みの在り方やその新たな担い手などについても十分検討していく必要があります。

そこで今回改めて、本市の歴史とともにそれに裏打ちされた地域資源や様々な取組みなどについて、魅力や課題等を洗い出した上で、本市における観光振興の目的（目指す方向）を明らかにするとともに、行政、観光関連団体や関係機関など、それぞれの主体が担うべき役割を明らかにすることで、より効果的かつ実効性の高い観光振興を図ることを目的に、新たな観光基本計画を策定することとしました。

(2) 計画の位置づけ

大牟田市観光基本計画は、大牟田市第6次総合計画を上位計画とし、本市のその他各種計画及び近隣市町との広域連携計画との整合性を図ることとします。



(3) 計画の期間

本計画の対象期間は、以下のとおりとします。

R4年度からR8年度

(4) 計画の構成

本計画は、以下から構成されます。

1. 観光基本計画の概要
2. 本市における観光の現状
3. 本市における観光振興の目指す方向と基本方針
4. 重点施策と主な事業
5. 計画の推進体制

2章 本市における観光の現状

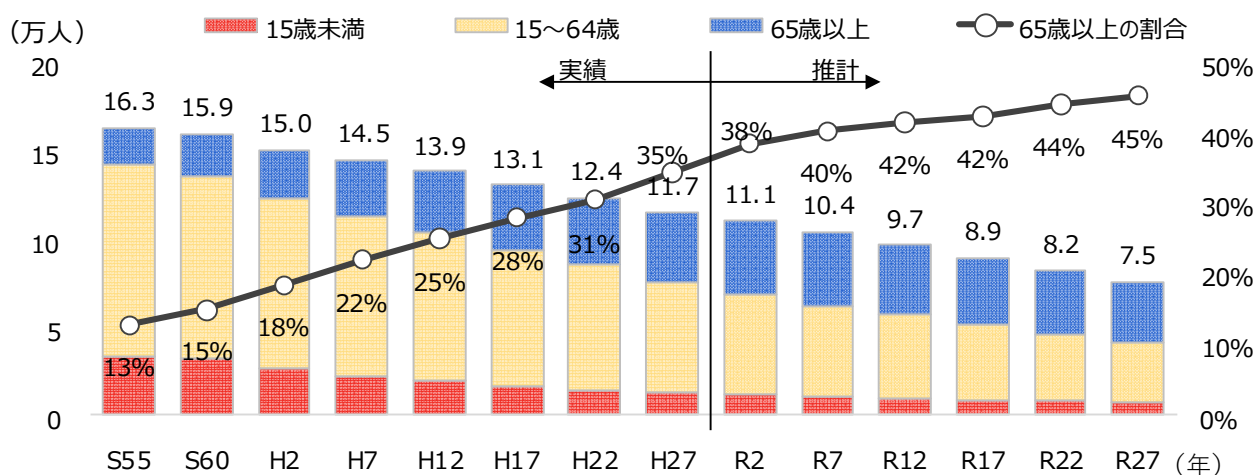
(1) 観光をとりまく現状

1) 人口・財政、観光関連産業

1 本市の人口推移

本市の総人口は減少していますが、65歳以上の割合は増加しており、R27年には約2人に1人が65歳以上の高齢者となる見込みです。

本市の年齢階層別人口の推移（実績・推計）



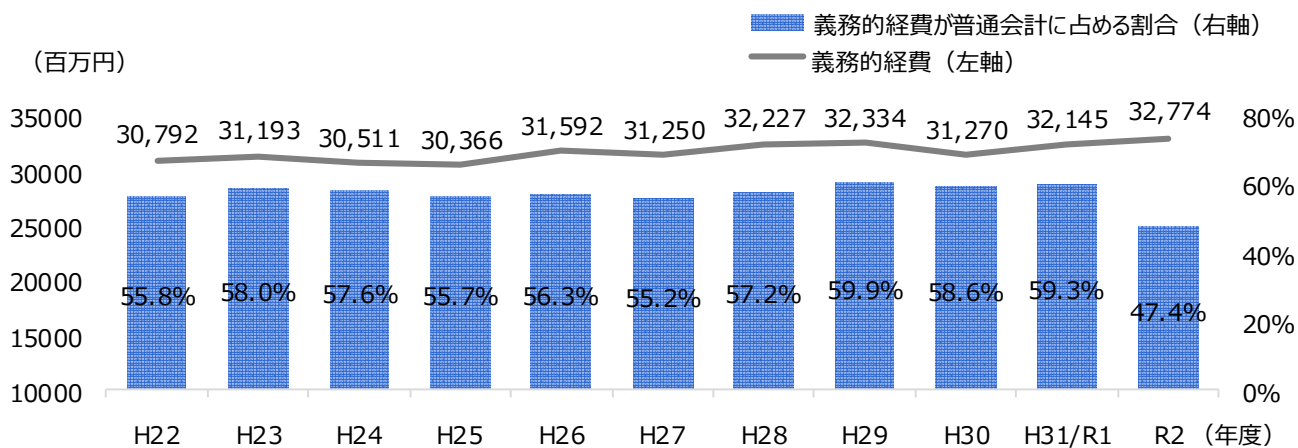
出所：国勢調査（H27）、国立社会保障・人口問題研究所

2 本市の義務的経費の構成比の推移

本市では、人口減少・少子高齢化を背景に、義務的経費は増加しており、普通会計に占める比率も高まっています。今後も厳しい財政状況が続くことが想定されます。

（R2年度は、新型コロナウイルス感染症と豪雨災害の対応に係る多くの臨時的事業が発生したことにより、義務的経費の構成比が相対的に低下）

本市の普通会計における義務的経費の構成比の推移

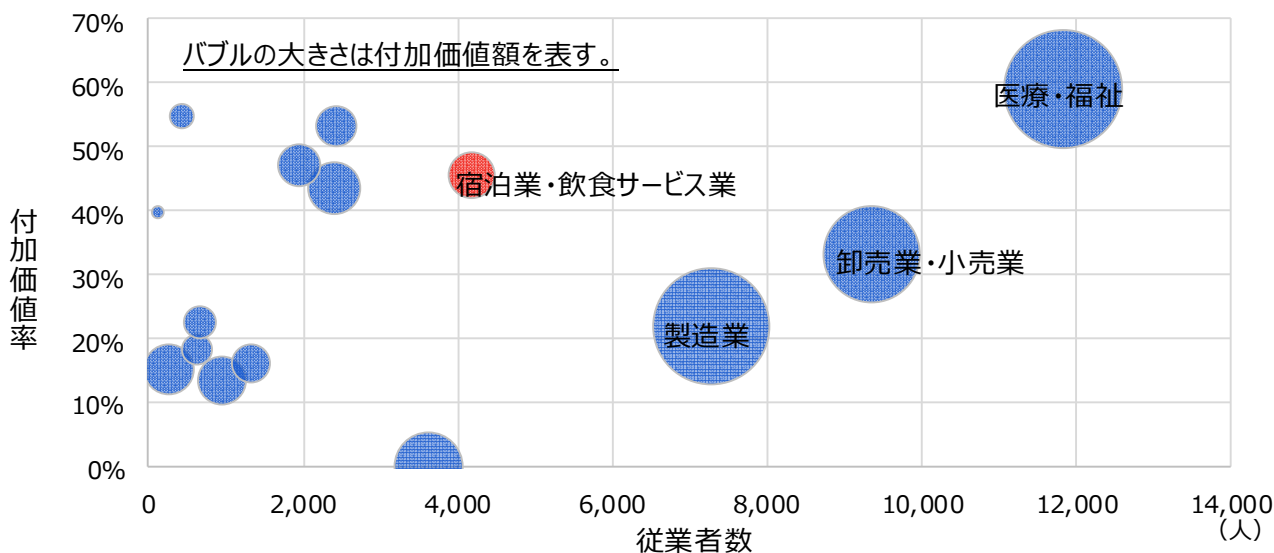


出所：大牟田市

3 本市における観光関連産業の現状

本市の産業における主なものは、「医療・福祉」、「卸売業・小売業」、「製造業」となっています。これらの産業に比べ、観光との関連性が深い産業である「宿泊業・飲食サービス業」は、付加価値額※や従業者数等の規模が小さいことが分かります。

本市における産業の現状



※「付加価値額」

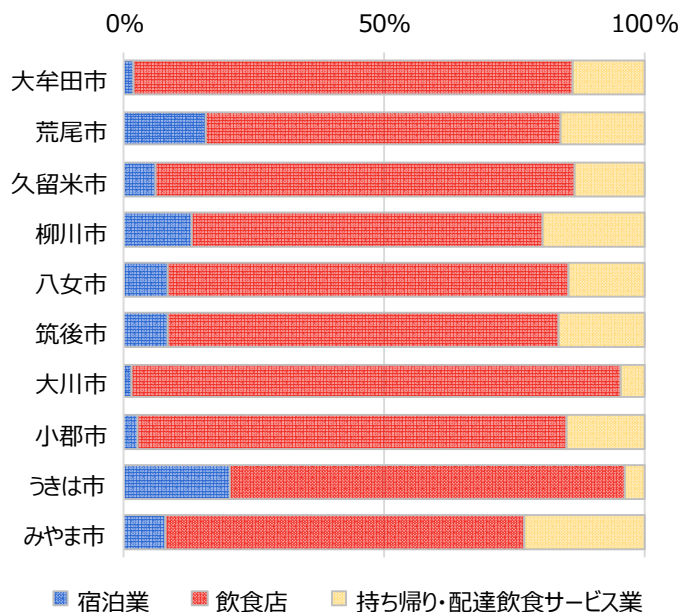
製品の生産活動やサービスの提供活動などを行うことによって新たに加えられた価値のこと。

付加価値額 = 売上高 - (原材料費、燃料費、減価償却費など)

出所：経済センサス活動調査（平成 28 年）

本市の観光関連産業（宿泊業・飲食サービス業）の従業員数の構成比をみると、近隣市と比較して宿泊業の比率が低く、飲食業等が多くを占めています。

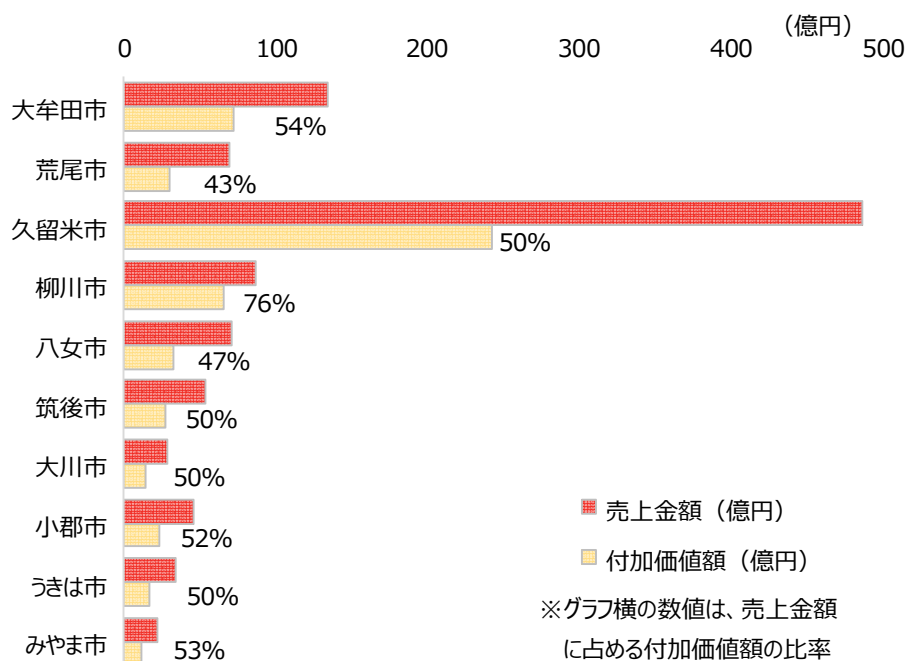
宿泊業、飲食店、持ち帰り・配達飲食サービス業における従業員数の比較（3産業の合計=100とした構成比）



出所：経済センサス活動調査（平成 28 年）

また、宿泊業・飲食サービス業の売上金額を近隣市と比較すると、久留米市の次に高い水準である一方で、売上金額に対する付加価値額の比率は、柳川市よりも低いのが実態です。

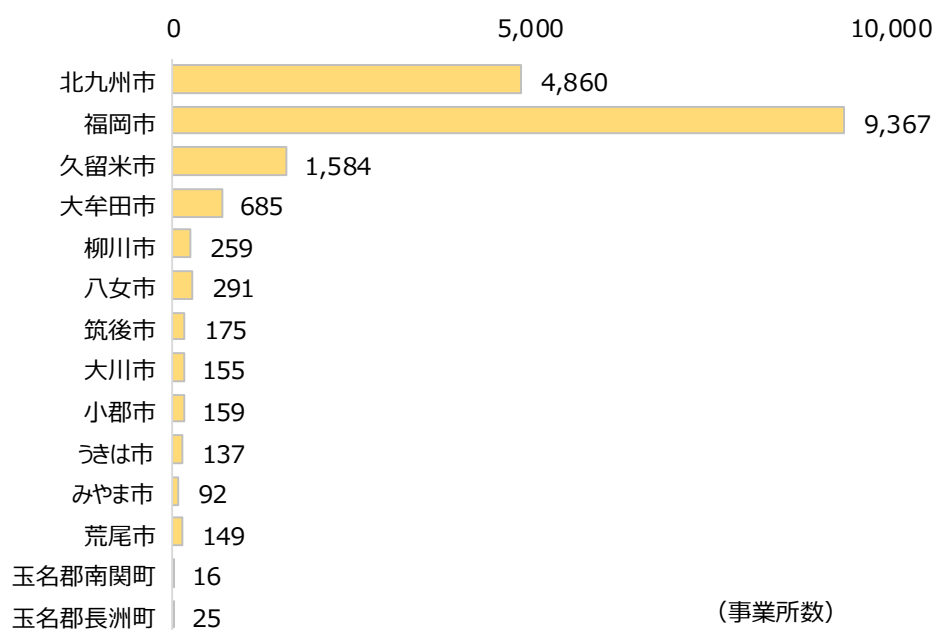
宿泊業・飲食サービス業における売上金額及び付加価値額の比較



出所：経済センサス活動調査（平成 28 年）

本市における飲食店事業所数は、県内では、福岡市、北九州市、久留米市に次いで多く、近隣の市町では最も多くなっています。

福岡県飲食店事業所数（民営）



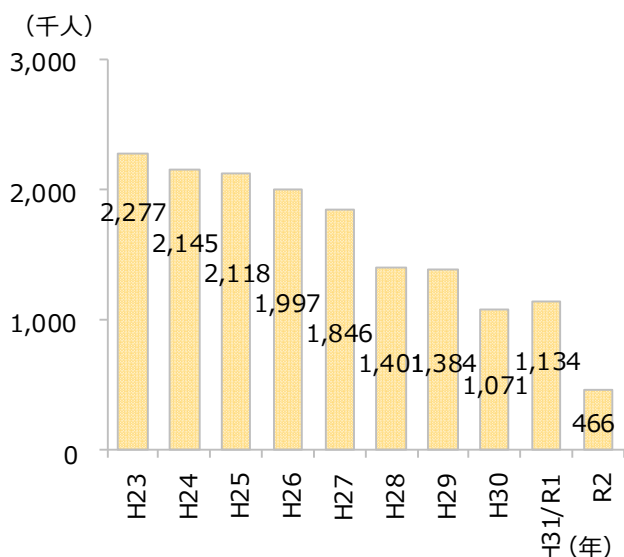
出所：経済センサス活動調査（平成 28 年）

2) 本市における観光の現状

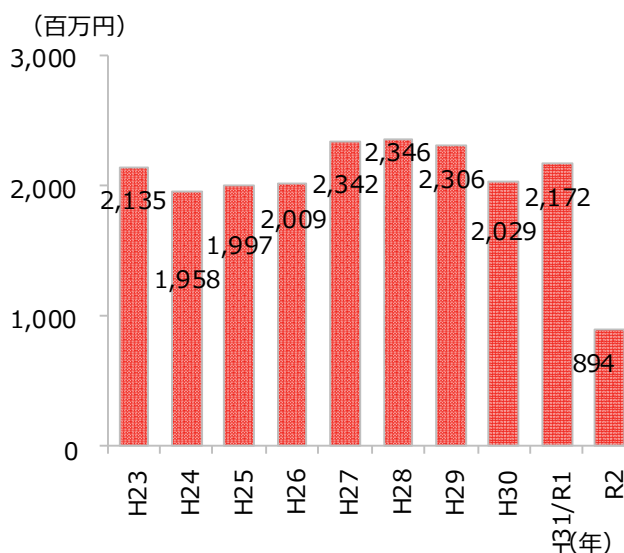
1 観光入込客数及び観光消費額の推移

本市を訪れる観光入込客数は年々減少していますが、観光消費額はほぼ横ばいで推移しています。なお、H27年からH28年にかけての観光入込客数※の減少は、調査基準変更により、公園等が調査対象施設から除外されたことに起因しています。R2年は、新型コロナウイルスの影響を受けています。

本市における観光入込客数の推移



本市における観光消費額の推移



出所：大牟田市（各年）

※「観光入込客数」

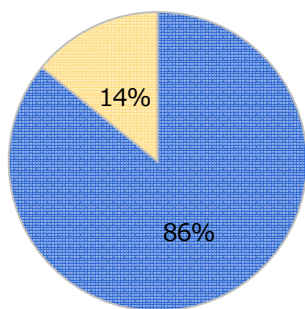
市（エリア）内の各観光地を訪れた観光客の延数

2 観光入込客の特徴

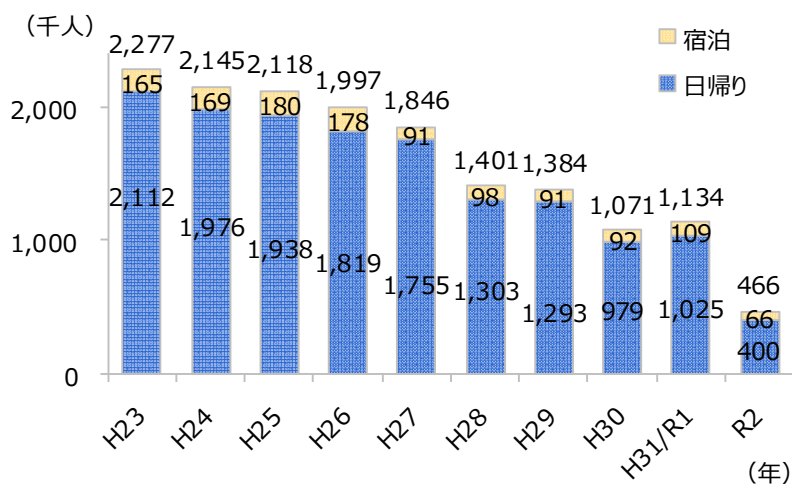
<日帰り・宿泊>

本市への観光入込客のうち、R2年は日帰り客が86%、宿泊客が14%を占めており、その傾向は、近年大きくは変わっていません。日帰り客の構成比が高い状態が続いています。

日帰り・宿泊客数の構成比
(R2年)



観光入込客数の推移



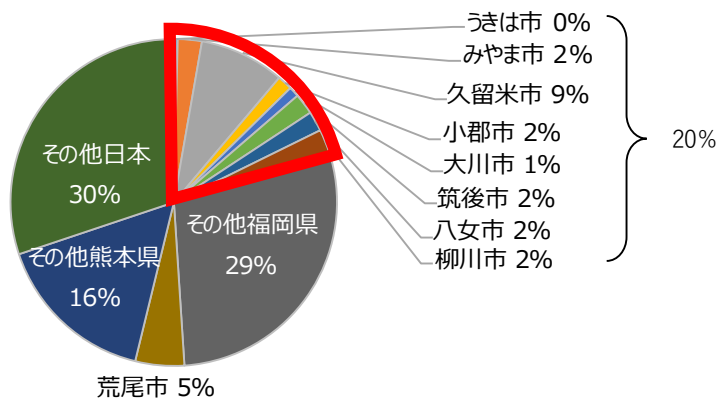
出所：大牟田市

<県内・県外>

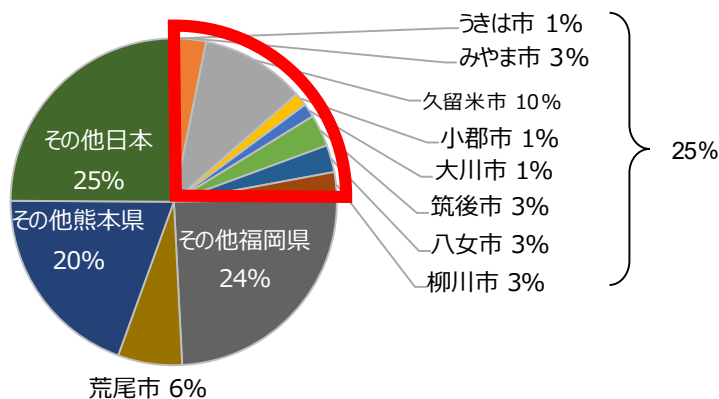
大牟田市観光消費動向調査によると、本市への来訪者は県内からが 49%を占めており、荒尾市を含む熊本県からの来訪者が 21%となっています。

施設別にみると、大牟田市動物園では県内からの来訪が 49%、宮原坑は 48%を占めています。また、熊本県からの来訪については、大牟田市動物園が 26%であるのに対し、宮原坑は 7%でした。

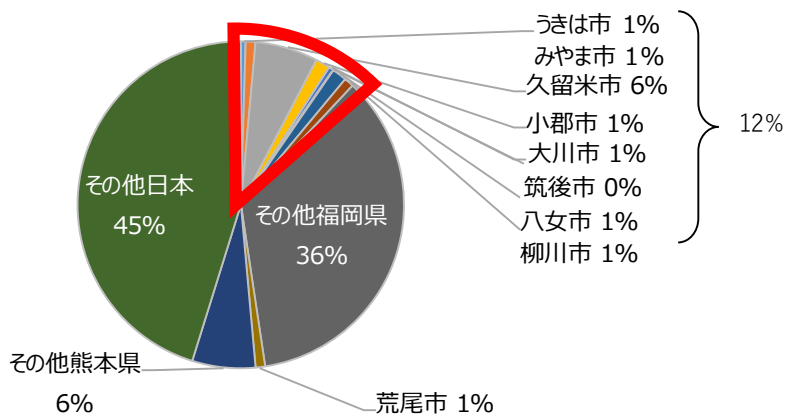
全体



大牟田市動物園



宮原坑（世界遺産関連施設）



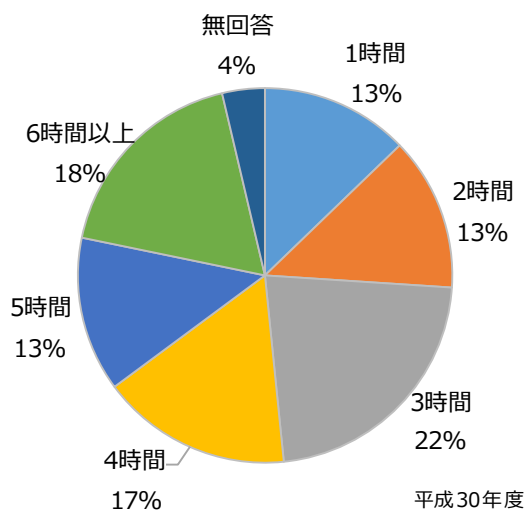
出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 30 年）

<予定滞在時間・立ち寄り市町>

本市への予定滞在時間は、3 時間以内とする回答が約半数を占めています。

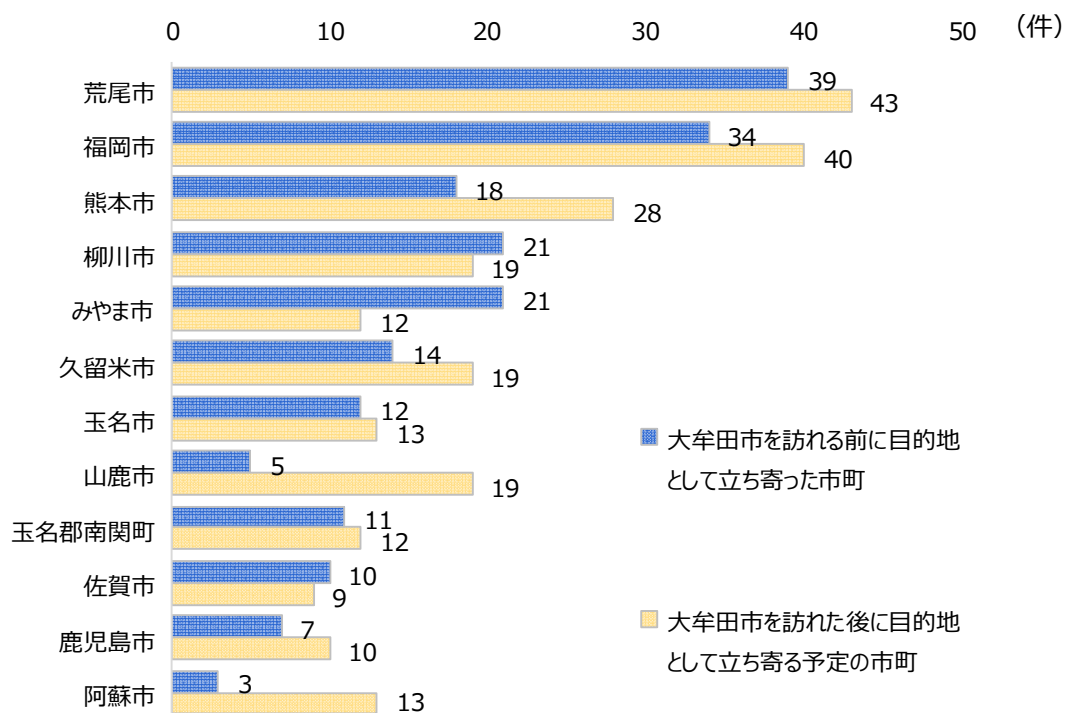
また、本市の近隣市町、もしくは福岡市、熊本市、佐賀市とあわせて訪れている人が一定数見られます。

予定滞在時間



出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 30 年）

立ち寄り市町



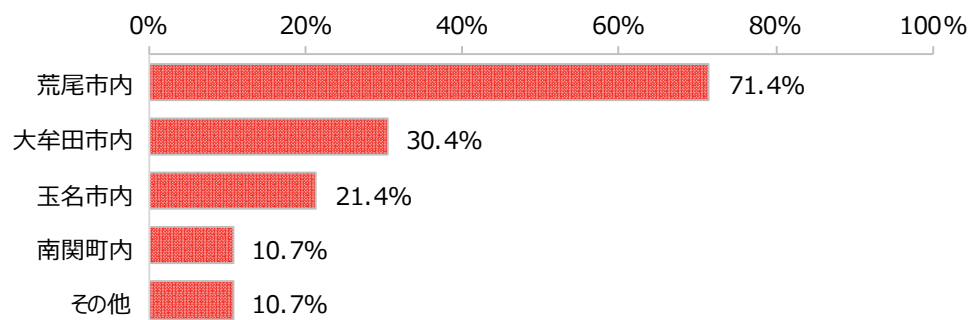
出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 30 年）

<宿泊状況・移動実態>

柳川市や荒尾市など、近隣に集客力のある観光地域があり、これらの地域をはじめとする有明圏域定住自立圏からの立ち寄り需要等が見込まれます。

荒尾市の調査によると、荒尾市を訪問する観光入込客のうち 1 割強が大牟田市動物園や三池港を訪問するなど、近隣市町から本市へ周遊する傾向も見られています。

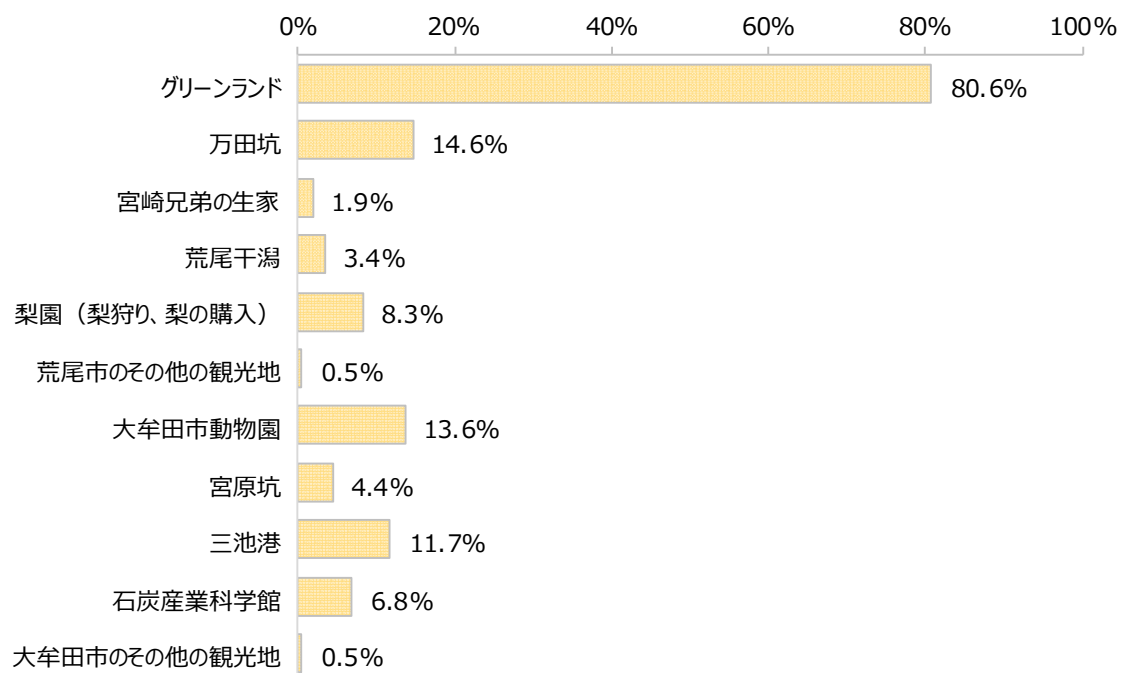
荒尾市に来訪した観光客の宿泊先



(注) 複数回答のため、合計は 100%とはならない。

出所：平成 29 年度荒尾市観光来訪者アンケート

観光入込客の移動実態



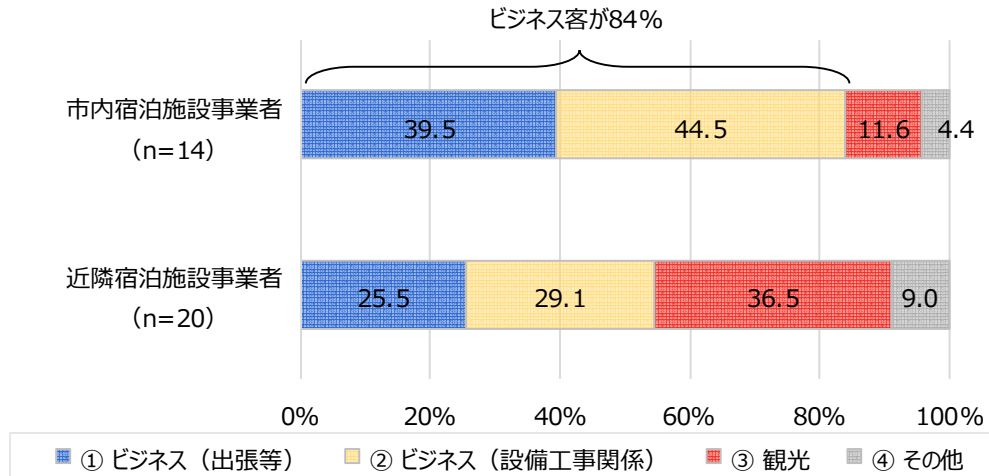
(注) 複数回答のため、合計は 100%とはならない。

出所：平成 29 年度荒尾市観光来訪者アンケート

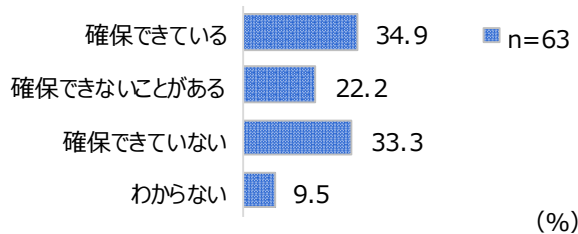
<市内の宿泊施設利用者の傾向>

市内の宿泊施設はビジネス客の利用が大半を占めています。また、宿泊先を確保できない来訪者が一定数存在し、結果として年間で相当の宿泊者が市外へ流出していると考えられます。なお、流出した宿泊者は、柳川市や荒尾市を中心に周辺市の宿泊施設を利用している傾向にあります。

宿泊施設利用時の利用目的



市内宿泊施設の予約状況



宿泊施設を確保できなかった市外宿泊者の施設利用総数（推定値）

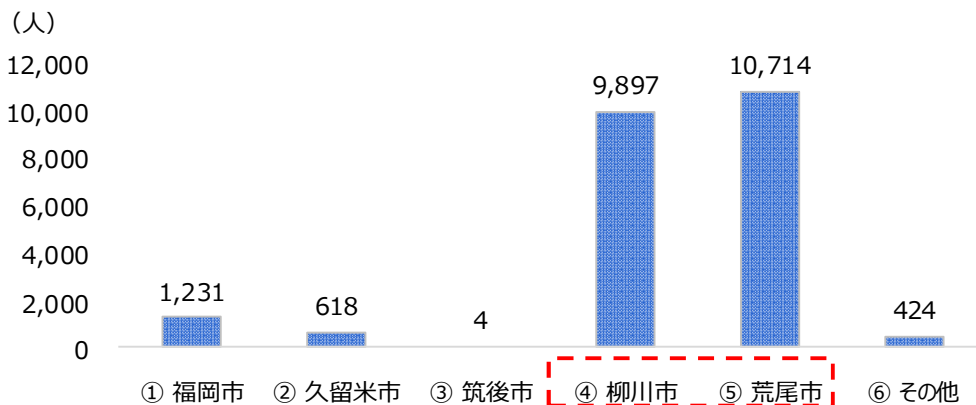
(単位：人)

	本社・取引先等からの来訪	プラント等のメンテナンス	合計
市外宿泊施設の年間利用総数	4,438	27,892	32,330
(1日当たり利用人数) ※365で除算	12	76	89

※試算方法

市外宿泊施設の年間利用総数 = 年間宿泊人数 × 滞在期間 × 流出割合

市外ホテルの年間利用人数（近隣自治体）

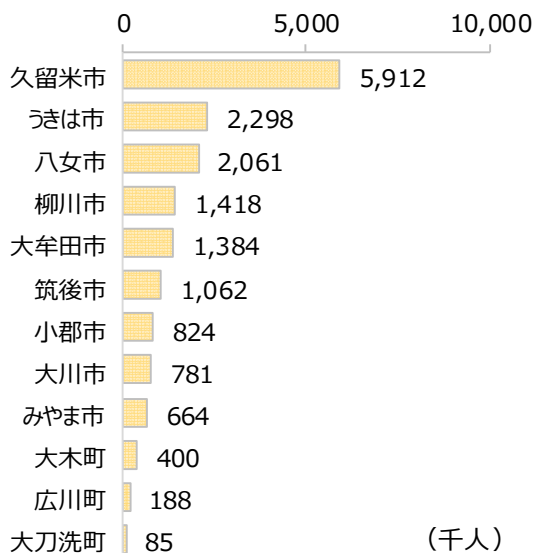


出所：令和2年大牟田市宿泊施設立地可能性調査

<観光入込客数・観光消費額>

本市への観光入込客数は柳川市と同規模ですが、観光消費額は柳川市の 1/3 程度です。

観光入込客数の比較



観光消費額の比較



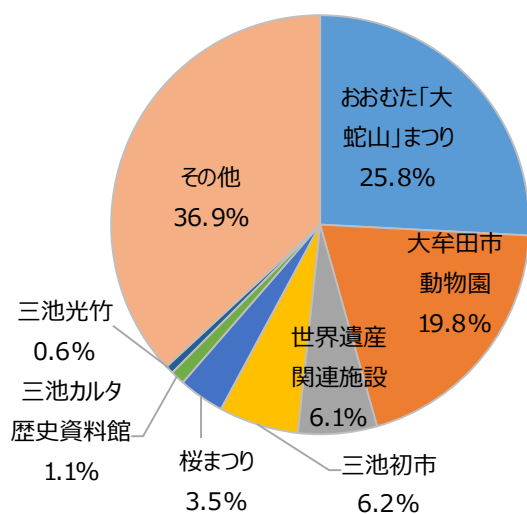
出所：福岡県観光入込客推計調査（平成 29 年）

3 観光入込客数及び観光消費額の構成比

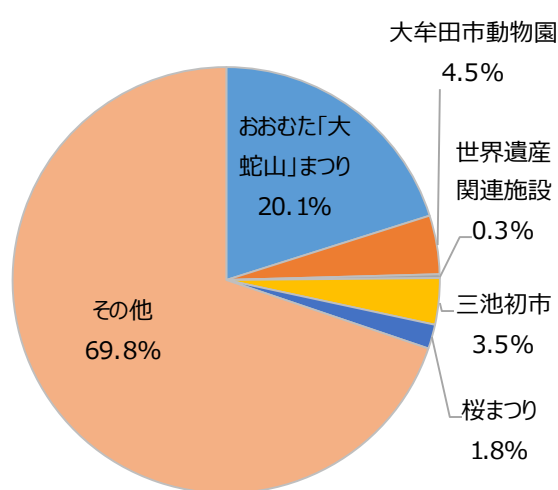
本市への観光入込客数は、世界遺産関連施設、大牟田市動物園、おおむた「大蛇山」まつりの合計で、本市全体の約 52%を占めています。また、観光消費額は、おおむた「大蛇山」まつりと大牟田市動物園の合計で、本市全体の約 24%を占めています。

世界遺産関連施設、大牟田市動物園、おおむた「大蛇山」まつりは、本市における主要な地域資源であることが分かります。

本市における観光入込客数の構成比



本市における観光消費額の構成比



出所：大牟田市

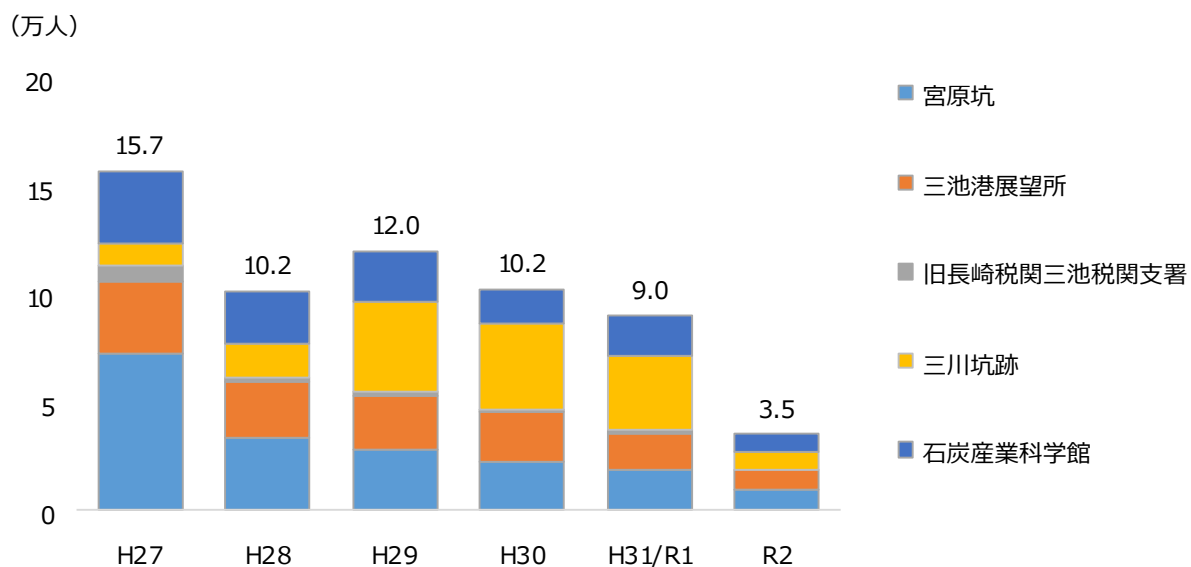
4 主要施設における観光入込状況等

ここで、観光入込客数及び観光消費額の多い、世界遺産関連施設・大牟田市動物園（ともだちや絵本美術館）・おおむた「大蛇山」まつりを主要な施設（資源）と捉え、それぞれの観光入込状況等を整理します。

<世界遺産関連施設>

世界遺産関連施設についてみると、H27 年が 15.7 万人であるのに対し、H31/R1 年には 9.0 万人に減少しています。また、H27 年は宮原坑を訪れる人が最も多かったのですが、H31/R1 年は三川坑跡への来訪者数が最多となっています。

世界遺産関連施設への観光入込客数の推移



	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2
宮原坑	72,849	33,723	28,300	22,965	18,502	9,177
三池港展望所	33,244	25,386	24,982	22,892	17,171	9,363
旧長崎税関三池税関支署	6,919	2,101	1,947	1,120	1,788	696
三川坑跡	10,305	15,855	41,436	39,806	34,358	7,815
石炭産業科学館	33,228	24,511	22,915	15,579	17,883	8,108
合計	156,545	101,576	119,580	102,362	89,702	35,159

「世界遺産巡りシャトルバス」の利用者を対象に実施したアンケート（実施期間：H27 年 11 月 21 日～12 月 27 日）によると、回答者（243 人）の居住地は、以下のとおりであった。

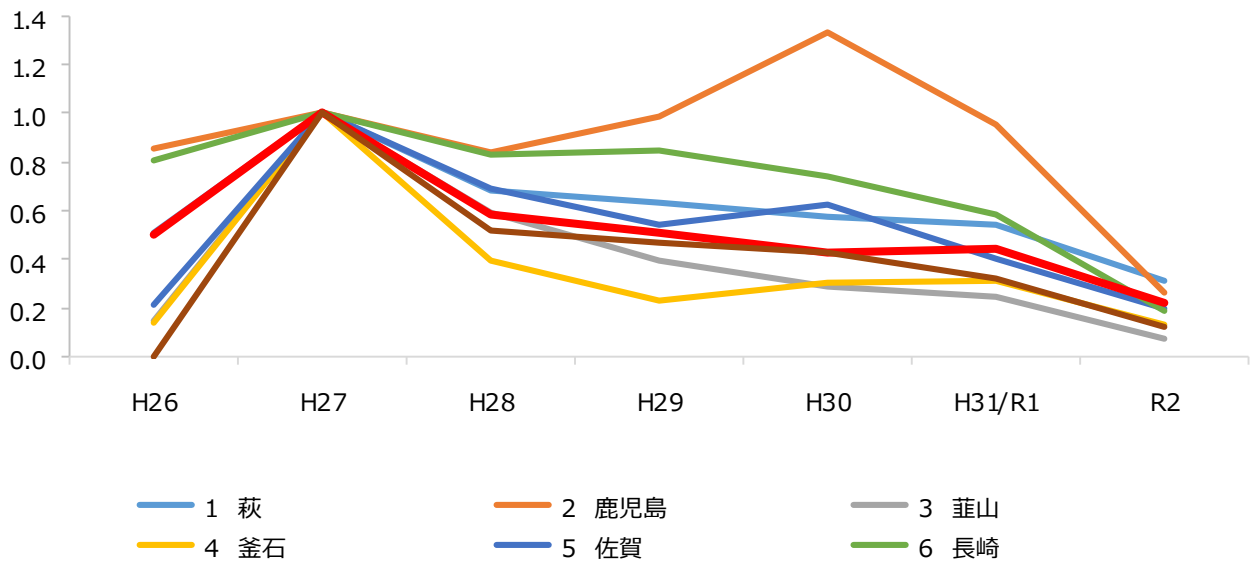
①大牟田市内：40 人（16.5%）
 ②荒尾市内：7 人（2.9%）
 ③福岡・熊本県内：111 人（45.7%）
 ④県外：85 人（35.0%）
 （県外の内訳）関東 36 人、東海 14 人、関西 8 人、中国・四国 8 人、九州・沖縄 16 人、他 3 人

(注) H29 より、港まつり会場が三川坑跡に変更となった。

出所：大牟田市

明治日本の産業革命遺産への入込客数の推移をみると、旧集成館（鹿児島）を除き、H27 年以降は減少傾向にあることが分かります。

明治日本の産業革命遺産の各構成資産への入込客数の推移 (H27=1.0)



(注) H30 年：NHK 大河ドラマ『西郷どん』放送

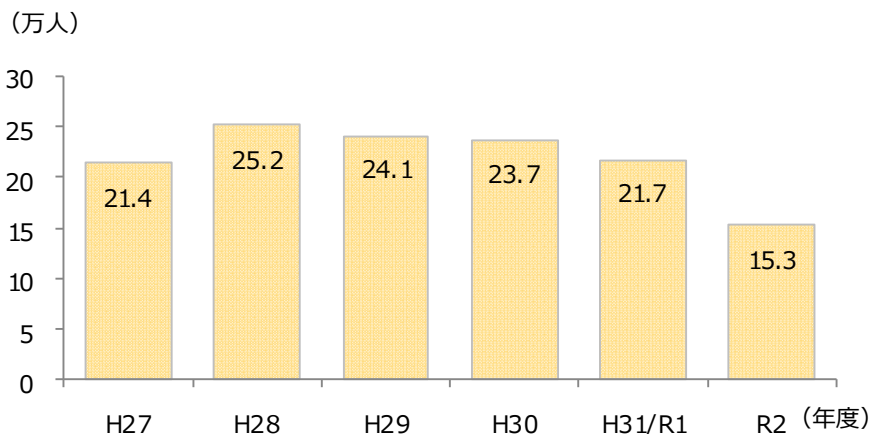
出所：「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の来訪者数調査表

以上のことから、本市では、世界遺産を地域の重要な資源として活用するためには、さらなる工夫の必要性があります。

<大牟田市動物園>

大牟田市動物園には、新型コロナウイルス感染症拡大前の H31/R1 年度までは毎年 20 万人以上が訪れており、来訪者数はほぼ横ばいで推移していました。

大牟田市動物園への来訪者数



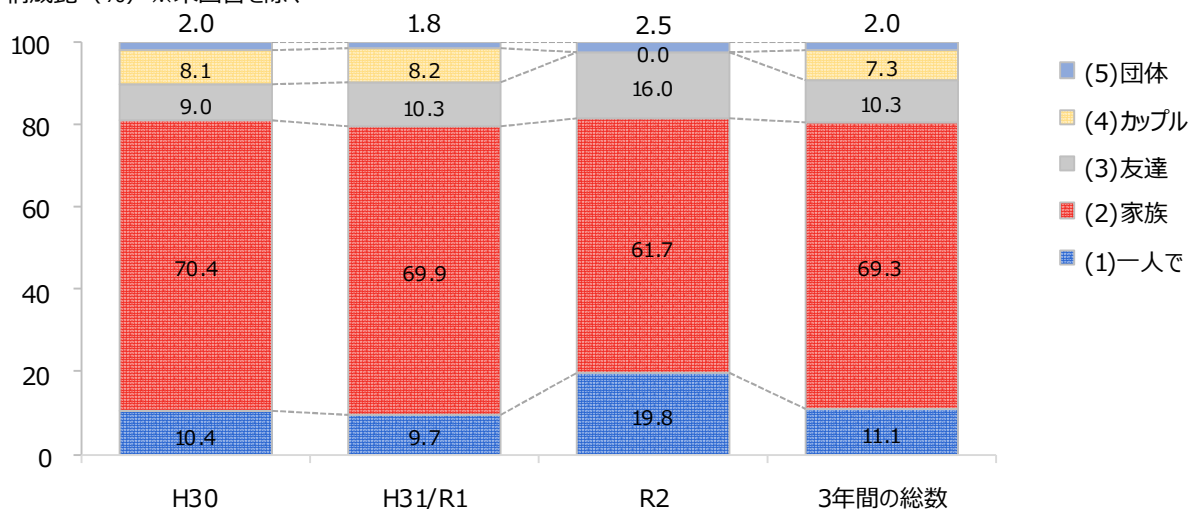
出所：大牟田市

大牟田市動物園が実施する月例アンケートによると、家族と一緒に訪れる人が全体の約 7 割を占めています。また、半数以上がピーター（来園回数が 2 回以上の回答者）です。

大牟田市動物園には、本市からの来訪者数が全体の 2 割弱、本市を除く福岡県内からの来訪者数が半数弱を占めています。熊本県内からも全体の 15% 程度に相当する来訪者があり、近隣市町からの来訪者が全体の 8 割程度を占めています。

大牟田市動物園への同行者

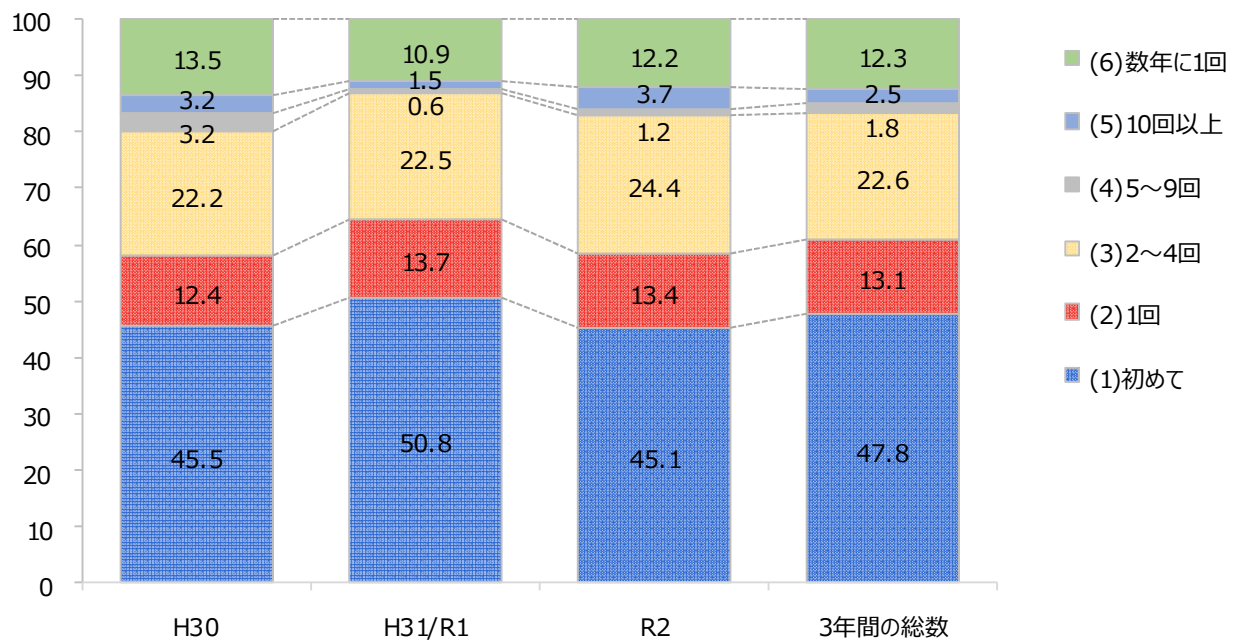
構成比 (%) ※未回答を除く



出所：大牟田市動物園月例アンケート（各年度）

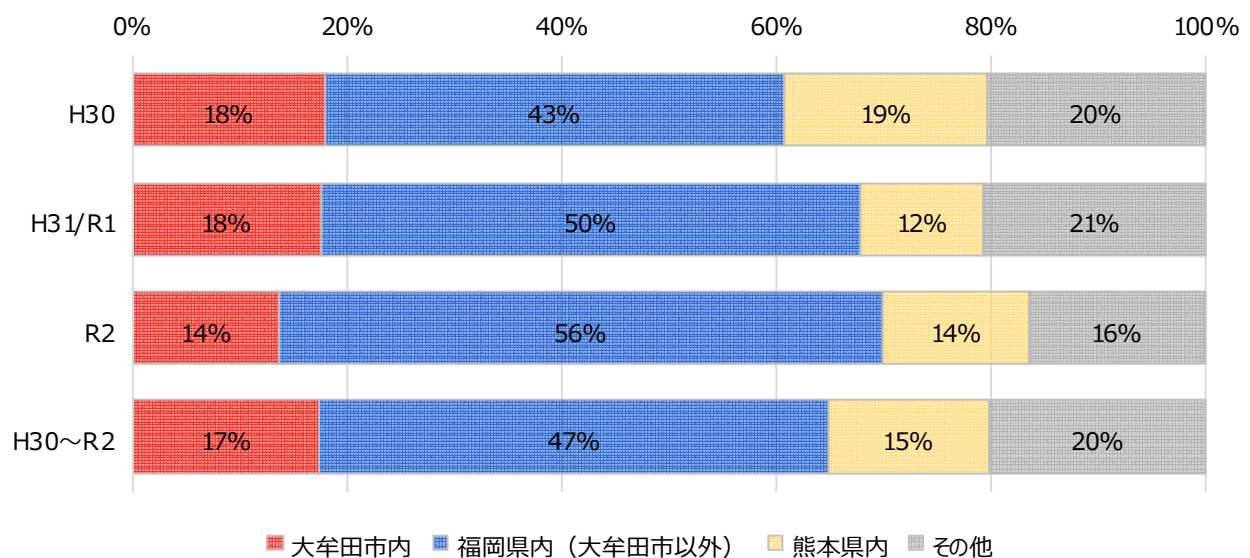
大牟田市動物園への来園回数

構成比（％）※未回答を除く



出所：大牟田市動物園月例アンケート（各年度）

大牟田市動物園来訪者の居住地



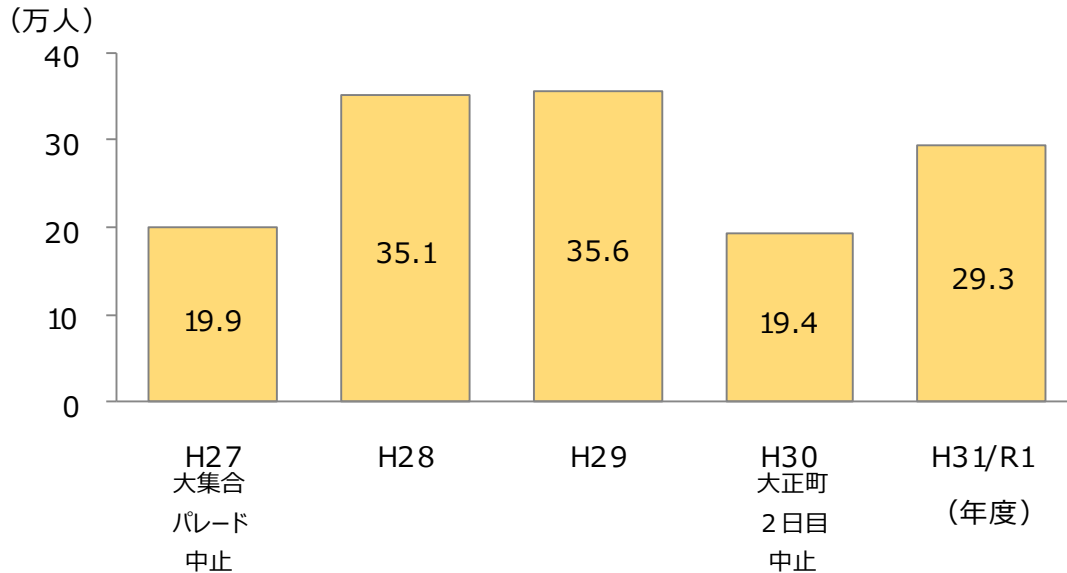
出所：大牟田市動物園月例アンケート（各年度）

<おおむた「大蛇山」まつり>

おおむた「大蛇山」まつりには、博多祇園山笠等には及ばないものの、地域の内外から数多くの人が訪れており、例年約 30 万人前後の来訪者数を誇ります。

なお R 2 年度、3 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期・中止されています。

おおむた「大蛇山」まつりへの来訪者数の推移



出所：大牟田市

県内で開催される規模の大きな祭りとの来訪者数の比較

祭り	来訪者	出所
博多祇園山笠	300 万人超	福岡市経済観光文化局 まつり振興課「News Release」(H30)
わっしょい百万夏まつり	157 万人	北九州市観光動態調査 (H31/R1)
小倉祇園太鼓	30 万人	北九州市観光動態調査 (H31/R1)
おおむた「大蛇山」まつり	29.3 万人	大牟田市資料 (H31/R1)
戸畑祇園大山笠・競演会	24 万人	北九州市観光動態調査 (H31/R1)

(注 1) 掲載の祭りの来訪者・消費実績等を横断的に整理した資料等がないため、各種資料を基に作成。

(注 2) おおむた「大蛇山」まつりは、港まつり、大蛇山関連行事、花火大会の来訪者数の合計数。

出所：各種資料を基に作成

(2) 本市が有する地域資源

本市には様々な地域資源があります。

改めて様々な地域資源を見つめ直し、観光面での活用の可能性等を検討します。

1) 大牟田の宝もの 100 選

20 世紀に築いたものや、守ってきたさまざまな“宝もの”の中で、21 世紀に残し、守り育てていきたいと思うものを市民から募集、選定し、大牟田市役所主査・主任会※が、発行したものです。

H27 年に世界文化遺産の構成資産となった宮原坑や三池港、大牟田市動物園等の地域資源の他に、大牟田弁や大牟田地区高齢者等 SOS ネットワーク等、市民がこれまで大切にしてきた文化や思いやりのある活動なども紹介されています。

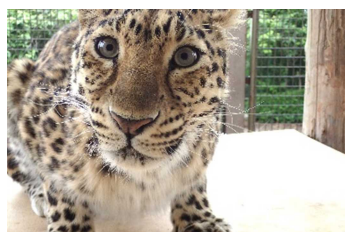
※「大牟田市役所主査・主任会」大牟田市役所に勤務する主査・主任で構成する互助組織

「大牟田の宝もの 100 選」一覧

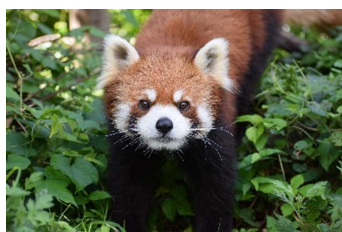
ジャンル	宝もの
自然・風景・文化	有明海、干拓、三池山、甘木山、稲荷山、焼石山と米の山断層、始新世動物群化石、米の山のアパッチ砦、岩本の長者岩、吉ヶ谷堤、農産物直売所、大牟田弁、三池公園、宮浦石炭記念公園、諏訪公園、延命公園、大牟田地区高齢者等 SOS ネットワーク
施設・建物	大牟田市庁舎、大牟田文化会館、地方独立行政法人大牟田市立病院、カルタックスおおむた、大牟田市石炭産業科学館、手鎌地区公民館、駛馬地区公民館、リフレスおおむた、御大典記念グラウンド、延命球場、大牟田市動物園、清里水源地、四ツ山配水池、大牟田観光プラザ・新大牟田駅観光プラザ、大牟田駅、旧大牟田商工会館、信号電材株式会社、不知火病院「海の病棟」、白仁家住宅、旧長崎税関三池税関支署庁舎

出所：大牟田市役所主査会「改訂版 大牟田の宝もの 100 選」（2017 年 3 月 8 日）

大牟田市動物園で出会える動物たち



アムールヒョウ



レッサーパンダ



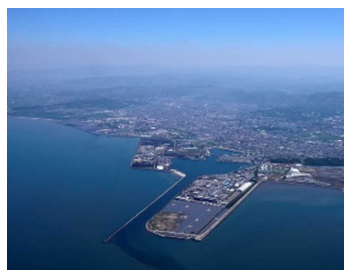
モルモット

「大牟田の宝もの 100 選」一覧（続き）

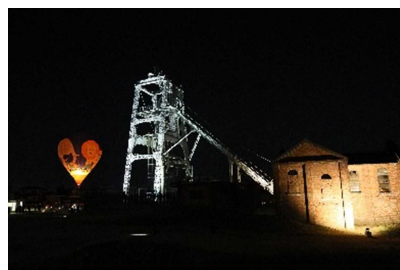
ジャンル	宝もの
炭鉱	宮原坑、三川坑跡、旧三池炭鉱専用鉄道、炭鉱鉄道、旧三川電鉄変電所、三池港、三井港倶楽部、人工島、旧三池集治監、三井化学工場群、石炭（燃える石）
歴史・戦跡	黒崎観世音塚古墳、萩ノ尾古墳、三池街道、早鐘眼鏡橋、三池陣屋の眼鏡橋、泉橋、高射砲陣地跡、防空監視哨、藤田町毘沙門堂戦跡、潜塚古墳
寺社	紹運寺、定林寺、法輪寺、慧日寺、「仙台奥さん」の墓、光圓寺本堂、倉永諏訪神社、稲荷神社、三笠神社、鳥塚町熊野神社、教楽来天満神社、普光寺
祭り	大蛇山まつり、炭坑節、黒崎の渦いね踊り、銭太鼓踊りとひゅうたん廻し、三池の水（臼）かぶり、三池初市、大牟田二十日えびす、玉川の米はかり踊り、竹灯籠一万本の秋の夕べ龍神伝説「三池光竹」、駿馬天満宮の鸞替えまつり
植物	四大丸のイチョウ、メタセコイア、国道 208 号線のケヤキ並木、ナンキンハゼ並木、黒崎公園のツツジ、黒崎の大樟、上内のイチイガシ、普光寺の臥龍梅、ヤブツバキ、下正原のシラカシ、土穴のエノキ、一ノ尾のアラカシ
動物	ムツゴロウ、ベニアジサシと海鳥類、諏訪川の生きものたち、ホタル、ベッコウトンボとハネビロトンボ、カスミサンショウウオ、キムラグモ

出所：大牟田市役所主査会「改訂版 大牟田の宝もの 100 選」（2017 年 3 月 8 日）

炭鉱関連の宝もの



三池港



宮原坑（夜間イベント）



三井港倶楽部

2) 主なイベント・花

本市では、年間をととして様々なイベントが開催されています。また、季節ごとに梅・桜や紫陽花等の花が咲き、地域内外で人気があります。

本市における主なイベント・季節の花一覧

	主なイベント	季節の花
1月	成人の日：水（白）かぶり 1月中旬：光の航路	
2月		2月下旬～：【梅（臥龍梅）】 普光寺
3月	3月1・2日：三池初市 3月24・25日：うそ替えまつり 3月下旬～：桜まつり	～3月上旬：【梅（臥龍梅）】 普光寺 3月下旬～：【桜】：延命公園、甘木公園、三池公園
4月	～4月上旬：桜まつり 4月20日前後：大牟田二十日えびす	～4月上旬：【桜】：延命公園、甘木公園、三池公園
5月		5月下旬～：【紫陽花】定林寺
6月		～6月中旬：【紫陽花】定林寺
7月	7月中旬：港まつり 7月第4土・日曜日：おおむた「大蛇山」まつり	
8月	8月11日（山の日）：花火大会	
9月	9月24・25日：うそ替えまつり 9月25日：銭太鼓踊りと瓢箪廻し	
10月		
11月	11月3日（文化の日）：炭鉱（やま）の祭典 11月3日（文化の日）：三池港浪漫フェスタ 11月中下旬：龍神伝説三池光竹 11月中旬：光の航路	11月中旬～下旬：【紅葉】普光寺参道
12月		

3) 本市のブランド

本市には、地元産の素材を使用したり、文化や土地にちなんで名づけられた食品等が数多くあります。大牟田商工会議所では、これらを「く〜うまか!おおむた認定ブランド※」として認定しています。

「く〜うまか!おおむた認定ブランド」の食品は 57（令和 4 年 1 月現在）あり、かすてら饅頭や高菜、有明海で採れた海苔等、本市の文化や自然の恵みから生み出された多彩な商品が認定されています。

※く〜うまか!おおむた認定ブランドは、脈々と受け継がれる"大牟田の DNA"-伝統を守りつつも工夫し、進化し、消費者を満足させるものを作りたい!という思いを感じられる、うまかもんの総称。

「く〜うまか!おおむた認定ブランド」一覧

ジャンル	商品名
大牟田発祥の銘菓	かすてら饅頭、草木饅頭
大蛇山ゆかりの逸品	大牟田大蛇山ドラドラ、ふるさと健康茶大蛇山、じゃじゃりこじゃん、大蛇山饅頭、山田屋謹製大判焼「大茶山」、大蛇の目（ソフトクッキー）
炭都の思い出	くろころみかん、大牟田炭都ロマン マロンチョコ、炭坑節、石炭クッキー、石炭クッキーのスミたん、えんとつフィナンシェ、炭都メロン、炭坑カレー、黒からし蓮根、ブラックまんじゅう、燃える石
心なごむ甘み	たいらぎ最中、不知火最中、不知火羊羹 3 種、蜂蜜丸芳露、雀の卵、初島、いなり山、臥龍梅、長崎屋のカステラ、有明の月、天草晩柑マドレーヌ
三池の名産・高菜	元祖三池ごまたかな、明太子高菜、のり高菜天、九州男児の素からし高菜、九州男児の素めんたい高菜、九州の春三池たかな漬、からし高菜、辛子高菜
愛される名店の味	マルナガ醤油ちくし、マルナガ醤油さしみ、二番の焼豚足、料亭新みなとの胡麻ダレ、料亭新みなとの鮭づけダレ、辛みなと漬、かなめ 本茶漬匠
有明海の恵み	山田屋特製有明味のり、有明海産焼海苔、有明の味貝柱・海茸粕漬、四ツ山漬（貝柱粕漬）
豊かな土の実り	上内みかん、玉川ぶどう、大牟田産 100%落花生、蜜柑搾り

出所：大牟田商工会議所「く〜うまか!おおむた認定ブランド」



かすてら饅頭



くろころみかん



石炭クッキー



からし高菜

（３）現状の整理及び観光振興に向けた課題

ここでは、これまでに整理した本市の観光を取り巻く現状を整理するとともに、本計画を検討するに当たり実施したワークショップ※で得られた意見等を踏まえ、今後の観光振興に向けた課題を整理します。

※ワークショップの概要については、資料編参照

１）人口・財政、観光関連産業の動向

- 本市は人口減少・少子高齢化が今後も進展することが予測され、社会の変容に適応した観光振興のあり方の検討が必要である。
- 本市は、従来からある地域資源を対象とする事業のほか、新しい資源の発掘にも取り組んできたが、観光入込客数の増加には結びついておらず、来訪者は減少傾向にある。
- 本市の産業構造は、「医療・福祉」、「卸売業・小売業」、「製造業」が規模の大きなものとなっている。これらの産業に比べ、観光関連産業である「宿泊業・飲食サービス業」の付加価値額や従業者数等の規模は小さい。
- 宿泊業・飲食サービス業のうち、飲食サービス業の占める割合が大きい。
- 本市における飲食店事業所数は、県内市町村では４番目に多く、近隣の市町では最も多い。

２）本市における観光の現状、入込客の特徴等

- 本市への観光入込客数は年々減少傾向にあり、観光消費額はほぼ横ばいで推移している。
- 世界遺産関連施設、大牟田市動物園、おおむた「大蛇山」まつりへの観光入込客数の合計は本市全体の５２％、観光消費額はおおむた「大蛇山」まつり、大牟田市動物園の合計で、約２４％を占める。
- 市民意識調査結果によると、市民が自慢できるものの上位３位は「おおむた『大蛇山』まつり」「世界遺産」「大牟田市動物園」となっている。
- 本市への観光入込客は日帰り客が９割を占めており、県外からの観光入込客は、５割を占める。各施設の利用者属性を踏まえると、熊本県、佐賀県からが多いものと考えられる。
- 宿泊施設利用者の多くはビジネス利用である。アンケート結果によると、宿を確保できない宿泊客数も一定数おり、周辺市（柳川市、荒尾市等）に宿泊する傾向がみられる。
- 観光入込客の行動特性をみると、周辺市とあわせて立ち寄る傾向がみられる。

3) 本市の観光振興に向けた課題や方向性等

- 観光消費額は、同程度の集客規模を有する周辺市と比べ必ずしも高くない。
- 世界遺産関連施設への観光入込客数は、世界文化遺産登録の翌年以降は、減少傾向にある。また、世界遺産の価値に対する本市民の理解は4割程度にとどまっている。
- 大牟田市動物園は、毎年約20万人が訪れ、地域内外から愛される動物園となっているが、施設・設備面の老朽化や利便性向上等の課題がある。
- おおむた「大蛇山」まつりは大きな集客力がある一方、天候等による影響も大きく、直近2年は新型コロナウイルス感染症の影響により開催されていない。
- 生徒・学生、観光関連団体職員等が参加するワークショップでは、世界遺産関連施設や大牟田市動物園、有明海の景観、道路・鉄道によるアクセス性などが、大牟田市の観光の強みとする一方、資源が生かされていないことが課題とする意見が多く得られた。
- 同ワークショップでは、今後の観光振興の方向性として、「資源の見つめなおし」「観光資源と飲食など多様な資源の連携」「世代や分野を超えた連携」等が重要とする意見などが得られた。
- 単なる地域資源への誘客にとどまらず、飲食等との連携を図り、付加価値を高めていく取り組みが必要である。
- 観光入込客の市内回遊や消費拡大の方策も検討する必要がある。
- 近隣市町への来訪者をターゲットとしたプロモーション、近隣市町との連携等が重要と考えられる。



©2016 大牟田市公式キャラクター
「ジャーフ」

3章 本市における観光振興の目指す方向と基本方針

(1) 目指す方向

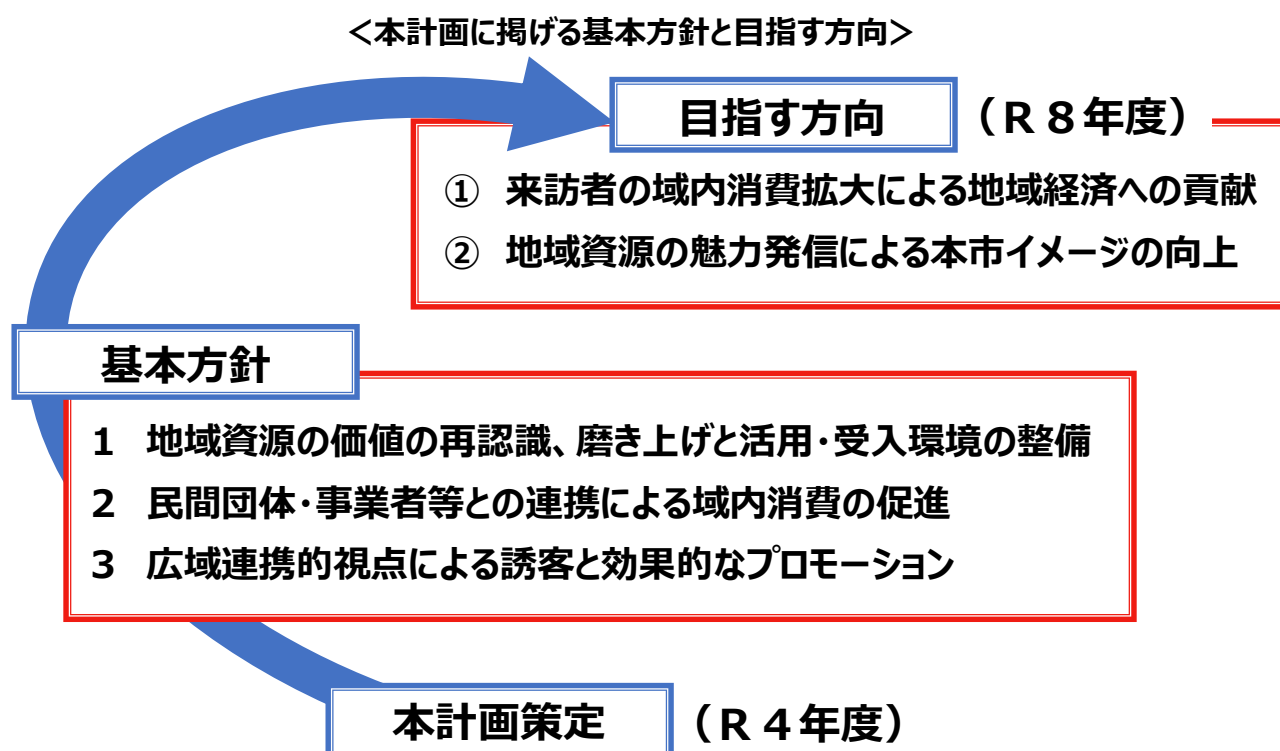
前の2章で述べた本市の観光振興に向けた課題や方向性等を受けて、目指す方向は、以下のとおりとします。

- ① 来訪者の域内消費拡大による地域経済への貢献
- ② 地域資源の魅力発信による本市イメージの向上

(2) 基本方針

目指す方向を実現するために、以下の3つの基本方針を置き、施策・事業を展開していくこととします。

- 1 地域資源の価値の再認識、磨き上げと活用・受入環境の整備
- 2 民間団体・事業者等との連携による域内消費の促進
- 3 広域連携的視点による誘客と効果的なプロモーション



次に、各基本方針の説明と、それぞれの基本方針に沿って実施する施策・事業の概要について記載します。

基本方針 1 地域資源の価値の再認識、磨き上げと活用・受入環境の整備

本市への観光入込客数が多い、「世界遺産関連施設」、「大牟田市動物園」、「おおむた『大蛇山』まつり」は、本市の地域資源の中では知名度が高く、また「まちづくり市民アンケート」で、いずれも市民が自慢できるものとして上位にあげられています。

一方、これらの地域資源もそれぞれに課題を抱えています。「世界遺産関連施設」は、来訪者が減少傾向にある点や、炭鉱関連施設の文化的な価値そのものへの市民の理解が十分でない点。「大牟田市動物園」は、施設・設備の老朽化への対応や今後の魅力向上。「おおむた『大蛇山』まつり」は、持続的に開催するための環境整備などがあります。

今後も本市が誇る地域資源を後世に伝え、市内外の方にその価値を伝えていくためには、改めて市民の地域資源に対する理解の向上を図り、それぞれが抱える課題への対応と地域資源の魅力を高めていく取組みのほか、ハード面・ソフト面での受入体制の充実を図る必要があります。

（施策・事業の概要）

本市を代表し、市民の貴重な財産ともいえる「世界遺産関連施設」、「大牟田市動物園」、「おおむた『大蛇山』まつり」をはじめ本市にある地域資源を、将来にわたって守り、育てていきます。そして、その魅力の向上を図ることにより本市イメージの向上に資する活用を促進します。

また、近年、民間で取り組まれている刀やアウトドア等の体験プログラムも地域資源の一つとして、その磨き上げや情報発信の支援、回遊ルートへの組み込みを行います。

あわせて、本市の地域資源の持つ価値をより分かりやすく伝えるために、ガイドンス機能の向上とガイドの育成を進め、さらに観光案内板の整備等により観光案内機能の充実を図ることで受入環境の整備を行います。また、市民自身が地域資源に関する理解を深め、その価値を再認識する取組みを行います。

問題意識

- 「世界遺産関連施設」、「大牟田市動物園」、「おおむた『大蛇山』まつり」は知名度が高く、市民にとっても自慢の資源。しかしながら、これらの資源が抱える課題は多い
- 本市が誇る地域資源を後世に伝え、市内外の方にその価値を伝えていく取組みが必要

施策・事業の概要

- 大牟田にある地域資源を、将来にわたって守り、育てる
- 資源の魅力を高め、本市のイメージの向上に資する活用を促進する
- 民間で取り組まれている各種体験プログラムとの連携や、本市の地域資源の持つ価値をわかりやすく伝える取組みを推進する
- 市民自身が地域資源の価値を再認識する取組みを推進する

基本方針 2 民間団体・事業者等との連携による域内消費の促進

本市における観光消費額は、同程度の観光入込客数の近隣市と比べ、高くないことが明らかになっています。これは、本市の地域資源の中では集客数の多い「世界遺産関連施設」や「大牟田市動物園」について、来訪者の消費が施設内にとどまっている点、また、「おおむた『大蛇山』まつり」に関しては、消費は年間を通してのものではなく、2日間のまつり期間に限られ、また天候にも左右される点が要因として考えられます。

一方、本市には、かつての石炭産業の賑わいを背景として、多くの飲食店が存在し、その店舗数は、周辺の市町よりも多く見られます。加えて近年、若手経営者等による趣向を凝らした魅力的な店舗の開店も進んでおり、これらは、本市の強みと捉えられます。

こうしたことから、単に観光施設等への誘客だけを目的とした施策を中心に検討するのではなく、民間団体・事業者等と連携し、来訪者に対して、飲食店等への回遊を促すことで消費に結びつけていく連続的な施策の展開が求められています。

（施策・事業の概要）

本市の主要な地域資源である「世界遺産関連施設」や「大牟田市動物園」等への訪問を目的としただけでなく、ビジネス目的も含めて、本市への来訪者に対し、市内飲食店・物販等へつなぐ施策を展開し域内消費の拡大を図ります。

そのためには、民間団体・事業者等と連携し、観光施設等で行われるイベントの際の出店支援、大牟田の「食」「土産品」の魅力を向上させる支援、ナイトタイムエコノミーの推進やスタンプラリー等の手法により来訪者が実店舗へ足を運ぶ流れを作ります。

また、民間団体・事業者の発意により行われるイベント等に対し、行政が積極的に情報発信等の協力・支援を行うことで、行政と民間が得意分野を活かして、まちに好循環が生まれるような関係を構築していきます。

問題意識

- 本市の観光消費額は、来訪者の消費が施設内にとどまっていることなどの要因から、観光入込客数が同程度の近隣市と比べ、高くない
- 一方、本市には多くの飲食店が集積しており、若手経営者等による趣向を凝らした魅力的な店舗の開店も進んでおり、強みである
- 観光施設等への誘客に加え、来訪者を飲食店等へ回遊を促す施策の展開が求められている

施策・事業の概要

- 本市への来訪者を市内飲食店・物販等へつなぐ施策を展開し、域内消費の拡大を図る
- 域内消費拡大に向けたイベントや食・土産品の開発・販売への支援、ナイトタイムエコノミーの推進等を図る

基本方針 3 広域連携的視点による誘客と効果的なプロモーション

これまで本市は、従来からある地域資源を中心とする観光施策のほか、新しい資源の発掘による誘客策に取り組んできましたが、観光入込客数は減少してきており、本市単独での来訪者の獲得には限界があることが分かってきています。

また、本市への来訪者の特徴は、日帰り客が 9 割を占め、県内及び近隣県からの来訪が多く、行動特性を見ると、周辺市とあわせて立ち寄る傾向があります。

こうしたことから、誘客のターゲットについては、まず、近隣の有明沿岸市町等を第一に、情報発信と効果的なプロモーションを行います。さらに、近隣の市町を訪れる方の本市への立ち寄りを意識した誘客の視点を取り入れ、広域連携的視点により来訪者を相互に送客しあう取組みがより重要になってきます。

(施策・事業の概要)

本市が中心市を担っている「有明圏域定住自立圏推進協議会広域観光振興部会」や構成団体として参画している「JR 沿線ちくご観光連絡会」・「西鉄沿線観光活性化協議会」での取組みを基本的な柱として、相互の情報発信や誘客の促進を図ります。さらに、有明海の魅力と交通インフラを活用した広域連携による誘客を検討します。

また、来訪者を呼び込むために、目的やターゲットを捉えた情報発信を行う必要があることから、来訪者の特徴に関する情報収集や把握を行い、現在は点在化している観光情報を集約・一元化した新たなホームページの制作を行います。これにより、観光施設、飲食店、宿泊施設、お土産、体験プログラム、回遊ルート、キャンペーンやイベントの情報を一元化し、情報発信のための基盤を整備します。

そして、このホームページでの情報発信だけでなく、アクセス解析により、来訪者の獲得のほか、消費拡大や再来訪につなげていきます。

問題意識

- 本市単独での来訪者の獲得には限界がある
- 本市の来訪者は、日帰り客が 9 割を占め、県内及び近隣県からの来訪が多い。周辺の市町とあわせて立ち寄る傾向がある
- まず、近隣の有明沿岸市町等を誘客のターゲットとしていくことが考えられる。また、広域連携的視点により、来訪者を相互に送客しあう取組みがより重要となっている

施策・事業の概要

- 有明圏域定住自立圏等、広域の枠組みの連携強化による誘客を推進する
- 来訪者の特徴に係る情報収集等を行い、目的やターゲットを捉えた情報発信を、新たなホームページをとおし一元的に行う
- アクセス解析等を行い、来訪者の獲得のほか、消費拡大や再来訪につなげる

4章 重点施策と主な事業

各基本方針に沿って事業を進めるに当たり、本計画の対象期間となる今後5年間で注力する施策は以下のとおりです。

基本方針1 地域資源の価値の再認識、磨き上げと活用・受入環境の整備

今後5年で注力する施策

- ① 地域資源の保全、活用
- ② 地域資源の魅力向上
- ③ 受入体制の充実と市民参画の環境づくり
- ④ 観光案内機能の充実

基本方針2 民間団体・事業者等との連携による域内消費の促進

今後5年で注力する施策

- ① 域内消費拡大に向けたイベント等の支援
- ② 大牟田の「食」「土産品」の開発・販売支援
- ③ ナイトタイムエコノミーの推進
- ④ 誘客及び域内回遊施策の実施

基本方針3 広域連携的視点による誘客と効果的なプロモーション

今後5年で注力する施策

- ① 有明圏域定住自立圏等、広域の枠組みの連携強化による誘客
- ② 目的や誘客層に合わせた戦略的な情報発信の推進

次ページ以降には、上記に示す各施策の下で、取組みを進める事業を掲げています。

各施策を進める具体的な事業について

関連する事業がある場合、（基本方針〇―施策〇―事業〇と関連）と示しています。

基本方針 1 地域資源の価値の再認識、磨き上げと活用・受入環境の整備

【施策①】地域資源の保全、活用

（事業 1） 世界遺産関連施設の管理・活用

（基本方針 1－施策③－事業 1. 2. 3 と関連）

- （内容）
- ・世界遺産関連施設の管理業務及びガイド業務の円滑な運用
 - ・ハード、ソフト両面でのガイド機能（問合せ、申込み等を含む）の改善と、有料化等の検討
 - ・地域や学校等と連携した保全（SDGs の視点）活動の展開
 - ・民間事業者や学校等と連携したイベントの開催等による資源の活用
- （基本方針 2－施策①－事業 1 と関連）



宮原坑

【推進主体】 市、ガイド団体、民間団体、地域団体、学校等

（事業 2） 大牟田市動物園（ともだちや絵本美術館）の管理・活用

- （内容）
- ・「動物福祉」など、特徴ある取組みの推進
 - ・「ともだちや絵本美術館」の円滑な運営と、動物園との一体的な魅力づくり
 - ・老朽化した施設の改修、リニューアル等の計画的な整備
 - ・動物園（指定管理者）と連携した、飼育動物の健康維持と展示の魅力向上等
 - ・新総合体育館をはじめ延命公園エリア整備と連動した魅力づくり
- （基本方針 1－施策④－事業 4 と関連）



大牟田市動物園でのハズバンドリートレーニング

【推進主体】 市、指定管理者、民間団体、地域団体等

（事業３） おおむた「大蛇山」まつりの活用

- （内容）
- ・安心、安全にまつりが開催されるための環境整備
 - ・まつりが将来にわたり継承されるための、必要な担い手づくり
 - ・持続可能なまつり運営のための財務体制の検討
 - ・消費拡大等につながるような、まつり行事や飲食店等との連携の検討
 - ・市の活性化につながるようなまつり行事の在り方検討
（基本方針２－施策①－事業１と関連）



おおむた「大蛇山」まつり

【推進主体】 市、観光協会、商工会議所、まつり振興会、地域団体、民間団体等

（事業４） 多様な地域資源の活用

- （内容）
- ・延命公園、諏訪公園等におけるイベントの実施、公園内での観光情報の提供及び観光面での活用検討（基本方針１－施策①－事業２と関連）
 - ・三池山や甘木山、有明海など、様々な自然についての活用の検討
 - ・臥龍梅や桜など、季節に応じた観光素材についての活用の検討
 - ・神社仏閣や伝統行事、文化財等、歴史的価値を活かしたテーマやルートの検討
 - ・工場群など、大牟田ならではの地域資源の発掘と活用の検討
（基本方針２－施策③－事業１と関連）



白かぶり

【推進主体】 市、観光協会、地域団体、民間団体等

【施策②】地域資源の魅力向上

（事業１） 体験プログラムの磨き上げ及び活用

- （内容）
- ・観光ニーズや新たなライフスタイルの変化に合わせた体験プログラムの造成
 - ・民間の様々な取組みについて、ホームページやパンフレット等、多様な媒体での情報発信等による支援
（基本方針３－施策②－事業２と関連）



日本刀試し斬り

【推進主体】 市、観光協会、民間団体、地域団体等

（事業２） 回遊ルートの提案

- （内容）
- ・年齢や旅の形態（個人・団体等）、志向等を意識した回遊ルートの造成
 - ・回遊ルートの効果的、効率的な情報発信
（基本方針３－施策②－事業２と関連）
 - ・広域的な連携や取組みによる回遊ルートの造成と情報発信
（基本方針３－施策①－事業１．２と関連）



【推進主体】 市、観光協会、民間団体、地域団体等

【施策③】受入体制の充実と市民参画の環境づくり

（事業１） 世界遺産関連施設のガイダンス機能の見直し （基本方針１－施策①－事業１ と関連） （基本方針１－施策③－事業２．３ と関連）

- （内容）
- ・世界遺産関連施設のガイド予約及びガイド機能の一元化などの検討



石炭産業科学館

【推進主体】 市、観光協会、民間団体、地域団体、NPO 等

【事業２】 ガイドの育成・仕組みの再構築

（基本方針１－施策①－事業１ と関連）

（基本方針１－施策③－事業１．３ と関連）

- （内容）
- ・大牟田観光協会等と連携した観光ガイドの育成
 - ・世界遺産関連施設を含む、定点配置ガイド、移動ガイドの在り方の整理・検討
 - ・来訪者の利便性やガイドスキル等の観点から、料金や予約の体系の整理・検討



ボランティアガイド

【推進主体】 市、観光協会、民間団体、地域団体、NPO 等

【事業３】 市民の参加推進と環境づくり

（基本方針１－施策①－事業１ と関連）

（基本方針１－施策③－事業１．２ と関連）

- （内容）
- ・観光ガイドとめぐるまち歩きや講座の実施による、市民の地域資源に対する理解の向上（意識醸成）
 - ・小学校におけるこどもガイドをはじめとした、市内教育機関における地域資源についての学習
 - ・新たな担い手となる人材育成のための環境づくり



駛馬小学校こどもボランティアガイド

【推進主体】 市（教育委員会）、観光協会、民間団体、地域団体、NPO 等

【施策④】観光案内機能の充実

（事業１） 観光案内板や誘導サインの整備

- （内容）
- ・観光案内板や誘導サイン等の現状把握、確認等
 - ・建替えや補修、又は撤去等が必要な案内板、サイン等についての対応策検討
 - ・年次の計画的な整備の実施
 - ・市以外（国、県、民間等）が設置している案内板、サイン等との相互連携等



観光案内板

【推進主体】 市、観光協会、関係団体等

（事業２） 交通事業者との連携

- （内容）
- ・交通事業者との観光情報の共有及び連携による、利便性向上の取組みの推進
 - ・公共交通機関（JR 鹿児島本線、九州新幹線、西鉄天神大牟田線、西鉄バス、市内タクシー、三池島原ライン）を利用した回遊ルート の提案やその情報発信等
（基本方針 3－施策②－事業 2 と関連）
 - ・鉄道や航路等と自転車を併用した、ルートやプログラムの提案等
 - ・交通事業者と連携した誘客事業



西鉄ラッピングバス

【推進主体】 市、観光協会、民間事業者（交通事業者）等

成果指標（K P I）		
重要成果指標	主要施設の入場者数 （動物園、石炭産業科学館、観光物産館）	目標値 前年の実績値より年間 2%の伸び※
参考指標	主要施設の入場者数 ・動物園 （R2 実績 152,993 人） ・世界遺産関連施設 （R2 実績 35,159 人） ・観光物産館 （R2 実績 25,776 人）	過年度との経年変化の分析を行う

※新型コロナウイルス発生前後で大幅な差があるため、目標値は人数の伸びとしない。

年度ごとの取組み内容					
	R4	R5	R6	R7	R8
施策 1	地域資源の管理・活用				
施策 2	体験プログラム・回遊ルートの造成、磨き上げ及び活用				
施策 3	ガイドの予約一元化や有料化に向けた検討			新しいガイダンス手法での運用	
施策 4	観光案内板等の計画的な更新の実施				

基本方針 2 民間団体・事業者等との連携による域内消費の促進

【施策①】域内消費拡大に向けたイベント等の支援

（事業 1） イベント等と連携した域内消費拡大事業

- （内容）
- ・延命公園、諏訪公園や世界遺産関連施設でのイベント時における民間事業者の出店の支援等
 - ・イベントの主催者や関係者に向けての、新総合体育館や市内の運動施設、さらには宿泊施設や飲食店などの情報発信
 - ・イベントを通じて、実際の飲食店等に誘うような仕掛けとその取組み
（基本方針 1－施策①－事業 3 と関連）
 - ・商店街イベントやまちゼミなど、商業振興を目的としたイベント等との連携
（基本方針 3－施策②－事業 2 と関連）



新総合体育館 北東鳥瞰パース図

【推進主体】 市、観光協会、商工会議所、民間事業者等

（事業 2） 観光イベントへのプロモーション支援 （基本方針 3－施策②－事業 2 と関連）

- （内容）
- ・市内事業者が、県や他自治体でのイベント等へ出展が図りやすいよう、情報提供や手続き面での支援等
 - ・販路を拡大し継続的な売上げ増につながるような取組みや情報発信等の支援



【推進主体】 市、観光協会、商工会議所、民間事業者等

【施策②】大牟田の「食」「土産品」の開発・販売支援

（事業１） 「食」「土産品」の開発及び磨き上げ

- （内容）
- ・事業者が物産の開発を図るような取組みに対しての、国、県、市の施策等の情報提供
 - ・飲食関係団体等とともに、新たな「食」や「土産品」等に関するフードコンペや食イベント等の検討



【推進主体】 市、観光協会、商工会議所、民間事業者等

（事業２） 物産品等のプロモーション機会の提供

- （内容）
- ・市内事業者への、市内外で開催される物産イベント情報や出展機会の提供
 - ・商工会議所の「く〜うまか！おおむた認定ブランド」等を活用した情報発信
 - ・広域での連携による、物産品等のプロモーションの取組み



く〜うまか！おおむた認定ブランドロゴ

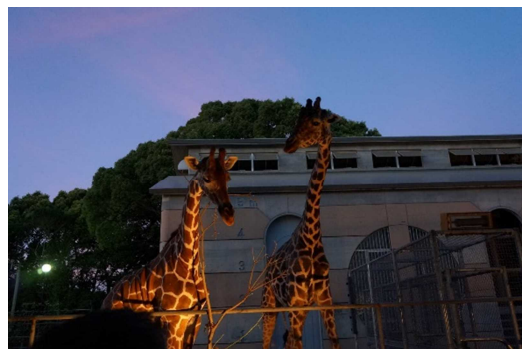
【推進主体】 市、観光協会、商工会議所、民間事業者等

【施策③】ナイトタイムエコノミーの推進

（事業１） 資源の夜間活用

（基本方針１－施策①－事業４ と関連）

- （内容）
- ・「光の航路」や「夜の動物園」などの実施と、「工場夜景」等を活用した夜型ツアーの企画、試行等
 - ・「夜のまち歩き」の企画、試行等



夜の大牟田市動物園

【推進主体】 市、観光協会、商工会議所、民間事業者（飲食店）等

【事業2】 飲食等を活用したイベント等の実施

- （内容）
- ・商店街や飲食店等と連携した、夜の飲食イベントの推進
 - ・夜の飲食店で使えるクーポンブックの作成等
 - ・ビジネス等、観光以外の目的の宿泊客も対象にした飲食への誘客



【推進主体】 市、観光協会、商工会議所、民間事業者（飲食店）等

【事業3】 宿泊施設の充実と宿泊客の呼び込み

- （内容）
- ・新增設のための補助金を活用した、宿泊施設の立地促進
 - ・交流人口の増加につながるコンベンション機能の充実
 - ・宿泊施設との連携による観光施設への誘客



【推進主体】 市、観光協会、商工会議所、民間事業者（宿泊事業者）等

【施策④】誘客及び域内回遊施策の実施

【事業1】 誘客及び域内回遊事業

- （内容）
- ・観光関連施設と飲食店との回遊性を高めるスタンプラリーなどの事業の企画、実施
 - ・電子クーポン等新たな先進技術を活用した回遊策や消費拡大施策の検討、実施
 - ・観光物産館や路面電車 204 号を活用した情報発信と域内消費拡大事業



【推進主体】 市、観光協会、商工会議所、民間事業者（飲食店）等

成果指標（K P I）		
重要成果指標	経済波及効果	R4 年度：測定方法の検討と必要なデータの取得等 R5 年度：指標及び目標値(「設定指標の●%増」など)」の設定、運用
参考指標	・宿泊者数 (R1 実績 109,342 人)	過年度との経年変化の分析を行う

年度ごとの取組み内容					
	R4	R5	R6	R7	R8
施策 1	域内消費拡大に向けたイベント等の支援				
施策 2	大牟田の「食」「土産品」の開発・販売支援				
施策 3	夜型観光モニターツアーの実施	夜型観光の活用			
施策 4	誘客及び域内回遊事業				

基本方針3 広域連携的視点による誘客と効果的なプロモーション

【施策①】有明圏域定住自立圏等、広域の枠組みの連携強化による誘客

（事業1） 有明圏域定住自立圏推進協議会広域観光振興部会での取り組み

- （内容）
- ・広域観光振興部会第二次アクションプラン（R3～7年度）に掲げる各事業等の推進
 - ①連携強化～情報・人・アクセスで地域をつなぐ～
 - ②情報発信強化～圏域内外へのPRの強化～
 - ③受入体制強化～時代の求めに対応する受入体制づくり～
 - ④食を中心とした資源の魅力強化～食を中心とした資源の活用～



有明圏域定住自立圏推進協議会
広域観光振興部会
第二次アクションプラン

有明圏域定住自立圏推進協議会
広域観光振興部会
令和3年3月

有明圏域定住自立圏推進協議会
広域観光振興部会第二次アクションプラン

【推進主体】 圏域構成自治体（大牟田市、柳川市、みやま市、荒尾市、南関町、長洲町）

（事業2） 多様な広域の枠組みによる取り組み

- （内容）
- ・JR 沿線ちくご観光連絡会や西鉄沿線観光活性化協議会等の構成団体が連携して行う、プロモーションや誘客事業等への参画
 - ・有明海沿岸地域の魅力と交通インフラ（有明海沿岸道路、三池島原ライン等）を活用した広域連携の推進



JR 沿線フレンズマルシェ

【推進主体】 市、構成団体等

（事業3） 広域の枠組みを活用した情報発信と誘客

- （内容）
- ・広域の枠組みを活用した、本市観光情報の広域への発信
 - ・本市への立ち寄り観光を意識した、広域の枠組みでの回遊の促進



【推進主体】 市、観光協会

【施策②】目的や誘客層に合わせた戦略的な情報発信の推進

（事業１） ターゲットの絞り込みと志向に応じた情報発信の強化

- （内容）
- ・来訪者の来訪目的や属性、志向及び潜在的な需要の情報収集と把握
 - ・目的やターゲットに応じた情報の内容や発信エリアを選定するなどの、より効果的な情報発信



【推進主体】 市、観光協会、商工会議所、民間事業者等

（事業２） ホームページの充実やターゲットに応じた SNS 等を活用した情報発信 （基本方針１－施策②－事業１．２と関連）

- （内容）
- ・本市の観光関連施設、宿泊、飲食、お土産等の情報を集約し、利用者にとって魅力のある新規ホームページの制作と運用
 - ・新規ホームページへ誘導する、ターゲットに応じた SNS の活用
 - ・飲食店や体験プログラム等、民間事業者が開設するサイトとの連携
 - ・新規ホームページを活用した E C 事業への検討



【推進主体】 市、観光協会、商工会議所、民間事業者等

～新しいホームページの役割について～

各施策を形づくるツールとしての観光のポータルサイト。

市等のホームページでは取り扱うことが難しかった、民間事業者の情報である飲食店やイベント、体験プログラムなどを、魅せ方にこだわったコンテンツとして掲載する。

情報の集約、提供、発信だけでなく、アクセス分析等により、ターゲットの観光需要や志向等を把握し、各事業の推進に生かす材料とすることを想定する。

成果指標（K P I）		
重要成果指標	新規ホームページの閲覧数	R4 年度：新規ホームページの立ち上げ R5 年度以降：指標及び目標値の決定 （「計画期間で閲覧数の●%増」など）
参考指標	・福岡都市圏等での大牟田の地域資源等の認知度	福岡都市圏等でのアンケート調査を実施し、過年度との経年変化の分析を行う

年度ごとの取組み内容					
	R4	R5	R6	R7	R8
施策 1	有明圏域定住自立圏等、広域の枠組みの連携強化による誘客				
施策 2	新規ホームページの立ち上げ	ホームページを活用した、戦略的な情報発信			

5章 計画の推進体制

1. 基本的考え方

本計画の推進には、前の4章で述べた具体的な取組みを市全体として進めていくことが重要になります。そのためには行政、市民、関係団体、事業者などが、それぞれの役割と責任を担いながら、お互いに情報を共有し、相互に連携していく必要があります。

また、本市において今後、人口減少やさらなる少子高齢化が進展する中で各施策、事業を展開するには事業を推進する人材が大きな課題となります。

今後、本計画の推進を図るうえで、市全体として、また各組織、団体にとっても、新たな担い手となる人材や団体の発掘、育成等と、その人材や団体の活動等が促進されるような環境づくりがさらに重要になります。（※4章では、基本方針1－施策③に関連）

～新たな推進機能（体制）の検討にあたって～

組織の役割や既存組織の見直し（集約、統合等）を十分検討しないまま進めると、上記に述べたように限られた人材や物的資源を逆に分散させてしまう懸念も大きい。

よって、まず組織ありきでなく、計画を推進するために必要な機能（体制）を考えるものとする。

2. 計画を推進するための各組織、団体の役割

本計画を推進するために、各団体が担う（求められる）役割、活動等について、改めて以下に示します。

（1）行政（観光担当課）

① 計画策定、進捗管理等

本計画のほか、広域連携など観光に関する諸計画の進捗管理等を行う。

② 関係機関・部署等との連携、調整

- ・効果的、効率的な事業が図れるよう、庁内関係部署との連携強化、情報共有等を図る。
- ・観光協会や商工会議所をはじめとする関係団体や事業者等の連携、調整等を図る。
- ・有明圏域定住自立圏をはじめ他自治体、さらに国、県等との連携を図る。

③ 観光ボランティア、NPOなどの育成、支援等

観光関係団体等と連携し、市民の意識醸成や新たな人材の育成及び支援を進める。

④ 観光関係団体、事業者等への支援

諸施策の目的を推進するために、観光関係団体や事業者等への補助や支援等を行う。

⑤ 情報発信、プロモーション

関係団体や民間事業者と連携し、情報発信、プロモーション活動などを行う。

⑥ 施設、インフラ等の整備

施設の保全管理、インフラ等の受入環境整備を行う。

（２）市民（ＮＰＯ、ボランティア、まちづくり団体等含む）

- ① 自らの住む地域や大牟田の魅力を再発見し、地域への愛着を育む。
- ② 地域行事、伝統行事等の実施、継承に努める。
- ③ 地域物産の愛用、地域資源や本市の良さなどを様々な機会を捉え、発信する。

（３）観光関連団体（観光協会、商工会議所等）

- ① 観光、物産（飲食）等の事業者（団体）との連携と、積極的な情報発信による域内消費拡大等の取組みを推進する。
- ② 自らの組織が主体的に行う事業により、本市活性化や誘客拡大等につなげていく。
- ③ おおむた「大蛇山」まつりをはじめ、地域行事やイベントの実施、継承に係る支援等を行う。
- ④ 行政や関係団体等と連携し、ガイドをはじめ観光、物産等の担い手の発掘、育成等を行う。

（４）民間事業者（物産、飲食、宿泊、交通等）

- ① 本市への来訪者（顧客）に対し、魅力的な商品や質の高いサービスの開発、提供する。
- ② 行政、観光関係団体と連携した情報発信やプロモーション活動により、本市への誘客や域内消費拡大等につなげていく。

３．計画を推進するための体制について

上記、１．２に示すように、まずそれぞれの組織や団体は、その目的や役割等に向かって主体的に取り組んでいくことが基本となりますが、本計画をさらに効果的に推進するために、次のような、全体を**補完する機能（体制）**を検討します。

（１）人、団体等を「つなぐ」機能

今回の基本計画は目指す方向性の大きな一つに域内消費の拡大があり、これには商業団体、事業者等の連携も重要です。そこで、各々の人や団体等を「つなぐ」機能を強化するための人材（コーディネーター）を配置することにより、本計画に掲げる各事業、ひいては計画全体が後押しされます。なお、大きな組織やその力に頼るのではなく、必要な時に必要な人、組織が柔軟にコンパクトにつながり、素早い活動につなげるなど、様々な連携の形を想定します。

（２）本計画の進捗状況や、成果の達成状況等を確認する機能

本計画を効果的に進めるには、以下のような PDCA サイクルをまわしていく必要があります。

本計画の策定（Plan）⇒ 各施策・事業の実施（Do）⇒ 進捗状況の確認、評価等（Check）⇒ 改善、見直し等（Action）

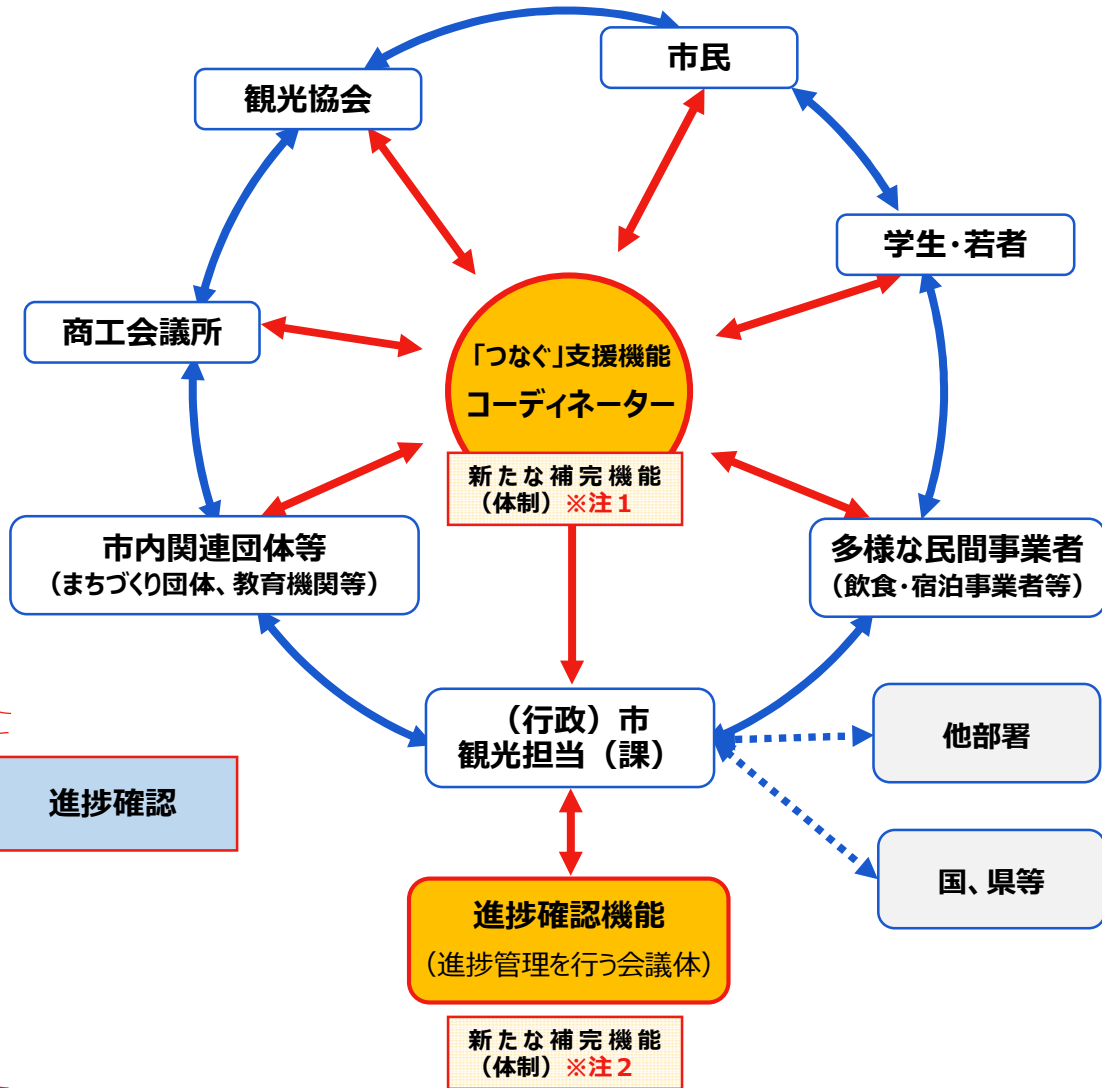
このうち、各施策・事業の実施（Do）や改善、見直し等（Action）については、それぞれの組織や団体等の自主的、主体的な取組みが基本となりますが、進捗状況の確認、評価等（Check）の機能の必要性が考えられます。

次のページでは、（１）（２）の機能についてイメージ図を示します。

大牟田市観光基本計画推進のイメージ

推進体制

それぞれの組織や団体は他の団体等と情報共有や連携を図りながら
目的、目標に向かって自主的、主体的に取り組んでいくことが基本



進捗確認

※注1 本計画に係る様々な人、事業者、組織間を「つなぐ」(情報共有、連携等)の支援機能

- ① 市内外の観光や飲食業等にネットワークや見識を持つような人材(コーディネーター)の配置。人材としては、観光関連団体、部署(事業所)の経験者(OBも含む)等を想定。
- ② 本計画の基本方針(3-施策②-事業2)で、民間の情報(宿泊、飲食、お土産品等)を含む新たなホームページの制作を予定しているが、ホームページの運用に当たっては情報収集とともに、様々な団体、事業所(店舗等)間のやり取り、いわゆる「つなぐ」ことも必要になることから、ここに当人材の関わり(支援)も想定する。

※注2 本計画の進捗状況を確認する機能

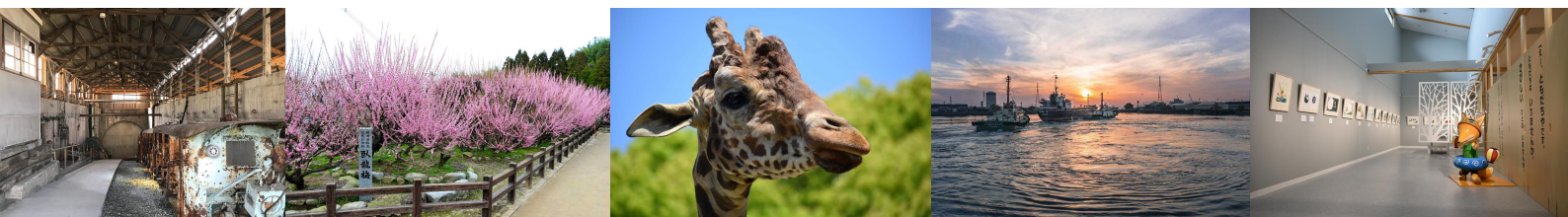
ここでは、本計画策定委員会のメンバーを基に、実務的なメンバーでの構成を想定。本計画の進捗状況等を確認する役割の会議体。

※新たな補完機能(体制)は、具体的な事業を直接行うものではなく、あくまで本計画の推進を支える補完的な役割を担うもの。

大牟田市観光基本計画

OMUTA CITY
Tourism basic plan

資料編



目次

1. 計画の策定経緯.....	1
(1) 大牟田市観光基本計画策定委員会.....	1
(2) 大牟田市観光基本計画ワークショップ.....	2
(3) 大牟田市観光基本計画(案)に対する市民意見募集の結果について.....	8
2. 本市の観光を取巻く環境に係る分析.....	14
(1) 本市の歴史と観光について.....	14
(2) 大牟田の観光・地域資源.....	17
(3) 大牟田市について.....	17
(4) 大牟田市に関する各種アンケート結果.....	21
3. 福岡県の観光動向.....	35
(1) 日帰り及び宿泊旅行の動向.....	35
(2) 県内及び県外からの旅行の動向.....	37
(3) 目的別（2017 年度）.....	38
(4) 月別（2015～2017 年度）.....	38
(5) 観光消費額.....	39
4. 全国の旅行動向（2019 年まで）.....	40
(1) 入込客数の推移.....	40
(2) 国内宿泊旅行者数の推移.....	41
(3) 旅行消費額の推移.....	41
(4) 1 回当たりの旅行単価.....	42
5. 新型コロナウイルス感染症拡大時における国内の旅行動向.....	43
(1) 入込客数.....	43
(2) 消費額.....	45

1. 計画の策定経緯

(1) 大牟田市観光基本計画策定委員会

1) 委員会概要

委員会の開催経緯

委員会	開催日	開催内容
第1回	2021年1月8日	- 現状把握、策定に向けた概要説明 - 検討委員会座長の選出、意見交換
第2回	2021年7月7日	- ワークショップ実施内容の報告 - 基本計画の検討に向けた課題・論点の整理
第3回	2021年9月29日	- 基本計画の内容に関する協議 - 基本方針など押さえるべきポイントの整理
第4回	2021年11月17日	- 素案（施策案）の提示 - 計画の体系と素案に関する意見交換
第5回	2022年1月24日	パブコメ案の提示、内容に関する意見交換

委員一覧

	氏名	所属	役職名
委員長	大方 優子	九州産業大学	地域共創学部 観光学科教授
副委員長	白石 政嗣	大牟田観光協会	会長
副委員長	泉 豊博	大牟田商工会議所	観光開発委員長
	藤谷 岳	久留米大学	経済学部 文化経済学科准教授
	塚本 節哉	大牟田経済倶楽部	広報委員会副委員長
	有田 究	九州旅客鉄道株式会社	久留米鉄道事業部 企画課長
	小宮 智華	西日本鉄道株式会社	鉄道事業本部営業部 観光列車担当課長
	吉野 啓	大牟田タクシー協会	会長
	大坪 和彦	大牟田旅館組合	組合長
	徳永 久樹	大牟田食堂組合	理事長
	大迫 順平	九州朝日放送株式会社	取締役
	三原 拡治	NPO法人三池港未来のまちづくり会	副理事長
	吉田 憲和	福岡県	商工部観光局 観光政策課長
	湯村 宏祐	大牟田市	産業経済部長

(2) 大牟田市観光基本計画ワークショップ

実施概要

・ワークショップ（全4回）実施概要

	日時・会場等	主な検討内容
第1回	2月14日（日） 14：00-16：30 大牟田市石炭産業科学館 オリエンテーション室	○大牟田の観光の魅力、課題等を洗い出し、観光振興の方向性を考える
第2回	Web・書面等による実施	○第1回WSの検討内容に関し、追加意見を募集 ※書面、Webツール（グーグルフォーム、グーグルマップ）等により追加意見を収集。
第3回	3月13日（土） 13：00-16：00 大牟田市役所 第1会議室	○大牟田市の観光振興の方針（※1）、大牟田市の観光振興のあるべき姿（※2）を考える
第4回	3月14日（日） 13：00-16：00 大牟田市役所 第1会議室	○観光振興に向けた取組の推進方向（誰が・何を）を考える

※1 方針：数項目の観光振興の取組の方向性

※2 あるべき姿：方針をまとめるキャッチコピー

実施概要

・参加者の状況

	属性		参加方法	
	学生	その他	会場	オンライン
第1回 (全35人)	19人	16人	14人 (うち学生4人)	21人 (うち学生15人)
第2回	※文書・Webツールを活用し、追加意見を募集			
第3回 (全20人)	10人	10人	14人 (うち学生10人)	6人
第4回 (全23人)	16人	7人	17人 (うち学生13人)	6人 (うち学生3人)

1) ワークショップの概要

ねらい・目的

- **基本計画（素案）への意見の反映**
 - 基本計画の素案に、今後、観光振興の担い手として参画が期待される多様な世代・主体の意見を反映させる
- **多様な主体との認識共有を図る**
 - ワークショップを通じ、今後、観光振興の担い手として参画が期待される方々に、大牟田市の観光振興に係る実態（魅力や課題など）について理解を深めてもらう
 - 今後の方向性に係る議論を通じ、自ら観光振興に関わることの可能性を考えてもらう
 - 観光振興によるまちづくりの魅力を感じてもらう
- **観光振興を推進するための仕組みづくりに係る検討**
 - ワークショップでの議論を通じ、地域の多様な世代・主体が中心となった観光振興を推進するための仕組みづくりに向けた検討を行う

参加者・ファシリテーター

- **WS参加者**
 - 大牟田市の観光振興の担い手となることが期待される方々
 - 学生（久留米大学、有明高専、三池高校、大牟田北高校、ありあけ新世高校、三池工業高校、大牟田高校、誠修高校、明光学園高校）
 - 各種団体（大牟田商工会議所、大牟田青年会議所、大牟田観光協会、大牟田物産振興会、大牟田サービス連合会）
 - 観光拠点（道の駅「おおむた」花ぷらす館、大牟田市動物園、大牟田市シルバー人材センター、三池港未来のまちづくり会）
- **ファシリテーター**
 - 市民参加型まちづくり（コミュニティデザイン）の専門家として国内外で活躍されている 大妻女子大学 木下 勇 教授に全体のファシリテートを依頼し、木下教授の指導のもと企画・運営を行った。

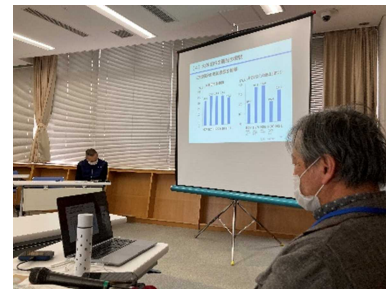
2) 学生・生徒、観光関連団体職員等によるワークショップの開催

本計画の検討にあたり、今後、観光振興の担い手として参画が期待される多様な世代・主体の方々を対象としたワークショップを開催しました（主な参加者：生徒・学生、各種団体、観光拠点の関係者の方々）。

■ ワークショップにおける検討内容

- 大牟田の観光の魅力、課題等を洗い出し、観光振興の方向性を考える
- 大牟田の観光振興の方向性・あるべき姿を考える
- 観光振興に向けた取組みの推進方向（誰が・何を）を考える 等

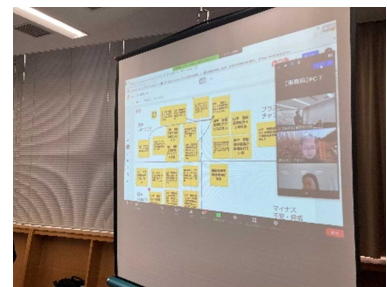
大牟田の観光の現状を伝え、学ぶ様子



大牟田の観光振興に関して話し合う様子



大牟田の観光振興に関して発表する様子



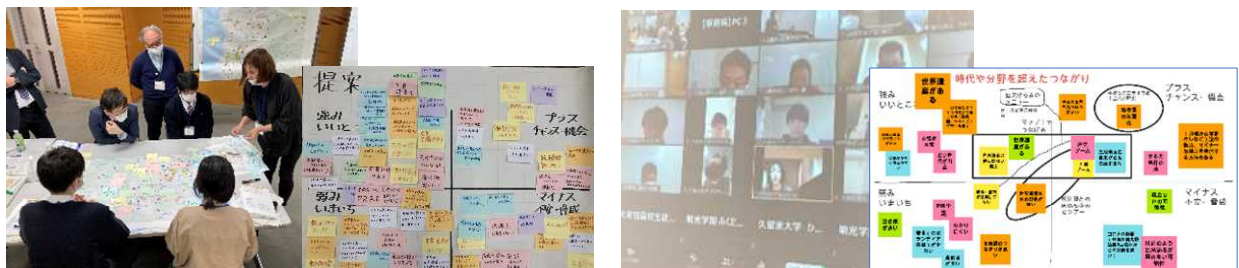
■大牟田市の魅力、課題は？（強み・弱み 等）

世界文化遺産関連施設や大牟田市動物園、有明海の景観、道路・鉄道によるアクセス性などが、大牟田市の観光の強みである一方、こうした魅力・強みが十分に活かされていないことが課題だとする意見が多く得られました。

大牟田市の観光の魅力（強み）、課題（弱み）（ワークショップで得られた意見 集約版）

○歴史・文化のまち（19） - 世界文化遺産（他にはない魅力） - 石炭の街の歴史、文化財が多い - 力村（外国人観光客にも人気） - カルタ発祥の地 - 子供たちの能力を伸ばす取組（文詩集「せきたん」）等 ○食・食べるところが多い（12） - お好み焼き・ダゴ（個性的、お好み焼きせんべい等） - 食べものがおいしい（知られてないけど） - 様々な色の飲食店があり楽しめる - カフェが美味しい - 草木饅頭、みかんのソフトクリーム、山海の特産品等 ○子ども・若者・女性（10） - 小学生が地域のことを学んでいる - 子ども達のスポーツ - 大牟田高校、子どもが楽しめる施設（石炭産業科学館、諏訪公園） - 女性が元気 - 若い世代の意見が活発、若い世代が産出等 ○その他の強み - ジャーフ、絵本美術館プラン、漫画、大型商業施設、諏訪公園ドッグラン、フォトコンテスト、老人が多い等	○産業・企業が多く立地（15） - 工場が多い、大牟田市の色（茶色） - 團琢磨による三井の各企業が世界的に活躍（三井金属、三井東洋化学、三井三池製作所） - 三池炭鉱の関連産業が地域経済を支えている - 産業（工学）が活発等 ○景色・景観が素晴らしい（12） - 有明海の夕日がキレイ - 海から見る工場の景色が素晴らしい - 光の航路 - 電柱が地中化されていて景観がキレイ等 ○交通利便性（6） - 交通の便の良さ（新幹線、西鉄、JR、沿岸道路） - 西鉄とJRが繋がっていてとても便利等 ○やさしい・住みやすいまち（5） - 人がやさしい、温かい - 高齢者に優しい（人も動物も） - 施設が整っていて住みやすい等 ○都会過ぎず田舎過ぎない（5） - 都会過ぎず田舎過ぎないところ - 市内だけで楽しめる（動物園、モール） - 一日中いても疲れない - 自然と都市のバランス等	○近隣都市の存在（14） - 柳川、グリーンランド - 山鹿・玉名・平山温泉 - 有明海、久留米～熊本まで県をまたいだ経済圏 - 有明沿岸の5観光協会の連携 - 中国の大同市（友好都市） ○立地・アクセスが良い（10） - 九州の真ん中 - 高速、有明海沿岸道路 - 佐賀空港へのアクセス - 福岡まで1時間（西鉄で座って） - 市街地を208号線が通る ○観光に対するニーズの変化（新型コロナの影響）（2） - 密を避けた観光が流行している - キャンプは流行 ○観光に関する取組実績（4） - 取り組み実績は他の自治体よりも多い - 世界遺産等のPRはできる範囲で行われている ○歴史・刀剣ブーム（3） - 歴史ブーム - 刀剣ブーム - 最近になって大牟田市の歴史に興味を持つようになってきた ○その他（今後の可能性） - 体験型を取り入れれば市内滞在時間、各世代の来訪者が増える - 将来のインバウンド需要を取り込める
○資源を有効活用できていない（13） - 世界遺産 - 人物についての話題が少ない - 炭鉱に頼りすぎ - 石炭を使っていない - 観光客に満足してもらえないような整備ができていない - 世界遺産がイマイチ - 世界遺産以外の印象が薄い - 有明海の魅力を活用できていない - 技術が有るのになんにもしない等 ○滞らない（13） - 宿泊施設が少ない - 飲食が充実していない - 半日で観光終わる - 一日中楽しめる場所が少ない - 日帰観光が多い - 通過点 ○知名度・PR不足（14） - PR不足（祭り、刀剣、食品） - アピールしたいものが控え目にしか伝わっていない - 知名度が低い - 福岡まで伝わってこない ○市民の理解・意識が薄い（13） - 世界遺産は市民に浸透していない - 歴史への興味がうすい - 市民が訪れる機会が少ない - 観光地の場所を知らない等 ○その他の弱み - 一度行って2度行きたくなところが少ない、目で楽しめるものが少ない等	○子ども・若者が楽しむ・活躍する機会（8） - 若者人口が少ない - 中高生の層に対してキャッチーなものが少ない、買い物（服など）する場所がない - 若者の参加が少ない - 地元に関する教育が中途半端等 ○高齢化・過疎化（5） - 高齢者が多い - 高齢化により観光の方向性にかたより - 商店街の過疎化等 ○土産物が少ない（2） - お土産（紹介する土産物が少ない、草木饅頭しかない）	プラス チャンス・機会 マイナス 不安・脅威 ○交通利便性の不安要素（5） - 福岡市内からやや遠い - 交通の便が悪い - 西鉄もJRも減便傾向 - JR特急が減った - 新幹線と在来線が遠い ○近隣市・他都市との競争力（2） - 福岡都市圏の魅力には届かない - 万田坑（荒尾）の方が見所がある ○新型コロナウイルス（4） - 新型コロナウイルス - 以前のように来訪者が戻らない可能性 - 海外からの渡航者減少 - 積極的な施策が打てない その他のマイナス要因 - 高齢化 - 街がきたない、建物老朽化、電柱埋めてほしい - 風評イメージ（浸水、豪雨） - 税金UPの可能性

■ワークショップの運営方針



○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、会場参加とオンライン参加を併用して開催しました。

○グループ別討議では、会場チームは模造紙を用い、オンラインチームはアプリ（デジタルホワイトボード）を用いて、各々の意見・考えを共有し、意見交換を行いました。

■大牟田の観光振興の方向性・あるべき姿

活かしたい地域の資源を地図上で整理し、今後の観光振興のあるべき姿について意見交換を行いました。

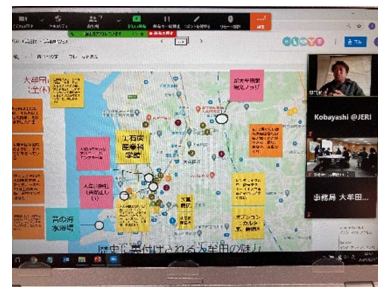
資源の整理、活用方針の検討成果（左：会場チーム、右：オンラインチーム）



■今後の観光振興の方向性・期待（班ごとにキーフレーズとして取りまとめました。一部を紹介）

- 「旅して食べて楽しんで ～3T 精神～」
※世界遺産などを訪れる方々に、大牟田のグルメも一緒に楽しんでもらえるような取り組みが必要
- 「#大牟田アピリ隊」
※市民一人ひとりが大牟田のいいところを発信していけば、大きな力になるのではない
- “歴史に裏付けされる大牟田の魅力”
※大牟田の魅力は、資源一つ一つが歴史に裏付けられていること。幅広い世代で共有していくことが大事
- “時代や分野を超えたつながり”
※観光振興の取り組みでも、時代や分野を超えたつながりが、今後求められているのではない

大牟田の観光振興の方向性・期待を検討し、発表する様子



■ 観光振興に向けた取組みの推進方向（誰が・何を）を考える

観光振興に係る取組み推進のため、地域の観光振興に関わる人的資源を洗い出すとともに、今後、自らできることについて考え、意見交換しました。

意見交換を通し、観光振興に向け、高校生から大人まで、市民一人ひとりが担い手となりうることで、また、そうした力を合わせることが大事であることなどを共有しました（以下、当日の発表・討議、アンケート結果から、抜粋）。

【人的資源】

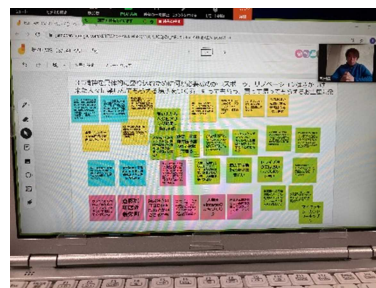
- 地域外への発信力のある人や著名人に加え、動物園の職員、観光ガイド、認知症カフェを運営する方々、飲食店の店員さん、タクシー運転手など、大牟田にはいろいろな方々が存在。
- 地域の子ども・若者の活動も多様であり、「こぷろばい」のような高校生と地域をつなげる活動もある。

※子ども・若者の活動例：ジュニアリーダー、ガールスカウト・ボーイスカウト、高校の部活動（大牟田北高校書道部、ありあけ新世高校てっぱん部・ダンス部、大牟田高校柔道部・駅伝部・吹奏楽部 等

【自分たちにできること（発表内容、アンケートから抜粋）】

- 観光ガイドや世界遺産に関する出前講座、展示ガイド。
- 景色のいいスポットをインスタに投稿、オール大牟田による情報（SNS）発信を行う。
- ジャー坊のイラストを描くなど、特技（イラスト）を活かす。
- 観光に関する取組みと高校生をつなぐ役割を担う。高校生の企画のプロジェクト化（高校生ブランド）、プラタモリ誘致に高校生が協力する。
- 街を歩いてあるもの探しをしたい（大牟田の魅力や課題を発見して解決策を探っていく時間が有意義なものだと感じた） 等

大牟田の観光振興に関して取組みの推進方向を考え、発表する様子



(3) 大牟田市観光基本計画(案)に対する市民意見募集の結果について

本計画を策定するにあたり、計画案に対する市民意見募集を下記のとおり実施しました。

1) 市民意見募集の実施状況

- | | | |
|-----|------|--|
| (1) | 実施期間 | 令和4年2月7日(月)～令和4年2月28日(月) |
| (2) | 周知方法 | 広報おおむた、市ホームページへの掲載による情報発信 |
| (3) | 閲覧場所 | 観光おもてなし課、情報公開センター、各地区公民館(中央、三川、三池、勝立、吉野、駛馬、手鎌) |
| (4) | 提出方法 | 郵送、持参、ファクス、電子メール |
| (5) | 募集結果 | 7名から59件の意見が提出されました |

2) 提出された意見に対する市の考え方(意見の内容については要約して記載)

■ 計画に反映したもの

No.	計画の 関連箇所	意見の内容	市の考え方
1	(6ページ) 2章(1)2)	観光入込客数の2020年、2021年がないので入れて欲しい。コロナを踏まえて今後を考えねばならないと思う。	(6ページ)2章(1)2)の該当箇所において、令和2(2020)年の数値をグラフへ反映させます。なお、例年4月以降に行われる福岡県観光入込客数調査に合わせ、前年の数値を把握しており、令和3(2021)年の数値は今後調査を行います。
2	(26ページ) 3章 基本方針2	「市内には多くの飲食店が存在する」とあるので、市内飲食店の総数を入れて欲しい。	(5ページ)2章(1)1)3)に経済センサス活動調査(H28)に基づき、本市を含む近隣市町の飲食店事業所数の資料を追加します。

■ 参考意見としたもの

No.	計画の 関連箇所	意見の内容	市の考え方
1	(18ページ) 2章(2)	本市が有する観光資源について。顧客目線に立った新たなサービスを提供し、期待以上の感動を生み出すことで再来訪を促す仕組みづくりをしてほしい。	「期待以上の感動を生み出すことで再来訪を促す」視点は重要であり、今後の事業を検討するうえでの参考とさせていただきます。
2	(23ページ) 2章(3)3)	「世界遺産関連施設への観光入込客数は減少傾向にあり、市民の理解度は4割程度である」とあるが、大牟田の世界文化遺産のセンター施設(拠点)がないことが理由だと思われる。他都市のように世界遺産をアピールし、案内し、誘導する仕組みや機能を持つ拠点を作るべきではないか。	世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」三池エリアのガイダンス施設として、本市では大牟田市石炭産業科学館を位置づけており、世界文化遺産の価値の紹介をはじめ、三池炭鉱のフルストーリーの情報発信を行っており、今後も、施設に関して広く周知を図ってまいります。
3	(26ページ) 3章 基本方針2	「ナイトタイムエコノミーの推進」は、この計画の目玉となり得るため、具体的施策を盛り込んでほしい。	基本方針2施策③1,2,3において、夜型ツアーや夜の飲食イベントなどの施策を記載しており、事業の詳細については、別途検討することとしております。

4	(29 ページ) 4 章 基本方針 1 施策①事業 1	市民の世界文化遺産に対する価値の理解が 40%であるのは悲しい現実。宮原坑の管理に指定管理者制度を導入し、市民に近い視点で企画運営してほしい。	(14 ページ)に記載している令和 2 年度のアンケートにおいて、世界文化遺産の価値についての質問では、4 割の理解にとどまっている一方、令和 3 年度のアンケートでは、世界文化遺産に登録されていることを知っているかどうかを問う質問では、8 割の方が「知っている」と回答しています。こうしたことから、今後、計画を推進していく中で、単に知っているだけではなく、世界文化遺産としての価値まで知る、深い理解が促進されるような取組みを検討してまいります。また、宮原坑などの世界遺産施設の管理・活用についても、現在取り組んでいる地域や学校等と連携した保全活動を進めながら、ハード、ソフト両面でのガイド機能の改善を中心に、適切な運営の方法についてあわせて検討を行ってまいります。
5	(29 ページ) 4 章 基本方針 1 施策①事業 1 (30 ページ) 4 章 基本方針 1 施策③事業 2	世界文化遺産のガイドに関しては、アプリによるガイドシステムを検討してもよいのではないかと。	世界文化遺産の活用においては、その価値をいかに伝え、来訪者に理解していただくことが重要であると考えており、計画の中でも、「世界遺産関連施設の管理・活用」、「ガイドの育成・仕組みの再構築」を掲げているところです。また、ガイドのあり方についても、整理・検討を行うこととしており、現在、スマートフォン等で施設の解説を行っているガイドシステム「三池炭鉱ナビ」の更なる活用についても検討してまいります。
6	(29 ページ) 4 章 基本方針 1 施策①事業 1	世界文化遺産を守っていく事は必要と思いますが、炭都のイメージからは脱却すべき。	世界文化遺産については、まちの歴史とは切り離せない、大切に守り伝えていくべきものとして認識しております。一方で、本市には、世界遺産関連施設以外の魅力ある地域資源もあることから、そうしたものも活用しながら、本市イメージの向上を図っていきたくと考えております。
7	(29 ページ) 4 章 基本方針 1 施策①事業 2	動物園は指定管理者の努力により来園者・ファンが増加している。オンライン配信等の取組みもあり、魅力向上に関しては動物園に任せていいと思う。施設や設備の老朽化への対策は、動物園と連携して進めてほしい。また、延命公園整備に関しても動物園のサイン計画などと連携してほしい。動物園の魅力は、教育や福祉面へと可能性が広がる。	大牟田市動物園の管理・活用については、今後も指定管理者と連携して推進してまいります。また、施設の改修、更新等についても、計画的に整備することとしており、令和 4 年度においても動物園整備事業費として予算を計上しております。現在進めております延命公園整備に関しては、園内の主要施設である動物園、(仮称)総合体育館、延命配水池など、各施設が効果的に連携し、更なる延命公園の魅力向上に向けて取り組んでいるところです。そのため、関係部局と連携を図りながら、分かりやすいサイン整備や、園路のバリアフリー化等の公園整備を行うこととしております。
8		筑後圏に「唯一」ある動物園は強みとなるのではないかと。	大牟田市動物園は、周辺エリアでは唯一の動物園であり、県内外から毎年多くの来園者があります。また、特色ある動物福祉の取組みも強みと考えていることから、計画の中でも、主要な地域資源としてさらなる魅力向上につなげていくこととしております。
9		観光資源として、動物園は観光だけの視点ではなく、生涯における教育資源、福祉についても学ぶことができる施設の活用を願いたい。	大牟田市動物園は、観光に関わる施設としてだけではなく、「大牟田市動物園条例」の中で、動物に関する知識、動物愛護思想及び環境教育の普及啓発に関する事業を行う施設としていることから、今後も指定管理者と連携し、「動物福祉」など特色ある取組みを推進してまいります。
10	(30 ページ) 4 章 基本方針 1 施策①事業 3	おおむた「大蛇山」まつりの際、西鉄や JR に特別電車を走らせてもらう。	基本方針 1 施策①事業 3「おおむた『大蛇山』まつりの活用」で掲げる事業を検討するうえでの参考とさせていただきます。
11	(30 ページ) 4 章 基本方針 1 施策①事業 4	有明海の眺望も福岡県では大牟田だけ。黒崎公園の展望台を再整備できませんか。	市内には、黒崎公園をはじめ、甘木公園、延命公園、三池山など有明海の眺望を楽しむことができるスポットがあり、大牟田市の魅力の一つとなっています。今後も必要に応じて展望台の改修等適切な施設管理を行うとともに、眺望の確保のための周辺環境の整備にも努めてまいります。

12		庁舎整備の今後の方針について、観光基本計画においてはどのように位置づけるのか。今回の計画期間が令和8年までの5年間なので、市庁舎本館の利活用についても触れるべきである。	市庁舎本館については、「庁舎整備の今後の方向性」において、今後、民間活用を基本に検討を進め、令和5年度までに取扱いを決定することを目指すとされており、現時点において、観光分野への活用を計画へ反映させることは難しいものと考えております。
13		大牟田市内で誇るべき建築物は三井港倶楽部と市庁舎本館であるとする。これらの観光資源としての活用を考えられたい。	三井港倶楽部は、明治41(1908)年に三池港の開港にあわせて開館し、現在は結婚式場・レストランとして使用されているほか、世界遺産関連施設として多くの来訪者が訪れております。 一方、市庁舎本館については、「庁舎整備の今後の方向性」において、今後、民間活用を基本に検討を進め、令和5年度までに取扱いを決定することを目指すとされており、令和4年度から詳細に検討する予定です。
14		新大牟田駅の改札前にあるトイレが使われていない。予算をかける必要がなく活用できるものは活用してほしい。近くの公園で遊ぶ子供たち、家族の要望がある。	新大牟田駅観光プラザ内のトイレは、開館時間中は一般利用が可能ですので、どなたでもご利用いただけます。ただし、開館時間外及び休館日においては、管理上の点からご利用ができませんので、駅南側の公衆トイレもあわせてご利用いただくようお願いいたします。
15		普光寺は、三池山登山対応のため、駐車場及び駐輪場の設置を要望していましたが実現化しておらず、参拝者、地域住民に不便をかけているのが現状です。	三池山については、基本方針1 施策①事業4の「多様な地域資源の活用」の中で「三池山や甘木山、有明海など、様々な自然の活用の検討」を行うこととしています。 また、駐車場の設置を含めた三池山活用についても、令和4年度に関連団体・地域住民等との意見交換等に要する予算を計上し、検討を進めていくこととしております。
16	(31 ページ) 4 章 基本方針 1 施策②事業 2	「大阪に行ったらたこ焼き食ってランド花月に行って」的な典型的な周遊プランを確立する。	基本方針1 施策②事業2において、「回遊ルートの提案」を掲げております。 ご提案いただきました内容につきましては、この回遊ルートを検討するうえでの参考とさせていただきます。
17		西鉄のサイクルトレインの活用。県及び福岡県観光連盟推進のサイクルツーリズムの取組みと連携した施策を行ってほしい。	
18	(33 ページ) 4 章 基本方針 1 施策④事業 1	観光パンフレットの記載がない。訴求内容が多岐にわたるので、デジタルサイネージで対応すべきではないでしょうか。それにとまって、City wi-fiなどの構築も必要と思われます。	観光パンフレットの作成につきましては、これまでも市として行っており、引き続き作成を予定しております。 また、基本方針1 施策④事業1において「観光案内板や誘導サインの整備」を掲げており、デジタルサイネージにつきましても、事業を検討するうえでの参考とさせていただきます。 なお、フリーwi-fiにつきましては、大牟田観光プラザ、大牟田市動物園、路面電車204号、宮原坑等で現在使用が可能になっており、今後も必要に応じて設置の検討を行ってまいります。
19	(34 ページ) 4 章 基本方針 1 成果指標 (KPI)	市内観光入込客数と世界遺産関連5施設の誘客目標数を入れて欲しい。	新型コロナウイルスの収束時期が見えない中、適正な目標値の設定が困難な状況であるため、まずは現在設定しているKPIの達成を目指すことが重要であると考えております。
20	(35 ページ) 4 章 基本方針 2 施策① 事業 1	市内飲食店のイベントへの出店支援について。保健所(柳川)への申請の手間が容易ではないし、出店料が高いからためらうという声を聞く。そういう点を支援してほしい。	事業者等への支援につきましては、新たな推進機能の枠組みにおいて連携を図る中で、事業者が必要とされる支援等についても把握することとし、いただいた意見につきましても今後の事業を検討するうえでの参考とさせていただきます。
21	(35,36 ページ) 4 章 基本方針 2 施策①事業 2 施策②事業 2	福岡都市圏でのプロモーションとして、県庁ロビーでは各市町村の物産展が行われているので大牟田市も出展してほしい。	県庁ロビー展につきましては、これまでも観光協会等との連携により、出展を行ってきており、今後につきましても、同様の取組みを行っていくこととしております。

22	(35 ページ) 4 章	J a z z や Rock の野外音楽フェスの可能性はどうでしょうか。	基本方針 2 においては、民間団体・事業者との連携による域内消費の促進を掲げており、ご提案いただいた意見につきましては、事業を検討するうえでの参考とさせていただきます。
23	基本方針 2 施策① 事業 1,2	新栄町駅前の旧サンリブの空きビル 1 階を週一のマルシェ会場に開放できないか。	
24		アーケード内の空き店舗でスイーツ屋ばかり集めて My sweet road はどうでしょう。	
25		市街地にステージを作り、ストリートライブを行う。	
26		花火大会を冬に行い、「一番遅い花火大会」にすれば話題性があります。	
27	(36 ページ) 4 章 基本方針 2 施策② 事業 1	農業生産品は観光資源に入らないのでしょうか。農業まつりもイベントになると思いますが。	基本方針 2 施策①事業 1「イベント等と連携した域内消費拡大事業」及び基本方針 2 施策②事業 1 に掲げております『食』『土産品』の開発及び磨き上げ」の事業を取り組むうえで、大牟田の農林水産物活用の参考とさせていただきます。
28	(36 ページ) 4 章 基本方針 2 施策②事業 2	新商品のプロモーションは、市が旗振り役として体制を構築する。観光協会のホームページで小まめに新着情報を提供する。	基本方針 2 施策②事業 2 に掲げている「物産品等のプロモーション機会の提供」の事業において、新商品のプロモーションのあり方についても、効果的な方法を検討していきたいと考えております。 また、基本方針 3 施策②事業 2 で取り組みを行う新しいホームページでも、さまざまな情報発信を予定しており、観光協会とも連携し、情報の提供を行ってまいります。
29	(36 ページ) 4 章 基本方針 2 施策③ 事業 1,2,3	ナイトタイムエコノミーは、コロナ後も地方だからこそ人気になる予感がする。季節に関係なくわくわくする企画が期待できる。 そのためにも、宿泊地を増やすことは重要である。橘香園も宿泊先として活用を期待する。各種の体験、学びができる場である。	基本方針 2 施策③事業 3 において「宿泊施設の充実と宿泊客の呼び込み」に関する事業を掲げており、域内消費の促進に向けては、宿泊施設の充実が重要であると認識しているところ。 本市では、宿泊施設の新増設に対し補助金制度を設けて、宿泊施設の立地を促進することとしております。
30	(37 ページ) 4 章	宮崎のシーガイアのリゾートホテルを建設する。	基本方針 3 施策②において、目的や誘客層に合わせた戦略的な情報発信の推進を掲げており、いただいたご意見につきましても、SNS 等を活用した情報発信の中で事業を検討するうえでの参考とさせていただきます。 また、広報課をはじめとした各部局との連携のほか、観光協会、商工会議所等、関係機関・団体等との連携により、効果的な情報発信に取り組んでまいります。
31	基本方針 2 施策③事業 3	祭りを見て、飲食店で食事してもらおうと、西鉄上り終電には間に合わないの、宿泊施設を整備する。	
32		多様な媒体での情報発信 JR、西鉄、旅行会社等の SNS にリンクする。	
33		観光おもてなし課と広報課との連携。大牟田大使の活用など、多様な事が期待できる。民間のフェイスブックやインスタグループを活用する。市民投稿型で情報が新鮮だから。	
34		現状の観光協会や商工会議所のページも悪くない。改めて作るのとはなぜか。	
	(40 ページ) 4 章 基本方針 3 施策②事業 2		これまでの既存のウェブサイトには、観光施設の情報のほか、宿泊、飲食、お土産、体験プログラムや回遊ルートといった来訪者が知りたい民間事業者の情報が集約されていない点などが課題としてあったところ。 これらの課題をクリアするため、今回、市、観光協会、商工会議所が連携して新たなホームページを立ち上げて、これらの情報を集約し、1 つのサイトで情報をまとめて得られるようにしていきたいと考えております。

35	(41 ページ) 4 章 基本方針 3 成果指標 (KPI) 参考指標	福岡都市圏でのアンケート調査の実施とあるが 2019 年あたりに大牟田経済倶楽部がされたアンケート結果があるので是非、活用してほしい。	大牟田経済倶楽部が平成 28(2017)年に実施された、福岡都市圏在住者への「大牟田市観光調査」につきましては、本計画策定における参考資料のひとつとして活用させていただいております。また今後につきましては、最新のデータを取得するためにも、新たな調査について検討しているところです。
36	(42~44 ページ) 5 章	「計画を推進するための体制について」補完する機能（体制）を作るのは新しい取組み。各団体からも出て来てもらい「コンベンション協会」のような組織で各事業をプロデュースできる体制が良い。	組織のあり方につきましては、各団体からメンバーを選出し、事業を実施するような大きな組織とすると、意思決定に時間がかかり、イベント等への柔軟な対応が難しくなる可能性があると考えております。 このため、事業自体はそれぞれの団体が実施することとし、各団体・組織を「つなぐ」機能によって、より効果的な情報発信や連携等を行うこととしております。
37		観光に関しては、観光おもてなし課だけでなく、他部局も関わってくるとは思いますが、その連携も取れるのでしょうか。	観光振興にあたっては、観光おもてなし課だけではなく、関連する市の部局や観光関連団体等との連携を図りながら推進してまいります。
38	(44 ページ) 5 章	市長の本気の改革案なら、市長直轄のコーディネーターを置くことを希望する。	今回の計画で想定しているコーディネーターは、観光基本計画推進のための機能であることから、所管である観光おもてなし課に配置することが適当であると考えております。
39	(プロモーションに関する提案意見)	ミュージシャンの PV・MV のロケ地に使ってもらおう。	映画やCM等の撮影については、宮原坑等での受け入れの実績があり、引き続き、撮影地等としての活用が図られるよう対応していきたいと考えております。 また、これまでも映画「いのちスケッチ」のロケ地MAPを作成するなどの取組みを行っており、今後につきましても、効果的な活用について検討してまいります。
40		昨秋も大牟田で映画撮影があったのに、そのロケ地・大牟田の視点での取組みがない。	
41		「絶景」「映え」等、通年で資源となりうる何かを観光資源として PR する。	
42		旅行会社のツアーコースになるようなプロモーションの仕掛け方があるのではないかな。	
43		プロモーション活動と多く出るが、シティブロモーションであり、ここぞの時はトップセールスであってほしい。	プロモーション活動については、必要に応じてトップセールスによる PR を行っており、令和 3 年度も「おおむた PR キャンペーン」の告知のため、市長と市公式キャラクター「ジャー坊」が福岡市内の民放各社を訪問しております。
44		市の玄関口である大牟田駅や新大牟田駅で、大牟田の観光ポスターをあまり見かけないので、貼ったらどうか。	ポスターにつきましては、イベント期間においての駅を含む各施設での掲出や、イベント会場での活用を行っていたところです。今後も駅等での掲出については、交通事業者と連携し取り組んでまいります。
45	(施設整備・誘致に関する提案意見)	花ぶらす館は観光の拠点だったはずですが、この計画では全く触れていません。集客が難しい立地であれば、思い切って新大牟田方面への移動も選択肢かと思います。	花ぶらす館は、地域の農業振興、道路利用者の休憩機能、地域情報の発信機能、大牟田テクノパークの利便機能の 4 つの機能を有する施設として位置づけられておりますが、観光の情報発信機能も有しているところです。 また、南関インターも近く、お土産を購入できるスポットとしても活用されていることから、今後も指定管理者と連携し、様々な検討を行ってまいります。
46		文化会館を、アイドルのライブができるような仕様に改修する。	
47		アウトレットを誘致する。	
48		酒蔵・ワイナリーを造る。	

49		駅施設をリノベーションして、駅周辺の活性化計画はあるか？ 東口駅前の駐車場をなくして広場化し、地域住民も集える場づくり。大牟田の強みは、あたたかい人。ならば、地元の人と来訪者がコミュニケーションをとりやすい場があれば、楽しそうである。	
50	(イベントに関する提案意見)	炭鉱にちなんで市内で SL (あるいは蒸気機関で動く車両) を走行させるのはどうか。	基本方針 2 に掲げている「民間団体・事業者との連携による域内消費の促進」の事業を検討するうえでの参考とさせていただきます。
51		滋賀のイナズマロックフェスの地域音楽イベントの立案はどうか。	
52		コスプレをしていた人はどうなったのでしょうか。横浜はレトロな町並みを再現しているが、大牟田は最初からレトロな状態で残っているので活用してはどうか。	
53		通年でイルミネーションスポットを設けるのはどうか。	
54	(観光商品に関する提案意見)	果物狩り等、体験型イベントを計画するのはどうか。	基本方針 1 施策②事業 に掲げている「体験プログラムの磨き上げ及び活用」事業を検討するうえでの参考とさせていただきます。
55		着物等、衣装レンタル。あるいは炭鉱にちなんで炭鉱従業員の衣装をレンタルしてはどうか。	
56		ブランド牛やあまおう的な付加価値のある食資源を開発するのはどうか。	
57	(交通の利便性向上に関する提案意見)	南関 IC から観光地までのアクセス面での利便性向上のため、大牟田駅直通の専用道路等を整備するのはどうか。	基本方針 2 施策②に掲げている「大牟田の『食』『土産品』の開発・販売支援」事業を検討するうえでの参考とさせていただきます。 南関 IC から中心部への円滑な移動を確保するため、これまで主要地方道南関大牟田北線等の広域幹線道路の整備を促進してきたところです。また、令和 4 年度には、新大牟田駅～大牟田駅間の利便性向上のため、新たな交通手段の構築に向けた実証実験を行うこととしております。

2. 本市の観光を取巻く環境に係る分析

(1) 本市の歴史と観光について

本市の生い立ちや歴史とともに、地域資源や観光振興の取組み等を振り返る。

① 中世以前

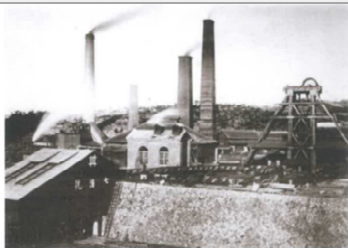
この地域には、古墳や貝塚、さらに神社の存在等からみて、太古の昔からすでに人が住んでいたとみられるが、日本の近代化を支え、本市繁栄の源となった石炭は、今から約 550 年前（西暦 1469 年）に発見されたと伝えられている。

羽山台遺跡甕棺	萩ノ尾古墳	石炭発見伝説図
		

写真：大牟田市所蔵

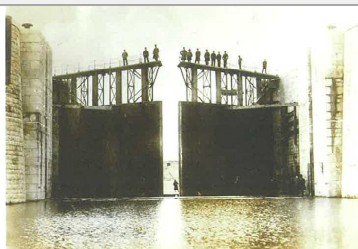
② 江戸～明治時代

江戸時代（享保 6 年）に、柳川藩家老小野春信によって平野山で石炭採掘を開始されたのが石炭産業の始まりと言われているが、石炭産業が本格的に花開くのは、三池炭鉱が官営になり團琢磨がこの地に赴任し、採炭や運搬技術の近代化により、採炭量が急速に拡大した明治期からである。

平野山大谷坑跡	七浦坑	勝立坑
		

写真：大牟田市所蔵

1889 年（明治 22 年）、三池炭鉱が三井に払い下げられ、團琢磨を中心に開発が進み、採炭や運搬技術の近代化により採炭量が急速に拡大する。

宮原坑	三池炭礦社幹部	三池港
		

写真：大牟田市所蔵

③ 明治～大正時代

採炭の急速な増加は、様々な産業を生み出し、まちの人口も増加させた。

炭鉱マンのみならず、多くの人が仕事の疲れを癒し、元気を取り戻す食べ物の一つとして「かすてら饅頭」が生まれ、現在まで受け継がれている。

電気化学工業大牟田工場	かすてら饅頭	大牟田停車場
		

写真：大牟田市所蔵

④ 大正～昭和時代

大正から昭和期においても、工業都市として発展する中、その隆盛ぶりそのものを観光と捉える当時の絵葉書もある。人の盛んな交流とともに、かすてら饅頭以外の様々なお菓子やお土産品などが誕生している。

市制 10 周年記念国産共進会	草木饅頭
	

写真：大牟田市所蔵

昭和に入っても発展の勢いは衰えず、1941 年（昭和 16 年）に大牟田市動物園が開園する。当時は入園無料であったことなどからみても、このまちの隆盛をうかがい知ることができる。

まちの賑わいとともに観光事業や物産振興を図る組織として 1947 年（昭和 22 年）に大牟田観光協会が設立される。

動物園のロバ車 	石炭人形 	人工島初島の築造 
--	---	--

写真：大牟田市所蔵

その後、世界的に石炭から他の資源へとエネルギー源が移行していく中で、石炭産業は次第に斜陽化し、それに代わる新たな産業の創出が模索されるなか、観光分野では1989年（平成元年）に『観光活性化ビジョン』が策定された。

そうして、三池カルタ記念館と観光物産館（観光プラザ）が開館し、動物園の大規模改修・整備等が行われる。1996年（平成7年）には、ネイブルランドと石炭産業科学館がオープンした。



写真：大牟田市所蔵

1998年（平成9年）に三池炭鉱は閉山した。閉山後のまちのイメージを前向きなものとするために「大蛇山」の国内外のまつり等への出展も行われた。



写真：大牟田市所蔵

しかし、観光の核として期待されていたネイブルランドが入園者数の減少により1999年（平成10年）末を以て閉園し、本市の観光振興の方向性そのものを改めて見直すこととなり、『観光基本計画』が2002年（平成13年）度に策定された。



写真：大牟田市所蔵

2015年（平成27年）三池炭鉱の関連資産が「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界文化遺産に登録される。

世界遺産のあるまちとしての観光振興策が求められ、「大牟田たーんとよかこ協議会」が発足（平成28年）し、「刀剣」や「女子旅」というあらたな魅力の発見や様々なプロモーション事業などを実施する。（大牟田たーんとよかこ委員会に引き継ぎ令和2年度で活動終了）

(2) 大牟田の観光・地域資源

① 大牟田の宝もの 100 選

大牟田市観光基本計画【本編】p.18～19 参照

② 主なイベント・花

大牟田市観光基本計画【本編】p.20 参照

③ 大牟田市のブランド

大牟田市観光基本計画【本編】p.21 参照



©2016 大牟田市公式キャラクター
「ジャー坊」

(3) 大牟田市について

① 大牟田市の概況

大牟田市観光基本計画【本編】p.3～5 参照

② 大牟田市の観光を支えるインフラ

1) 交通

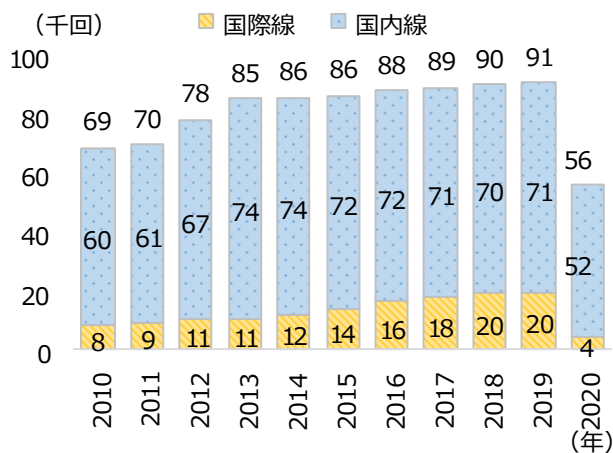
1. 福岡空港

福岡空港は、2019 年には飛行機が年間 91 千回着陸し、2,468 万人の乗降客が利用している。福岡空港は、東京国際空港（羽田空港）、成田国際空港、関西国際空港に次いで、着陸回数、乗降客数ともに全国第 4 位の空港であることから、九州地方の空の玄関口といえる。

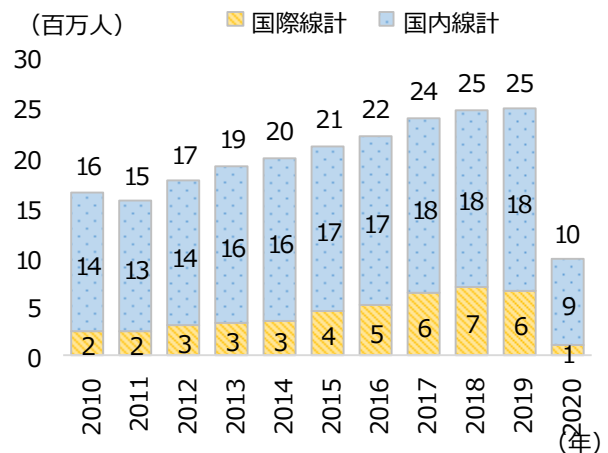
福岡空港と大牟田市間には、鉄道の他に大牟田駅発着の高速バスも運行されており※、九州外から訪れる観光客にとって利便性が高い空港と考えられる。

※高速バスは新型コロナウイルスの影響で 2022 年 3 月現在運休中。

図表 1 福岡空港の着陸回数



図表 2 福岡空港の乗降客数

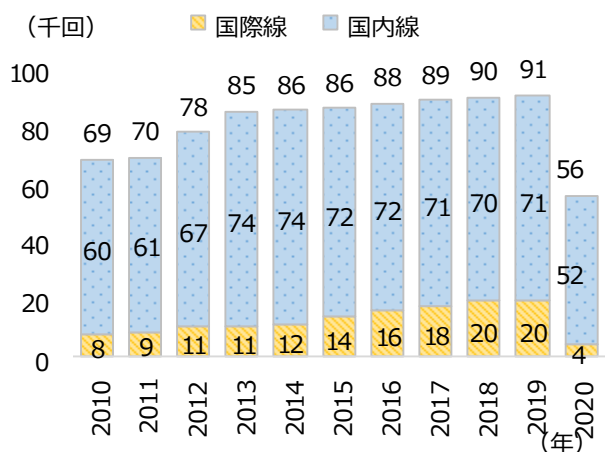


出所：国土交通省「空港管理状況調査」

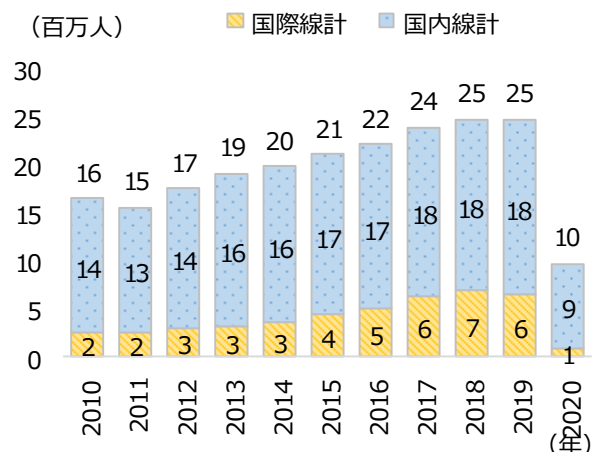
2. 九州佐賀国際空港

福岡空港の他に、有明海沿岸道路により大牟田市と結ばれている九州佐賀国際空港も、九州外から訪れる観光客にとって利便性が高い空港として考えられる。佐賀空港からは路線バスと電車を利用した場合、大牟田市までの所要時間は 2 時間程度かかるが、リムジンタクシーを利用すれば、45 分程度である。

図表 3 九州佐賀国際空港の着陸回数



図表 4 九州佐賀国際空港の乗降客数



出所：国土交通省「空港管理状況調査」

3. 九州旅客鉄道（JR 九州）

JR 九州の駅別乗車人員上位 300 駅をみると、鹿児島本線の駅が 2019 年度、2020 年度ともに上位 10 位の大半を占めている。

図表 5 JR 九州駅別乗車人員上位 10 駅及び大牟田市内の駅

2020 年度順位	2019 年度順位	駅名	線名	2020 年度乗車人員（人/日）
1	1	博多	鹿児島本線	87,674
2	2	小倉	鹿児島本線	25,014
3	3	鹿児島中央	鹿児島本線	14,013
4	4	大分	日豊本線	13,250
5	7	吉塚	鹿児島本線	12,524
6	8	黒崎	鹿児島本線	11,333
7	6	折尾	鹿児島本線	11,306
8	10	香椎	鹿児島本線	10,494
9	9	千早	鹿児島本線	10,452
10	5	熊本	鹿児島本線	9,465
83	70	大牟田	鹿児島本線	1,783
207	221	銀水	鹿児島本線	540
250	225	新大牟田	九州新幹線	364
244	246	吉野	鹿児島本線	393

（注）トップ 300 のみ公表されているため、300 位以下の乗車人員数は不明。

出所：JR 九州 HP

4. 西日本鉄道（西鉄）

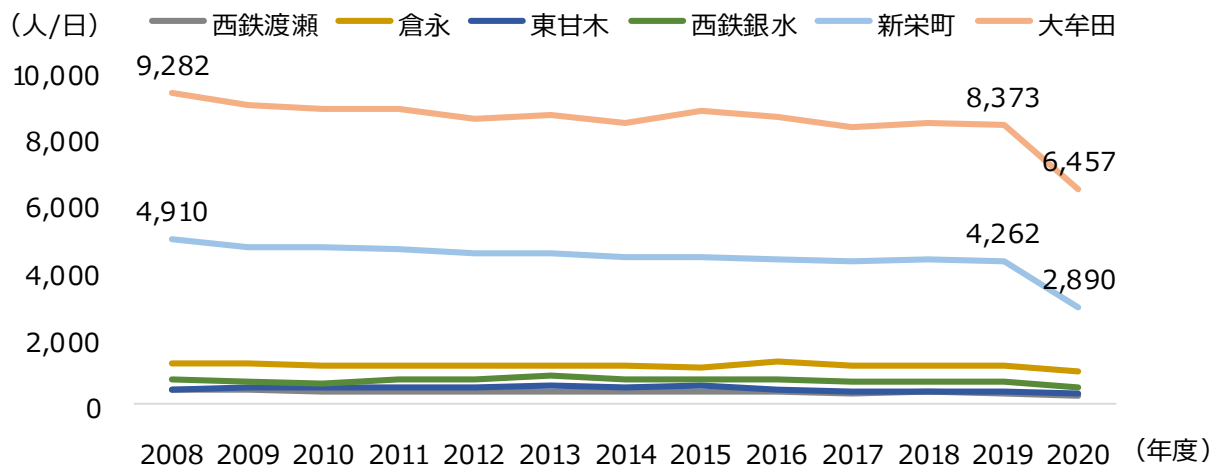
西鉄天神大牟田線の日あたりの乗降人員数をみると、大牟田駅は一日あたり約 6 千 5 百人が利用している。市内に停車する他の駅と比較すると、大牟田駅の利用者が最も多い。

図表 6 天神大牟田線の日あたり乗降人員上位 10 駅及び大牟田市内の駅

2020 年度順位	2019 年度順位	駅名	2020 年度乗車人員（人/日）
1	1	西鉄福岡（天神）	92,169
2	3	大橋	31,491
3	2	薬院	29,871
4	4	西鉄久留米	24,321
5	5	井尻	18,733
6	6	春日原	17,798
7	7	高宮	16,029
8	8	西鉄二日市	15,041
9	9	雑餉隈	12,776
10	10	下大利	12,227
16	16	大牟田	6,457
22	22	新栄町	2,890
32	33	倉永	966
40	40	西鉄銀水	527
43	44	東甘木	317
45	45	西鉄渡瀬	248

出所：西日本鉄道株式会社提供資料

図表 7 駅別一日当たり大牟田市内の乗降人員



出所：西日本鉄道株式会社提供資料

西鉄では、乗車券と体験や食事等がセットになった「お得きっぷ」を発売しており、その中のひとつに、2019 年度から発売を開始した「大牟田市動物園きっぷ」がある。また、近隣市では、柳川市への観光に利用できる、「大宰府・柳川観光きっぷ」「柳川特盛きっぷ」も発売されている。

2019 年 3 月からは、「THE RAIL KITCHEN CHIKUGO」（観光列車）が運行され、西鉄福岡（天神）駅-大牟田駅間の列車内で筑後地域の食材を取り入れた食事を楽しみながら大牟田までの旅を満喫することができる。

2) 大牟田市内の宿泊施設

大牟田市には宿泊施設が 11 あり、客室数は 376 室である。市内の宿泊施設は、ウェディングや宴会にも対応しているシティホテル、ビジネスホテルや旅館等、様々なジャンルがあるため、利用者のニーズに応じた宿泊施設を利用することができる。

図表 8 市内宿泊施設一覧

No	施設名	客室数（室）
1	ホテルニューガイアオームタガーデン	138
2	ニューロイヤルホテル大牟田	47
3	グランドホテル清風荘	30
4	おおむたハイツ	20
5	ビジネスホテルわらじ家本館	24
6	ビジネスホテルわらじ家別館	37
7	旅館清風荘	12
8	ビジネスホテルまゆみ	11
9	ビジネスインこめや	16
10	旅館白秀	13
11	ホテル C&S 新大牟田	28
11 施設		376

出所：大牟田市マップ及び各種資料より株式会社日本経済研究所作成（2021 年 4 月現在）

③ 大牟田市の観光動向

大牟田市観光基本計画【本編】p.6～17 参照

（４）大牟田市に関する各種アンケート結果

① 大牟田市観光消費動向調査

大牟田市を訪れた観光客を対象に、アンケートを実施した。

1) アンケートの概要

図表９ アンケートの概要

アンケート名	大牟田市観光消費動向調査	
調査目的	・大牟田市を訪れる観光客の動向や観光消費額、地域経済への波及効果を的確に把握する。 ・調査結果に基づき観光消費動向についての分析を行い、大牟田市の観光振興施策へフィードバックすることで、施策の効果的な推進を図る。	
調査対象者	大牟田市内の観光地点を訪問している観光客	
調査実施時期	平成 29 年度調査	平成 29 年 11 月 18 日（土）、19 日（日） 平成 30 年 3 月 10 日（土）、11 日（日）
	平成 30 年度調査	平成 30 年 6 月 2 日（土）、3 日（日） 平成 30 年 9 月 15 日（土）、16 日（日） 平成 30 年 11 月 23 日（金）、24 日（土） 平成 31 年 3 月 16 日（土）、17 日（日）
サンプル数	平成 29 年度調査	501 件
	平成 30 年度調査	1,011 件
調査方法	対面式アンケート調査	
調査場所	動物園、花ぷらす館、宮原坑	

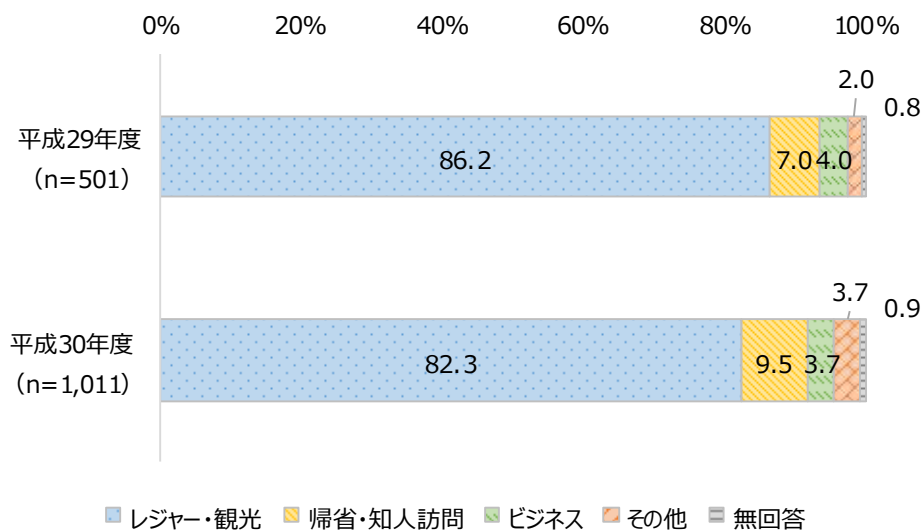
出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 29 年、平成 30 年）

2) アンケート結果

1. 訪問目的

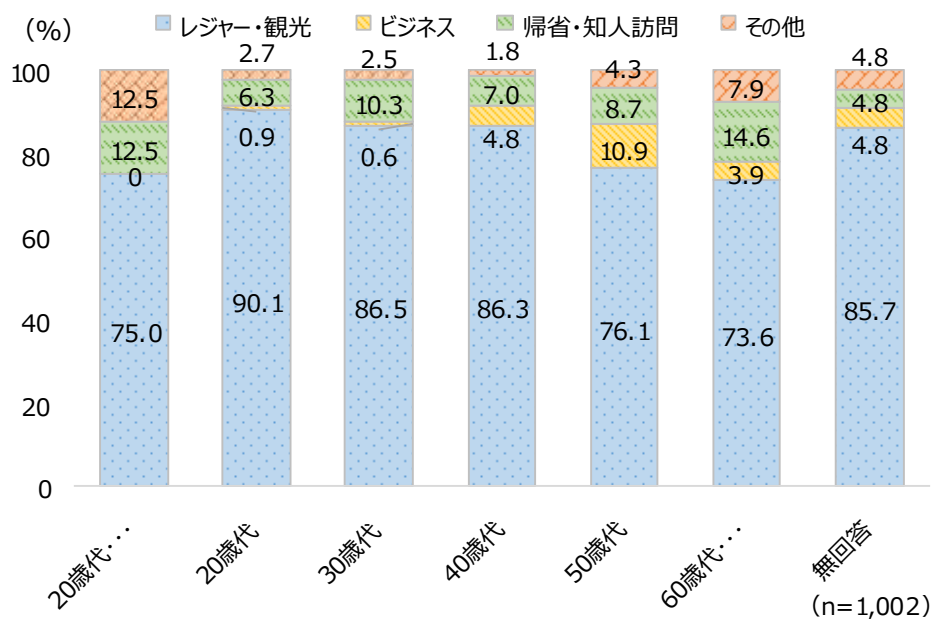
- 大牟田市を訪れた理由は、「レジャー・観光」が最も多く、8割以上を占めている。
- 観光目的以外に、「帰省・知人訪問」や「ビジネス」目的の人もある。
- 年代別では、全ての年代で「レジャー・観光」が最も多いが、40歳代以上は「ビジネス」目的の人も一定程度いる。

図表 10 訪問目的



出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 29 年、平成 30 年）

図表 11 年代別訪問目的（平成 30 年度）

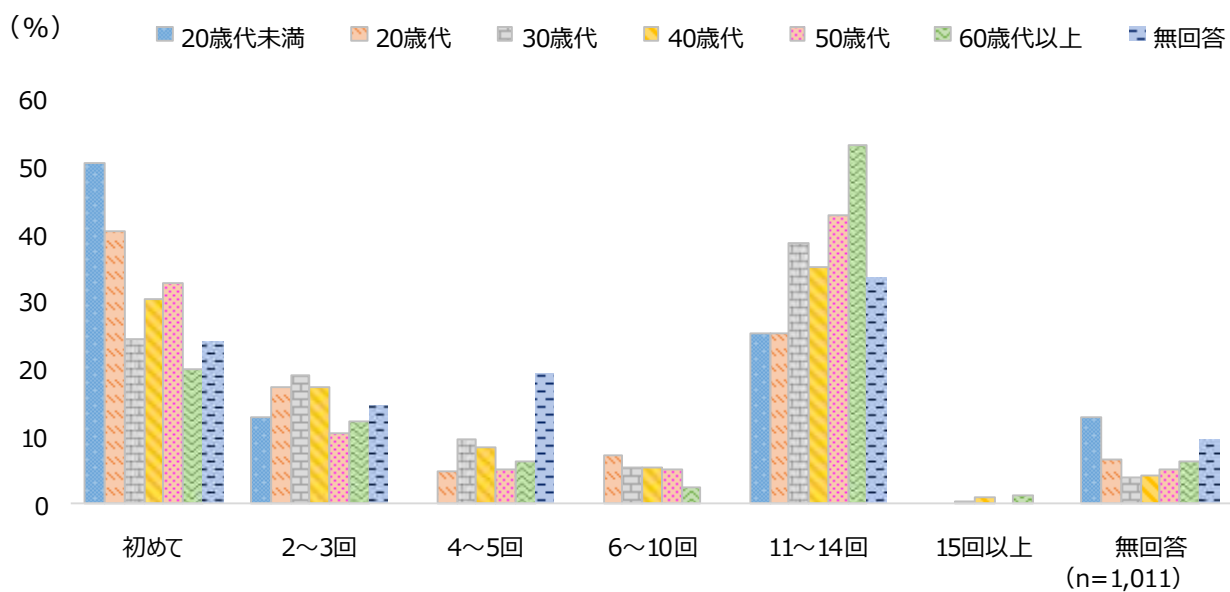


出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 30 年）

2. 訪問回数

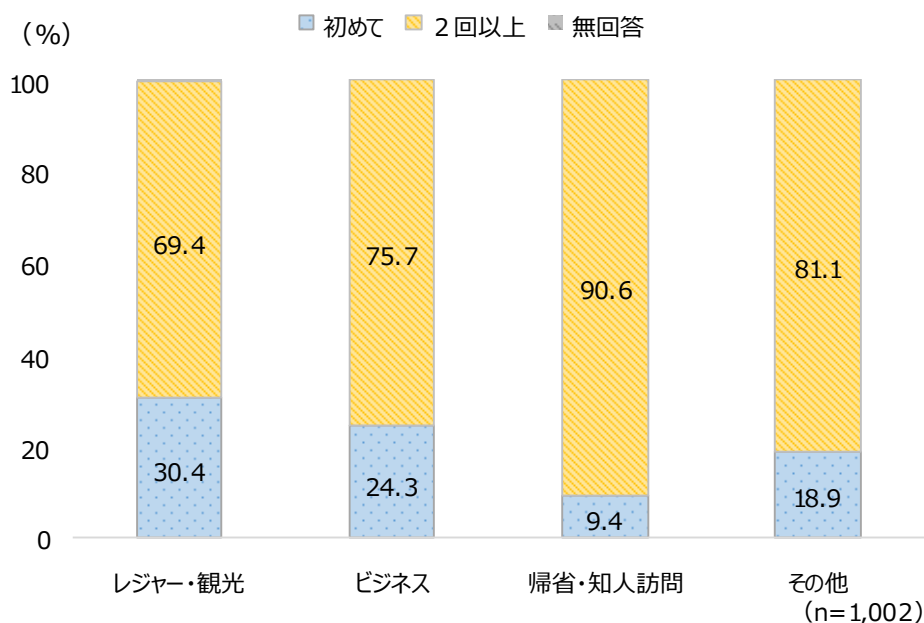
- 大牟田市への訪問回数は、「初めて」、もしくは「11 回～14 回」訪れている人が多い。
- 「初めて」は 20 歳代未満の若年層が多く、「11～14 回」は 50～60 歳代が多い。
- 目的別では、各目的ともに「2 回以上」が多い。

図表 12 年代別訪問回数（平成 30 年度）



出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 30 年）

図表 13 目的別訪問回数（平成 30 年度）

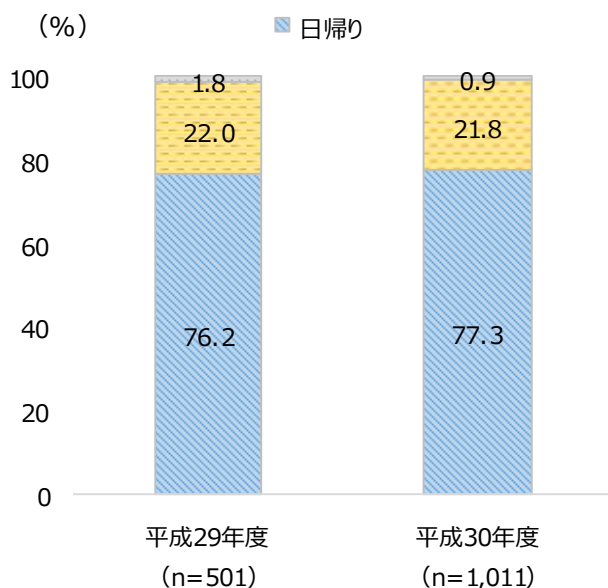


出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 30 年）

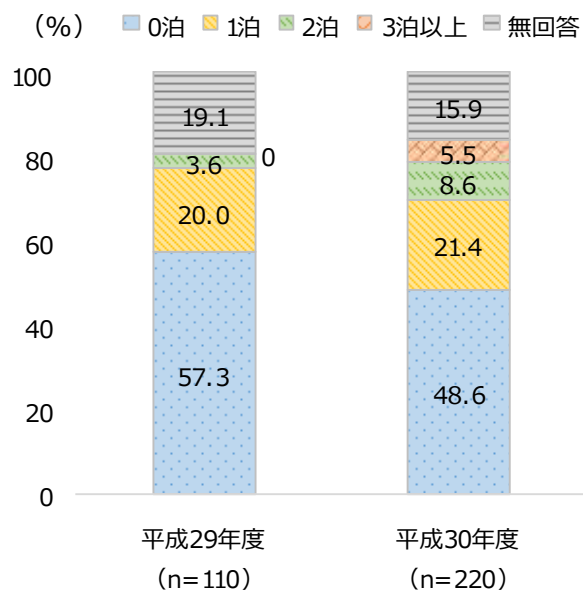
3. 宿泊

- 大牟田市を訪れる人の内、70%以上が日帰り客である。
- 宿泊を伴う旅行をした人の内、大牟田市内に宿泊した人は半分以下。
- 大牟田市への訪問目的別でみると、「レジャー・観光」目的の人は8割以上が日帰りである一方、「ビジネス」では3割以上、「帰省・知人訪問」では5割以上が宿泊している。

図表 14 日帰り/宿泊

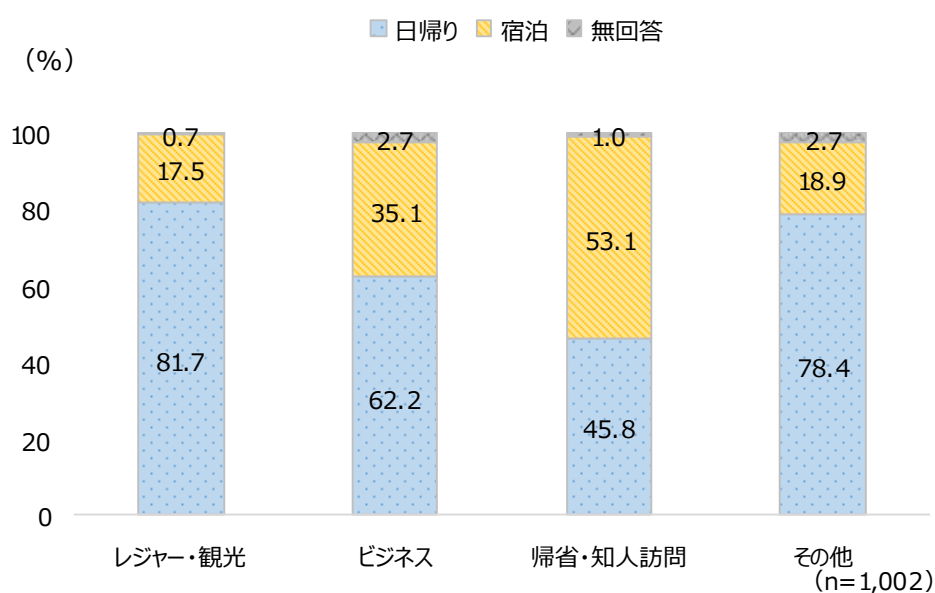


図表 15 大牟田市内の宿泊状況



出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 29 年、平成 30 年）

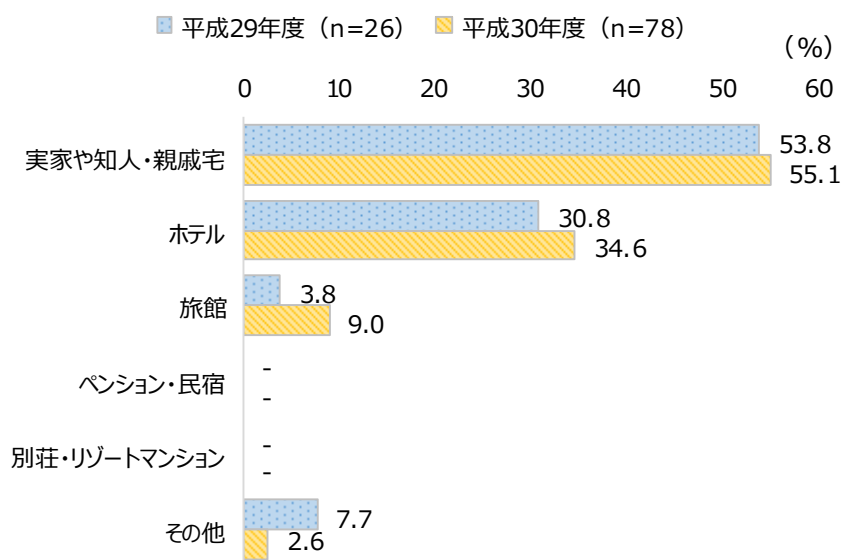
図表 16 訪問目的別日帰り/宿泊状況（平成 30 年度）



出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 30 年）

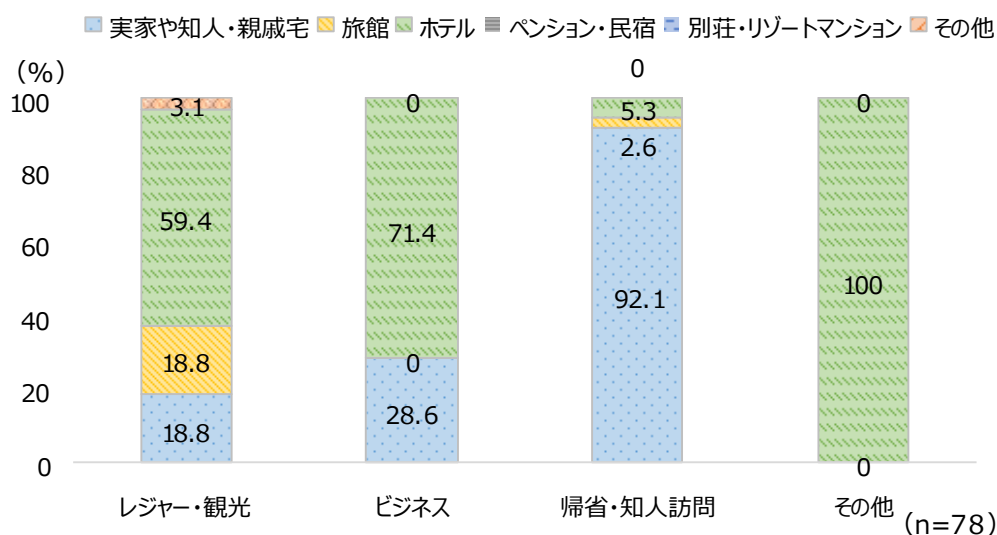
- 大牟田市の宿泊先は、「実家や知人・親戚宅」が最も多く半分以上を占めている。「実家や知人・親戚宅」に次いで、「ホテル」利用が多い。
- 訪問目的別では、「レジャー・観光」「ビジネス」目的の人は「ホテル」、「帰省・知人訪問」目的の人は、「実家や知人・親戚宅」が最も利用されている。

図表 17 大牟田市内の宿泊先



出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 29 年、平成 30 年）

図表 18 訪問目的別大牟田市内の宿泊先（平成 30 年度）

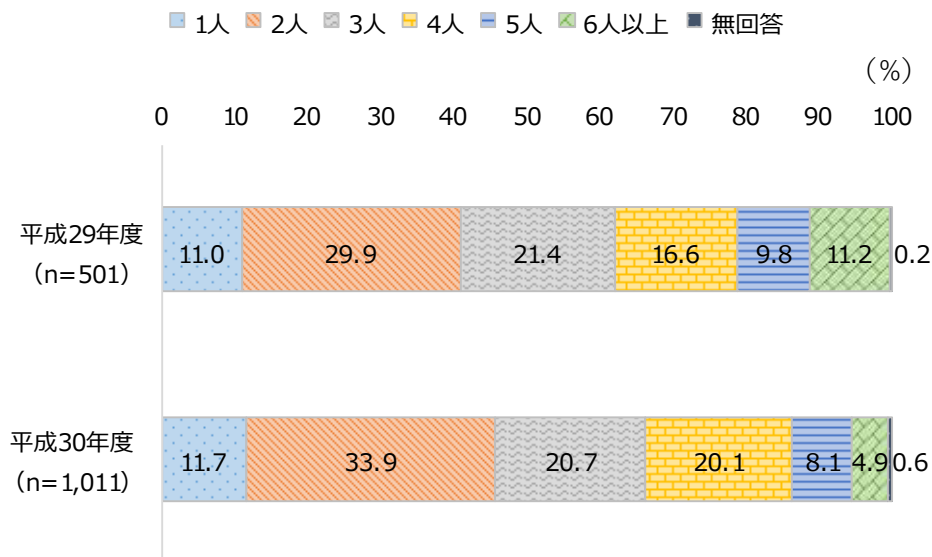


出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 30 年）

① 同行者

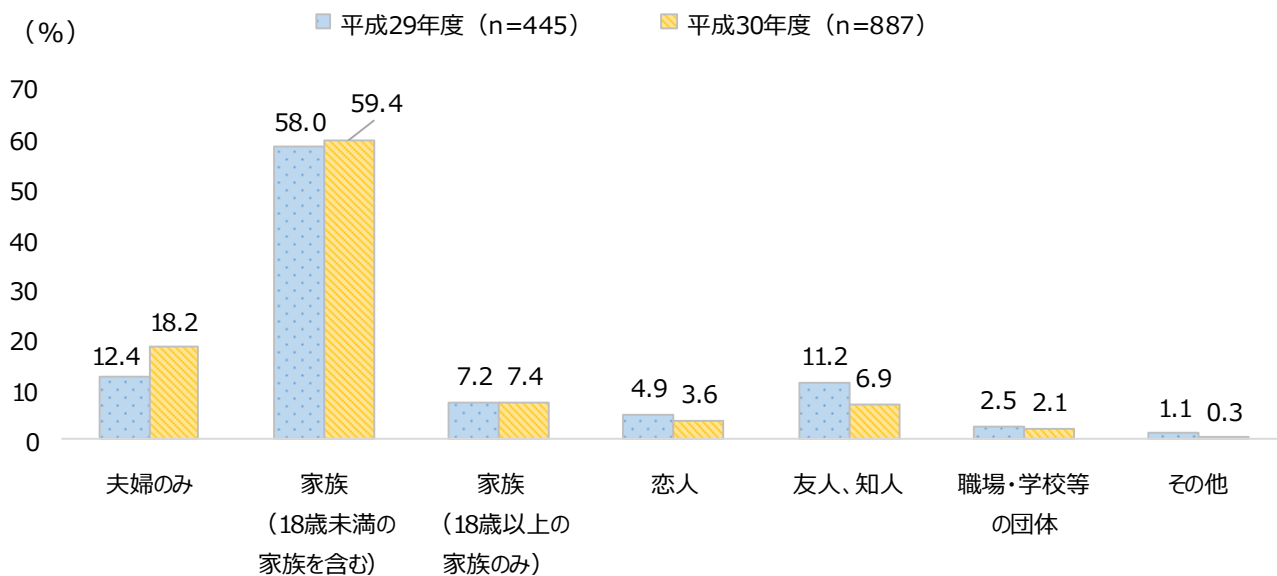
- 同行人数は、「2 人」が最も多い。
- 同行者は、「家族（18 歳未満の家族を含む）」が最も多いことから、ファミリー層が大牟田市を訪れていることがいえる。

図表 19 同行人数



出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 29 年、平成 30 年）

図表 20 同行者の関係

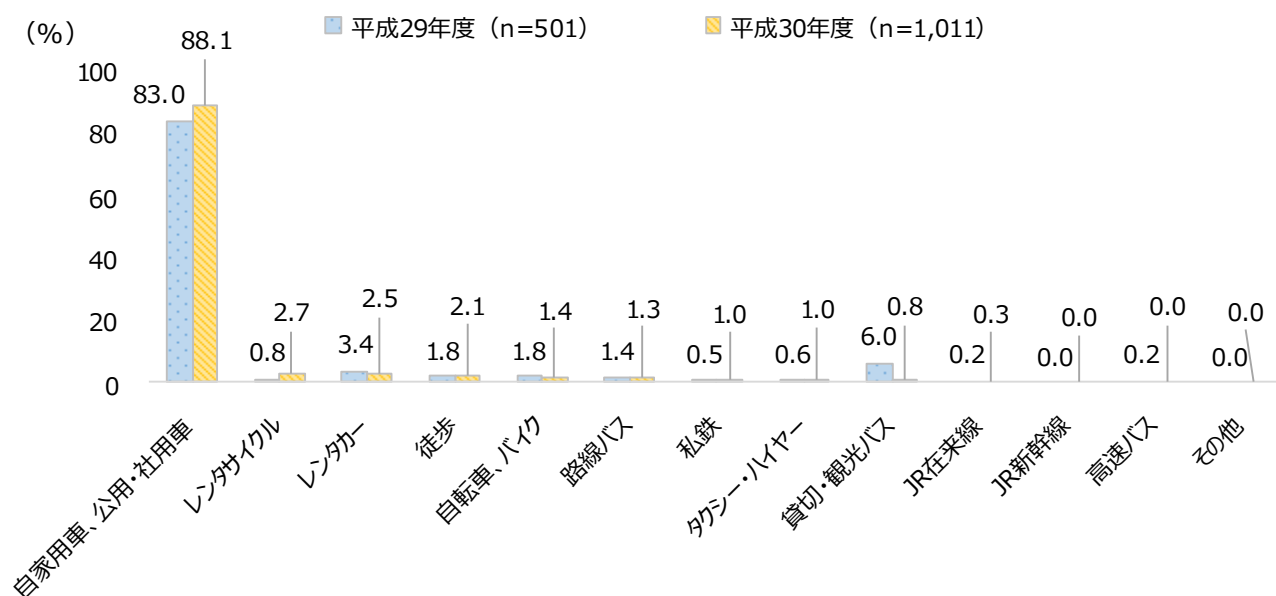


出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 29 年、平成 30 年）

② 交通手段

- 大牟田市内の交通手段は、「自家用車、公用・社用車」が最も多い。その他の交通手段と大差があることから、市内の主な交通手段は車であると言える。

図表 21 大牟田市内の交通手段

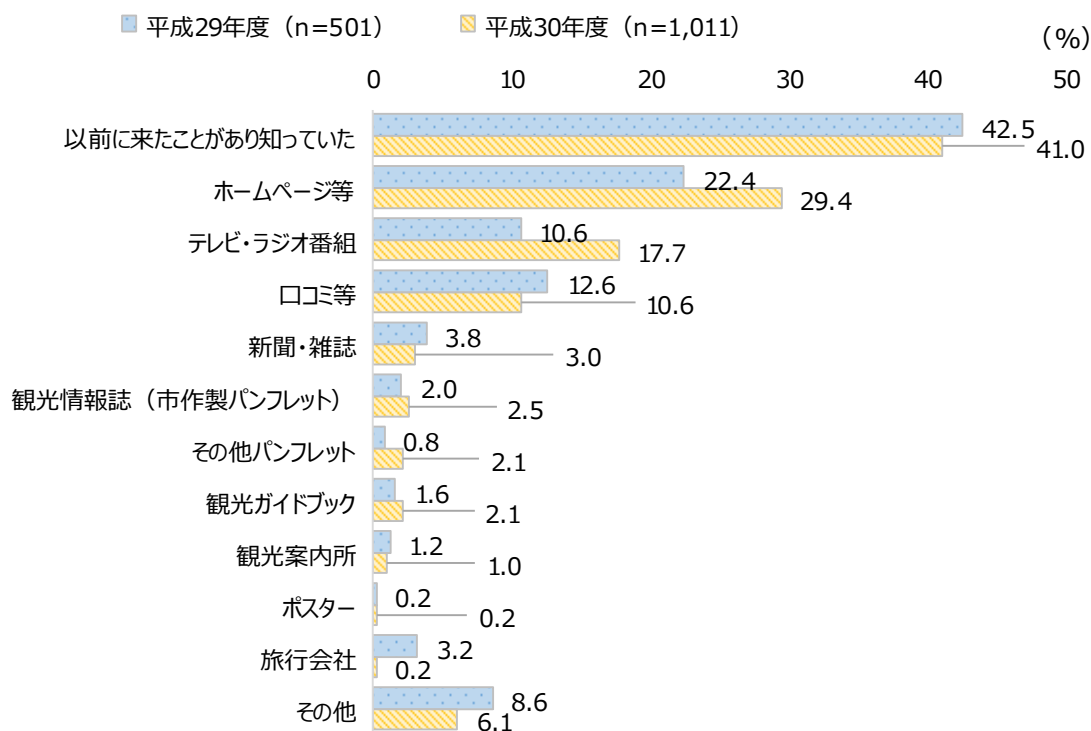


出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 29 年、平成 30 年）

③ 情報入手先

- 情報入手先は、「以前にきたことがあり知っていた」が最も多く、次いで「ホームページ等」が続く。

図表 22 情報入手先

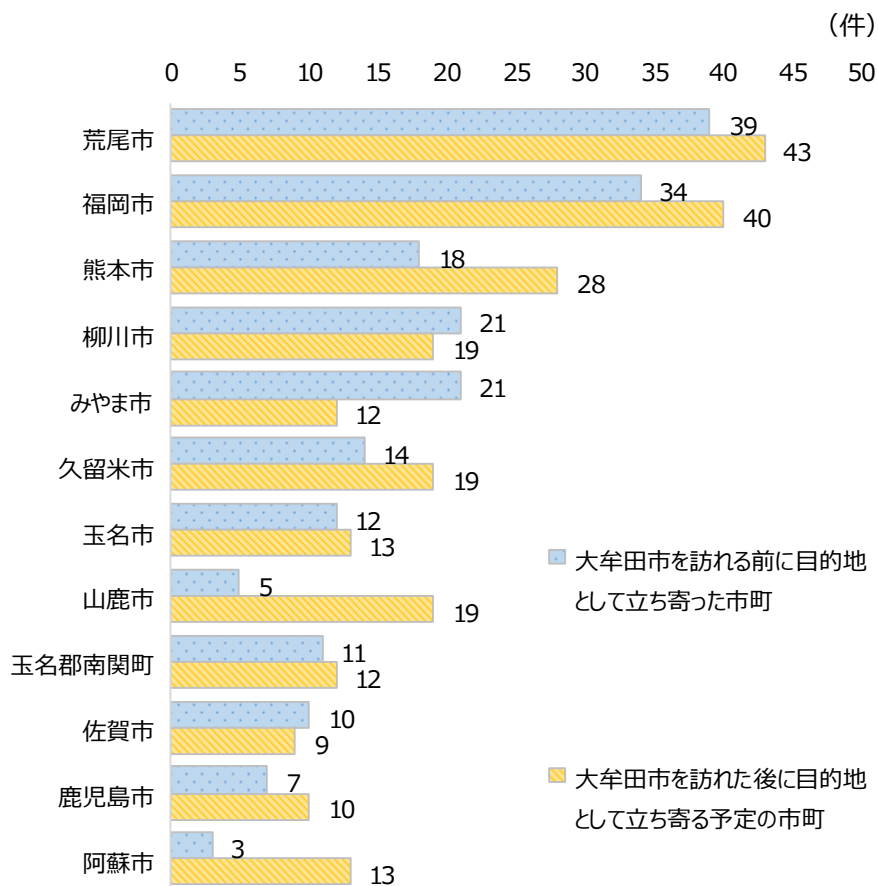


出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 29 年、平成 30 年）

④ 立ち寄り先

- 大牟田市への訪問前後に訪れた市町は、荒尾市や柳川市等の近隣市町、もしくは福岡市、熊本市、佐賀市といった各県の大都市とセットで訪れている人が多い。

図表 23 立ち寄った市町

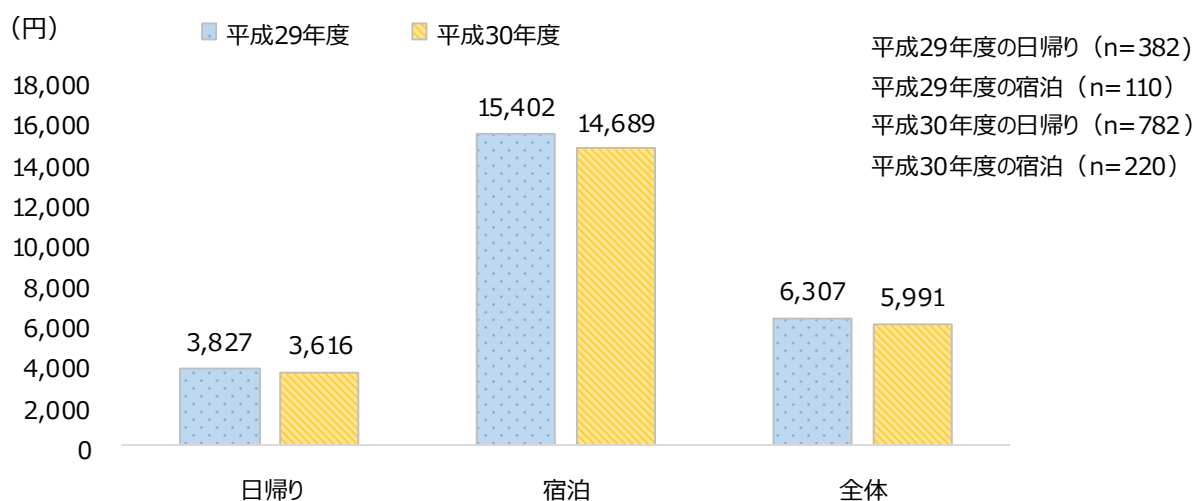


出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 29 年、平成 30 年）

⑤ 消費額

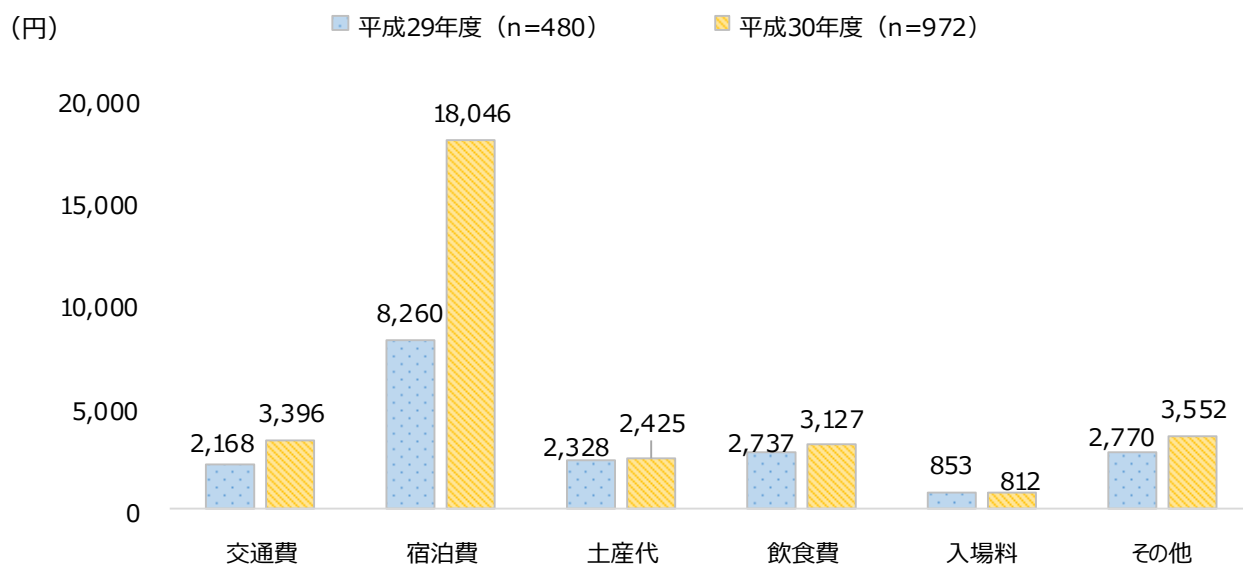
- 大牟田市内の観光における一人あたりの平均消費額は、日帰りでは3千円代、宿泊では1万4千～5千円代。宿泊した人の方が、平均消費額は高い傾向。
- 項目別の平均消費単価では、「宿泊費」が最も高い。このことから、大牟田市の消費額を増加させるためには、大牟田市内で宿泊する観光客を獲得することが重要と言える。
- 平成30年度の大牟田市の観光消費額は、約12億円である。内訳をみると、県外宿泊客が最も大きなウェイトを占めている。なお、おおむた「大蛇山」まつり等、季節のイベント等の消費額は反映されていない。

図表 24 一人あたりの平均消費額



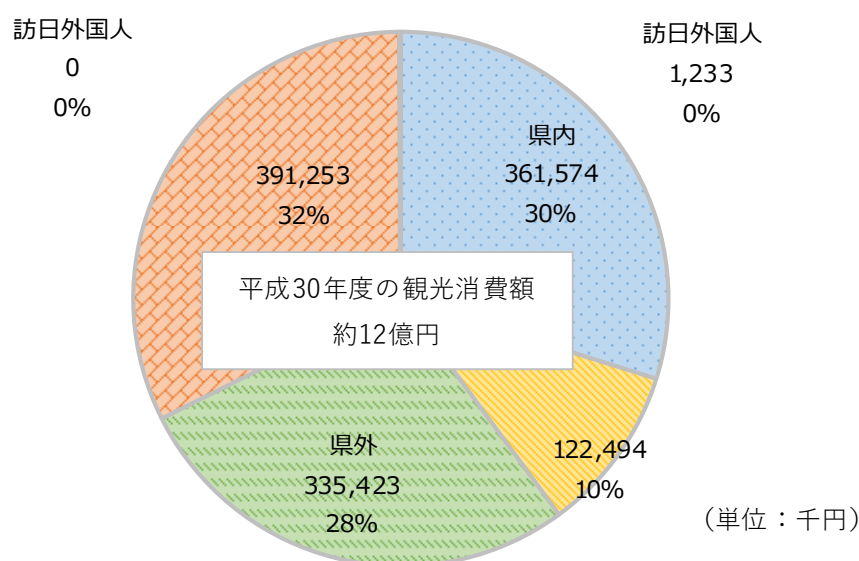
出所：大牟田市観光消費動向調査（平成29年、平成30年）

図表 25 平均消費単価の内訳



出所：大牟田市観光消費動向調査（平成29年、平成30年）

図表 26 大牟田市の観光消費額（平成 30 年度）



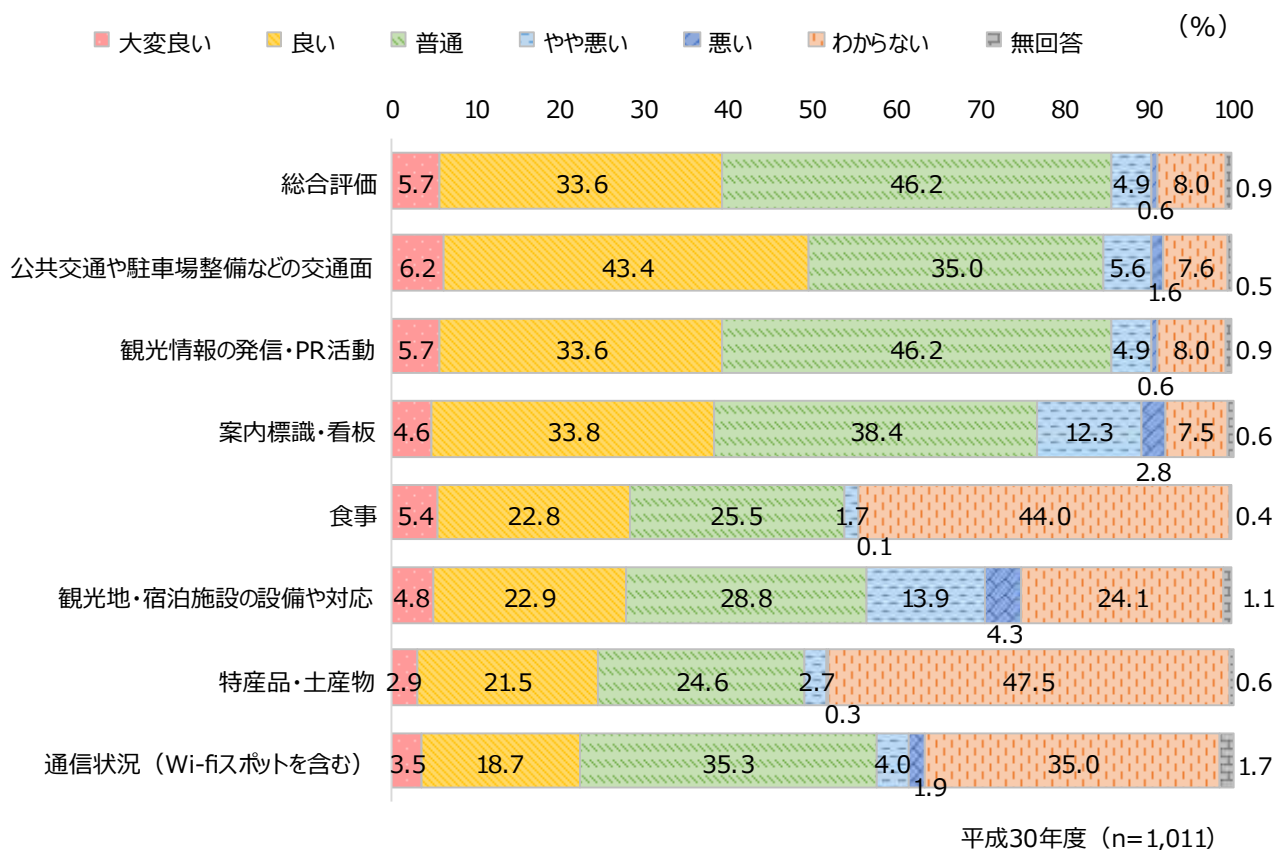
※おおむね「大蛇山」まつり等、季節のイベント等の消費額は反映されていない。

出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 30 年）

⑥ 評価・満足

- 大牟田市の観光に対する総合評価は、約 4 割の人が「大変良い」「良い」と満足している。個別で見ると、交通面の満足度が最も高い。

図表 27 評価・満足度（平成 30 年度）

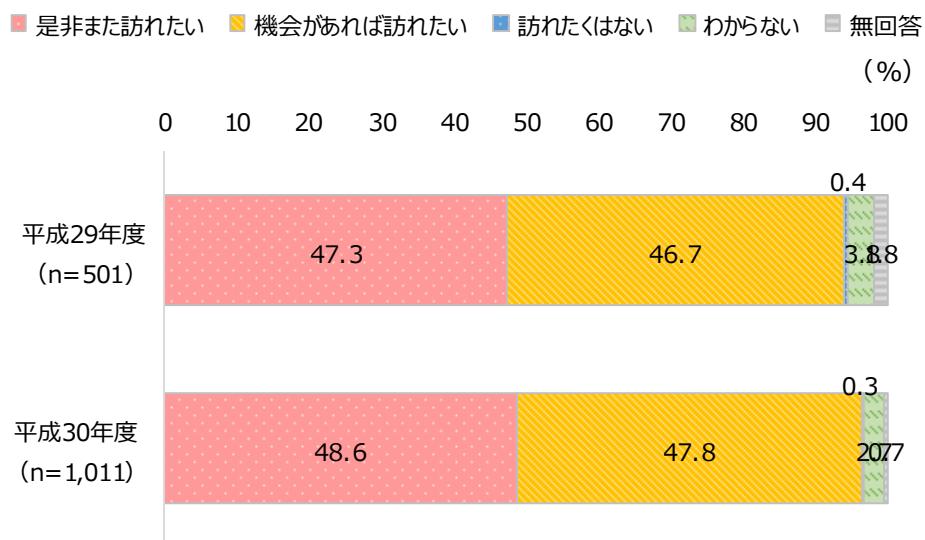


出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 30 年）

⑦ 再訪意向

- 大牟田市への再訪意向は、「是非また訪れたい」「機会があれば訪れたい」が 9 割以上を占めている。

図表 28 再訪意向



出所：大牟田市観光消費動向調査（平成 29 年、平成 30 年）

② 大牟田市民向けアンケート

1) アンケートの概要

図表 29 アンケートの概要

アンケート名	まちづくり市民アンケート		
調査目的	・大牟田市まちづくり総合プランに掲げる施策、並びにアクションプログラムに掲げる事業について、市民の意向を把握するとともに、施策の達成状況を検証するために実施。 ・把握した市民ニーズ等を今後推進していく施策に活かしていくことで、同プランに掲げる都市像の実現を目指していくもの。		
調査対象者	住民基本台帳から無作為抽出した 18 歳以上の市民 1,000 人		
調査実施時期	平成 30 年度調査	平成 30 年 5 月 15 日～6 月 4 日	
	令和元年度調査	令和元年 5 月 17 日～6 月 14 日	
	令和 2 年度調査	令和 2 年 4 月 27 日～6 月 27 日	
	令和 3 年度調査	令和 3 年 4 月 20 日～5 月 17 日	
回収状況	平成 30 年度調査	有効回収数：450 件	有効回収率：45.0%
	令和元年度調査	有効回収数：534 件	有効回収率：53.4%
	令和 2 年度調査	有効回収数：623 件	有効回収率：62.3%
	令和 3 年度調査	有効回収数：546 件	有効回収率：54.6%
調査方法	郵送法（封書による郵送・回収）		

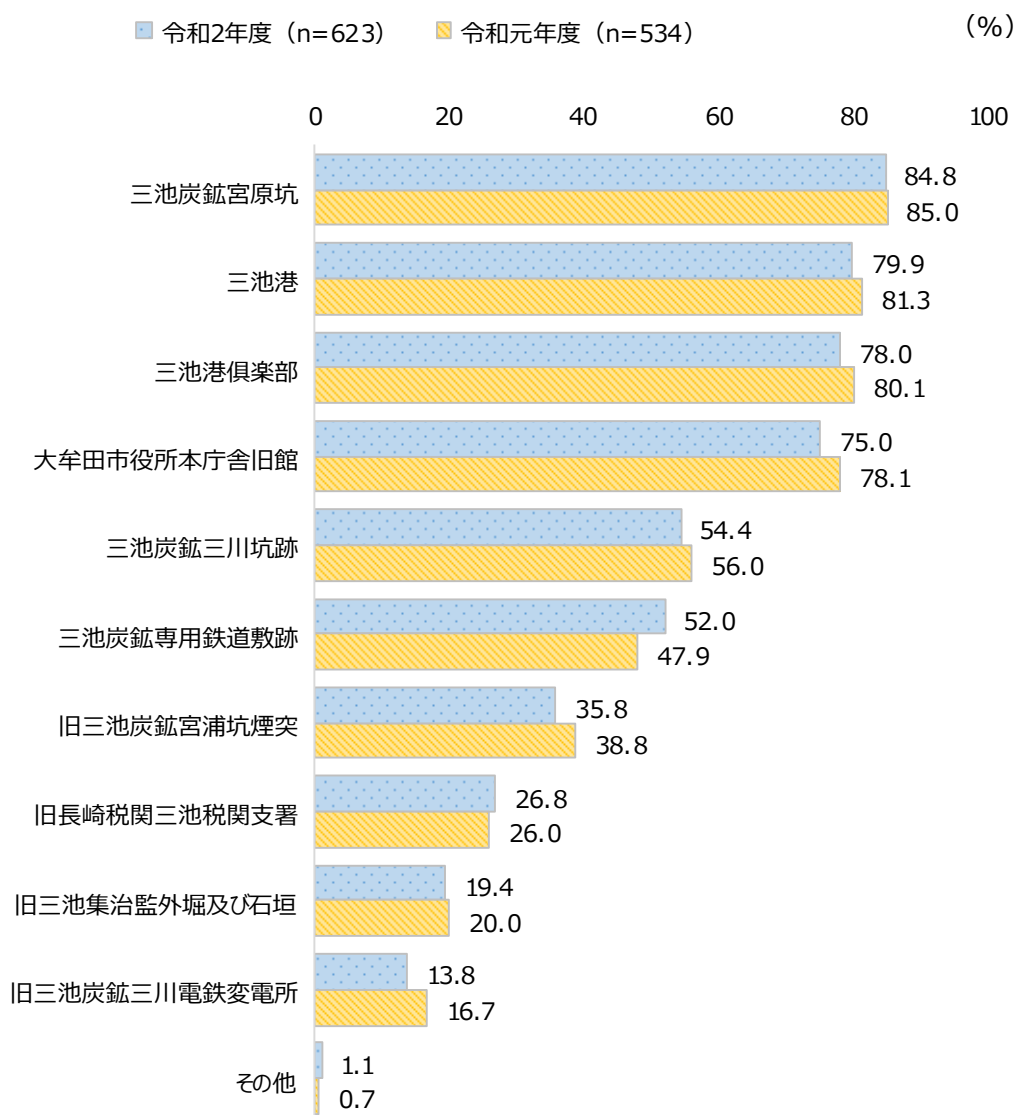
出所：まちづくり市民アンケート（令和 2 年度）

2) アンケート結果

① 近代化遺産の認知度

- 近代化遺産の中で認知度が高い遺産は、「三池炭鉱宮原坑」「三池港」「三池港倶楽部」「大牟田市役所本庁舎旧館」である。

図表 30 近代化遺産の認知度



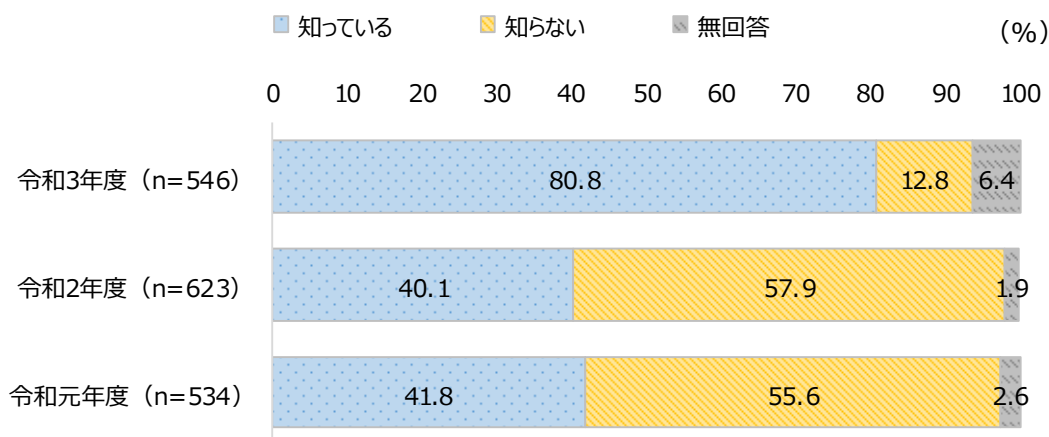
出所：まちづくり市民アンケート（令和2年度）

※令和3年度のアンケートでは、同じ設問はない。

② 世界遺産の価値に関する認知度

- 三池炭鉱関連資産を含む「明治日本の産業革命遺産」の価値について、世界遺産の価値の理解は 4 割であり、登録されたことは 8 割が知っているという結果となった。

図表 31 世界遺産の価値に関する認知度



※令和元年度及び 2 年度と、令和 3 年度の設問は以下のとおり。

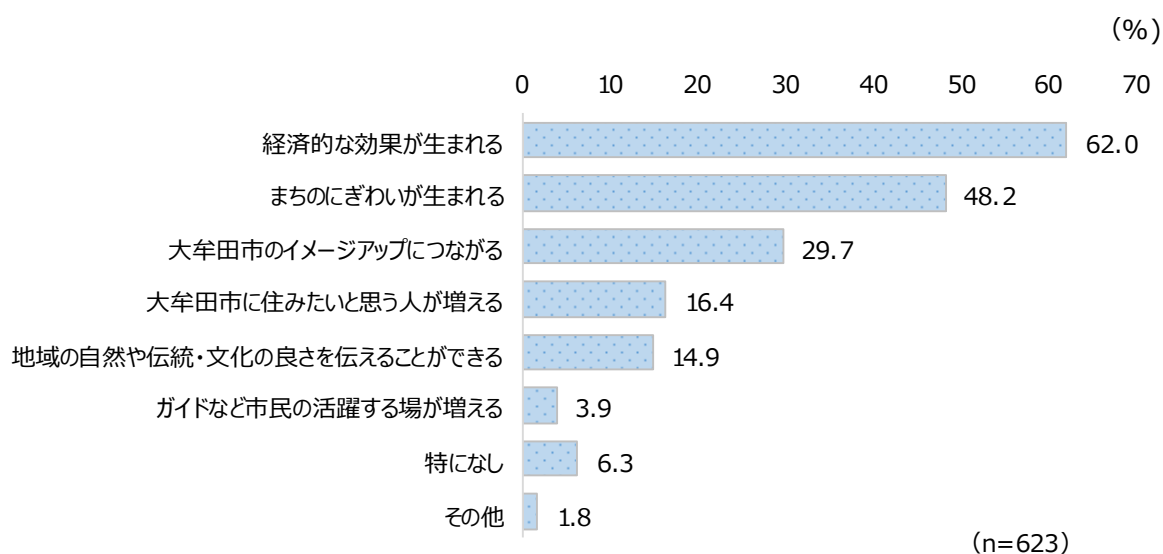
- 令和元年度及び 2 年度：あなたは、三池炭鉱関連資産（宮原坑、三池炭鉱専用鉄道敷跡、三池港）を含む「明治日本の産業革命遺産」の価値が、「ヨーロッパで始まった産業革命が、西洋から非西洋に伝わり、初めて成功したことを示す遺産群であること」を知っていますか。（○印は 1 つ）
- 令和 3 年度：「三池炭鉱関連資産（宮原坑、三池炭鉱専用鉄道敷跡、三池港）を含む「明治日本の産業革命遺産」は、「産業革命が、西洋から非西洋に伝わり、初めて成功したことを示す遺産群であること」に価値があり、それが評価されて世界遺産に登録されました。あなたはこのことを知っていますか。（○印は 1 つ）

出所：まちづくり市民アンケート（令和 2 年度、令和 3 年度）

③ 観光へ期待している効果

- 「経済的な効果が生まれる」が最も高く、これに「まちのにぎわいが生まれる」、「大牟田市のイメージアップにつながる」が続く結果となった。

図表 32 観光へ期待している効果



出所：まちづくり市民アンケート（令和 2 年度）

※令和 3 年度のアンケートでは、同じ設問はない。

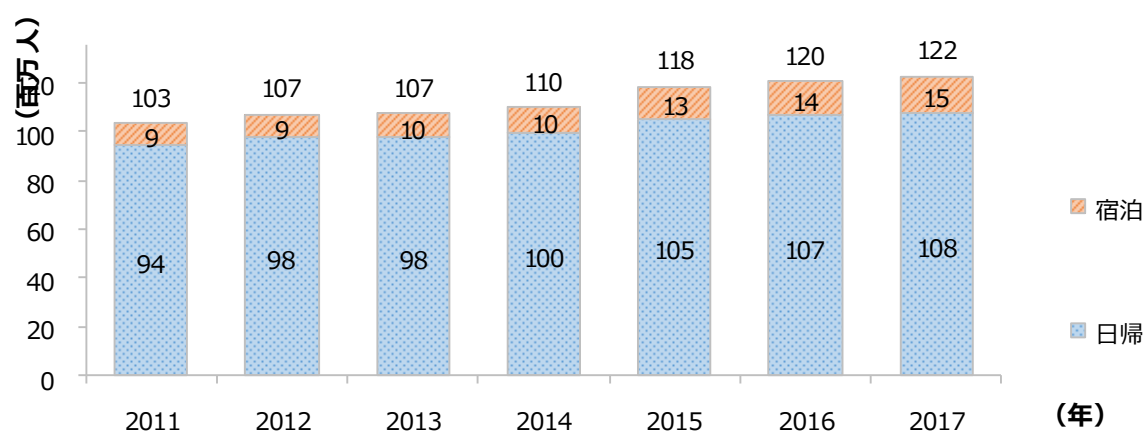
3. 福岡県の観光動向

(1) 日帰り及び宿泊旅行の動向

福岡県の日帰り及び宿泊旅行者数の推移をみると、どちらも年々増加しており、構成比からは宿泊旅行が伸びていることがわかる。

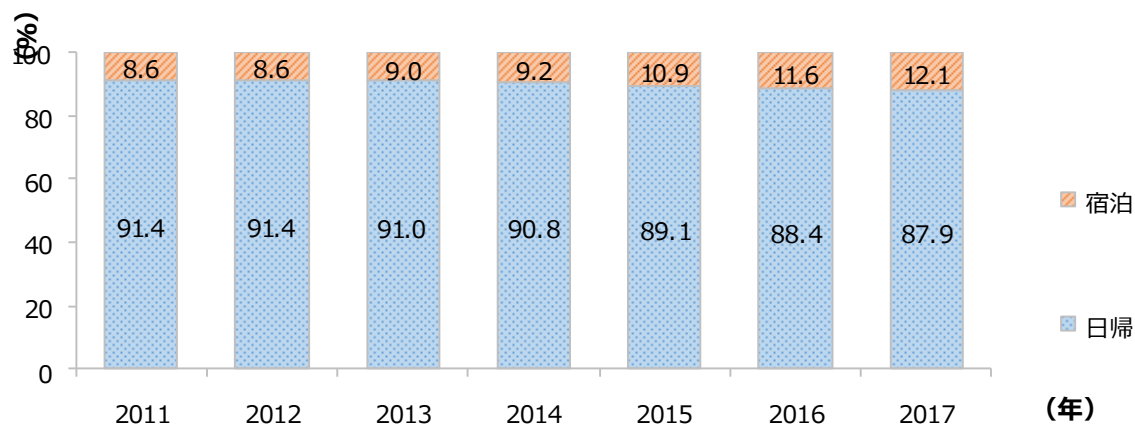
なお、2019年の都道府県別の宿泊者数では、福岡県は全国第9位、九州地方では最も宿泊者数が多い県となった。

図表 33 日帰り及び宿泊旅行者数の推移



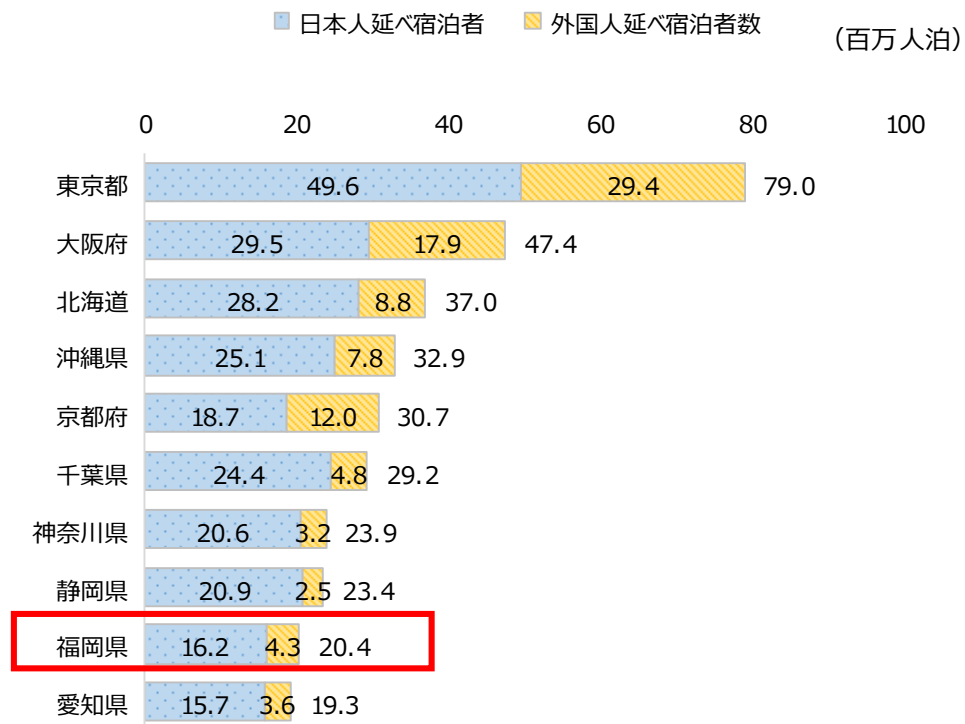
出所：福岡県観光入込客調査（県基準）

図表 34 日帰り及び宿泊者数の構成比の推移



出所：福岡県観光入込客調査（県基準）

図表 35 2019 年都道府県別宿泊者数（トップ 10）



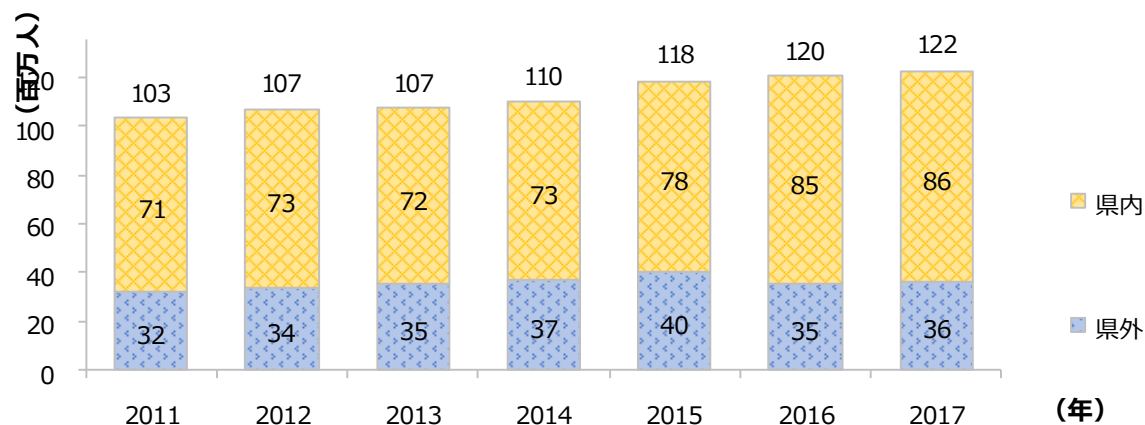
(注) 日本人延べ宿泊者は、全体から外国人延べ宿泊者を引いた数を示している。

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より株式会社日本経済研究所作成

(2) 県内及び県外からの旅行の動向

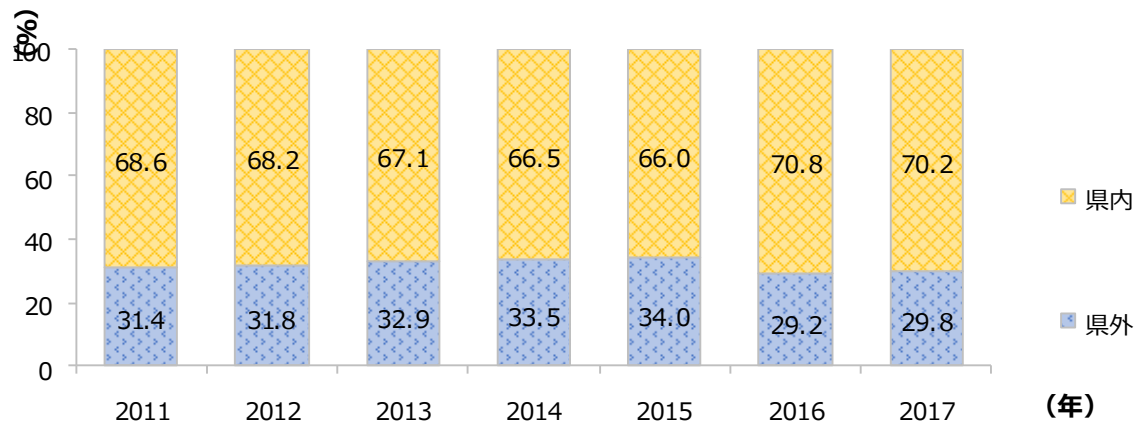
福岡県の県内及び県外からの旅行者数の推移をみると、県内からの旅行者は増加している一方、県外からは横ばい傾向である。構成比でみると、県内からが7割、県外からが3割を占める。

図表 36 県内及び県外からの旅行者数の推移



出所：福岡県観光入込客調査（県基準）

図表 37 県内及び県外からの旅行者数の構成比の推移

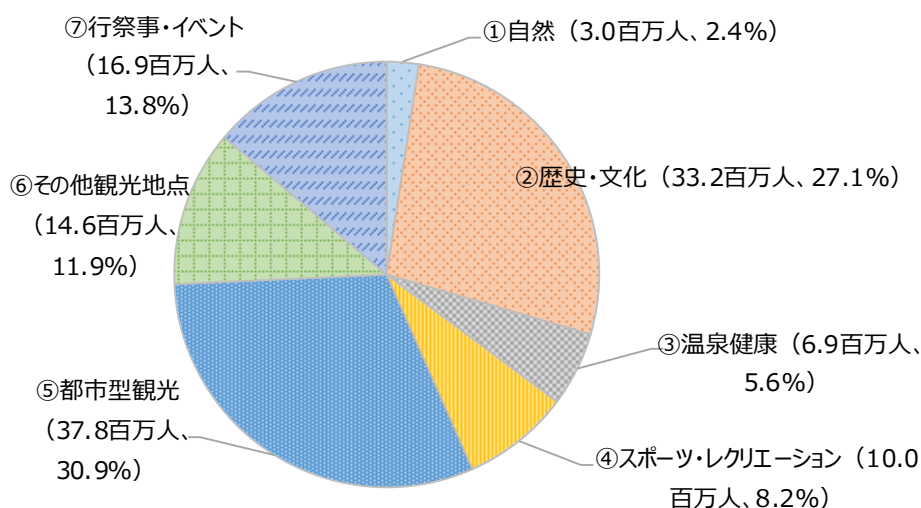


出所：福岡県観光入込客調査（県基準）

(3) 目的別 (2017 年度)

観光の目的別にみると、2017 年度において最も構成比が高いのは「都市型観光」で全体の 3 割を占めた。次いで多いのが「歴史・文化」、「行祭事・イベント」の順であった。

図表 38 旅行の目的別の人数及び構成比 (2017 年度)

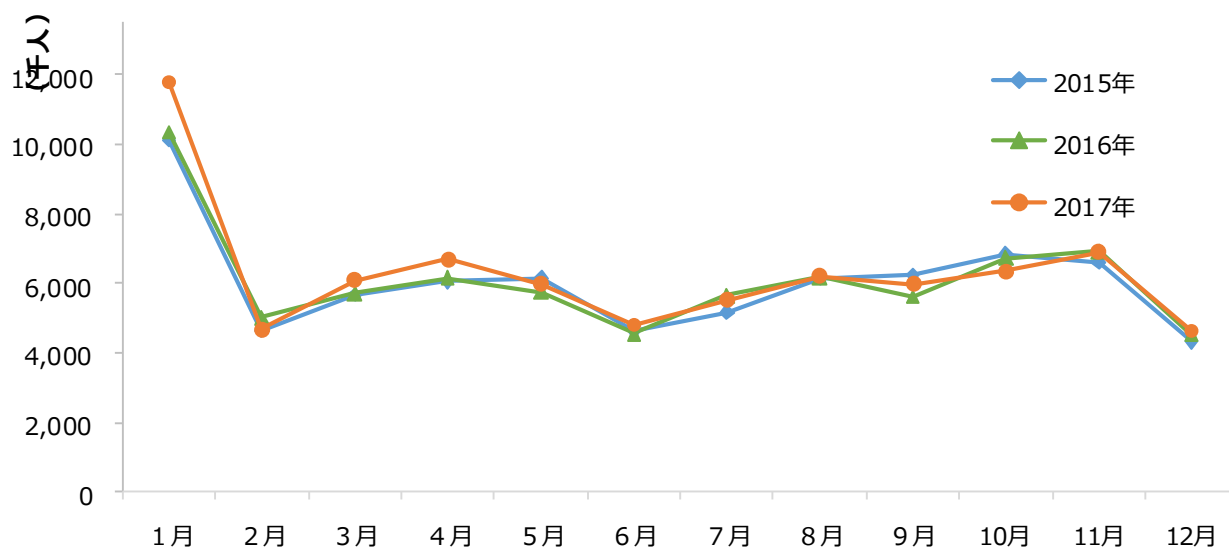


出所：福岡県観光入込客調査

(4) 月別 (2015～2017 年度)

2015～2017 年度における月別の観光入込客数をみると、最も多いのが 1 月で、太宰府天満宮をはじめとした初詣客などによる影響と考えられる。その他の月に関しては平準化されており、安定した観光客の入込が確保できている。

図表 39 月別の観光入込客数



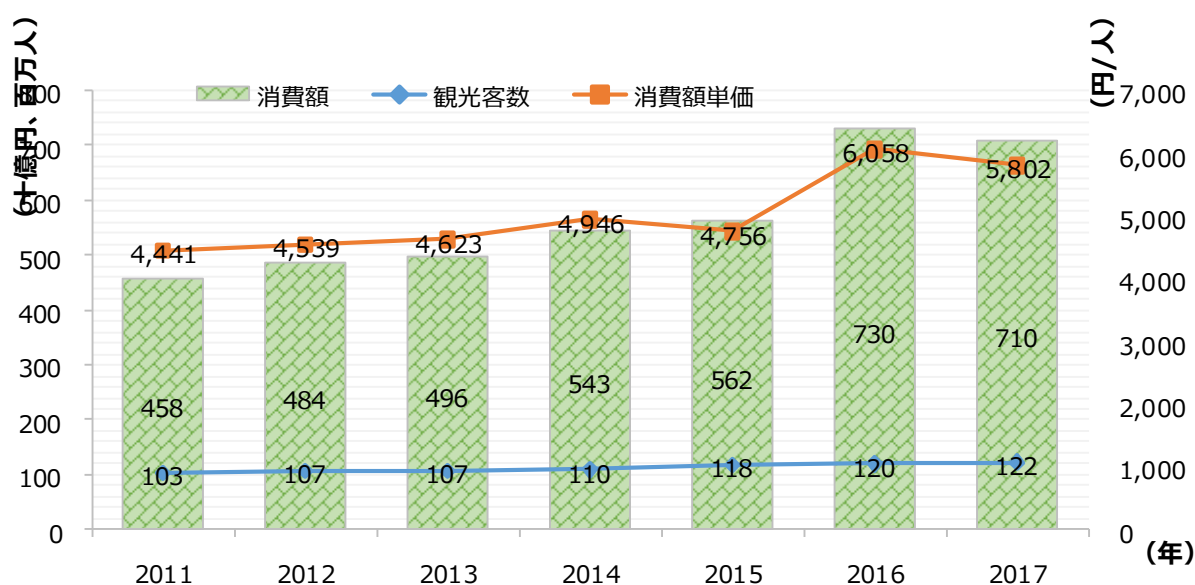
出所：福岡県観光入込客調査

(5) 観光消費額

観光消費額をみると、消費額、観光客数、消費額単価ともに増加基調にある。ただし、消費額は報告があった市町村の合計でもあり、福岡県下の各市町村が一概に以下の傾向にあるとは限らない。

なお、2017 年における施設利用者が 100 万人以上の施設の大半において年消費額が報告されていない。

図表 40 消費額・観光客数・消費額単価の推移



出所：福岡県観光入込客調査

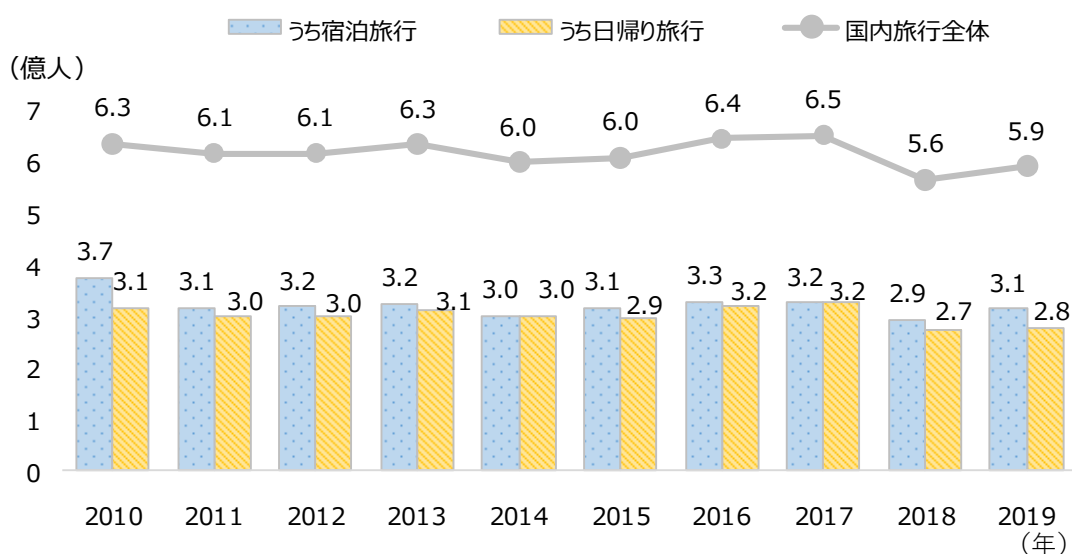
4. 全国の旅行動向（2019 年まで）

（1）入込客数の推移

国内の旅行者数をみると、日本人は宿泊旅行・日帰り旅行をあわせて毎年約 6 億人が国内を旅行し、その数値は横ばい傾向である。一方、訪日外国人旅行者は、2003 年から 2019 年にかけて増加し、2019 年は 3,188 万人と過去最高を記録した。

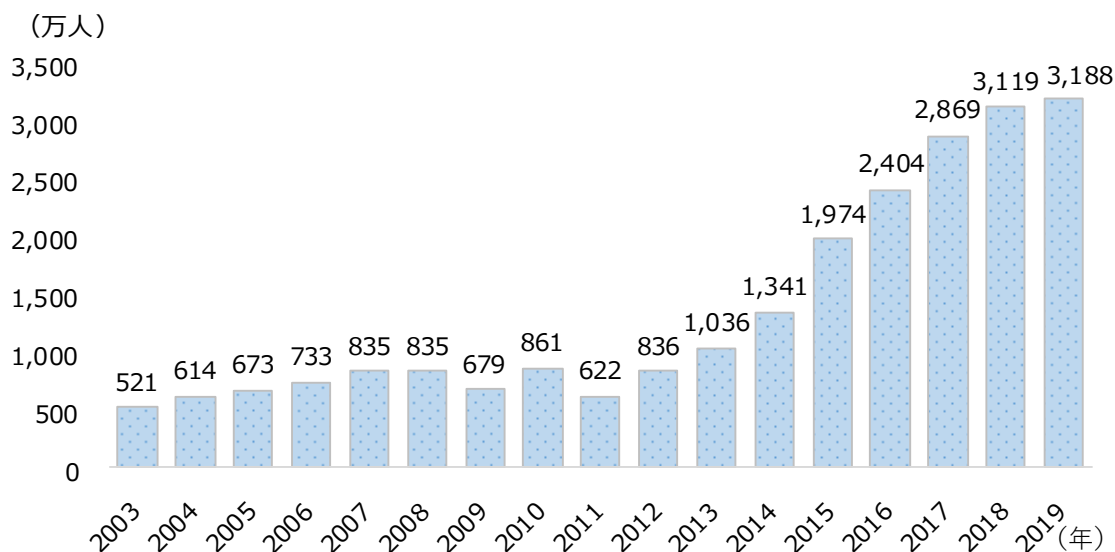
数でみると、圧倒的に日本人旅行者の方が多いが、伸び率は訪日外国人旅行者数の方が高い。

図表 41 日本人の国内延べ旅行者数の推移



出所：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

図表 42 訪日外国人旅行者数の推移

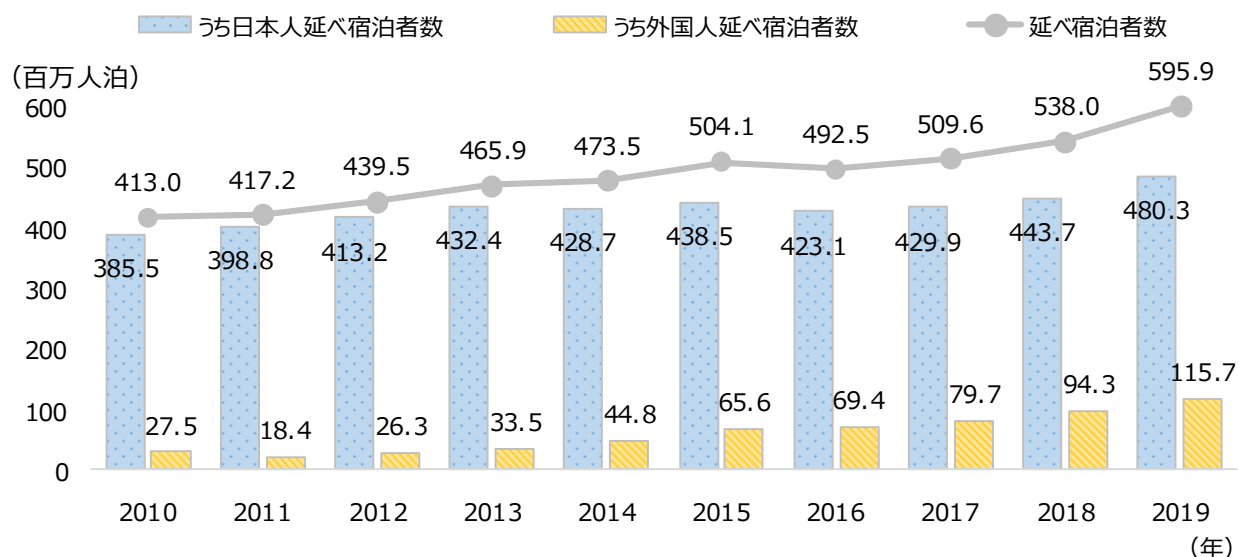


出所：日本政府観光局（JNTO）

(2) 国内宿泊旅行者数の推移

国内の延べ宿泊者数をみると、全体としては増加傾向にある。訪日外国人旅行者は増加しているものの、日本人は横ばい傾向であることから、全体が増加している理由として訪日外国人旅行者の増加が寄与していると考えられる。

図表 43 国内宿泊旅行者数の推移



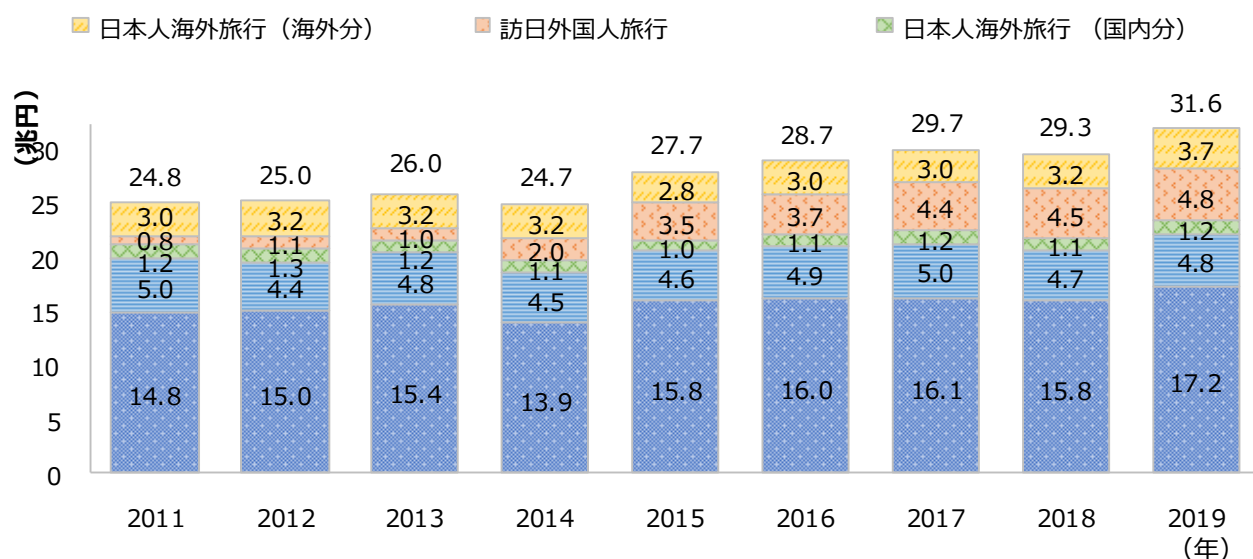
(注) 2010年4～6月調査より、従業者数9人以下の宿泊施設を調査対象に加える拡充をしている。

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

(3) 旅行消費額の推移

2019年の旅行総消費額は前年比8.2%増の31.6兆円となり、日本人国内宿泊旅行、訪日外国人旅行ともに堅調に増加している。

図表 44 旅行消費額の推移

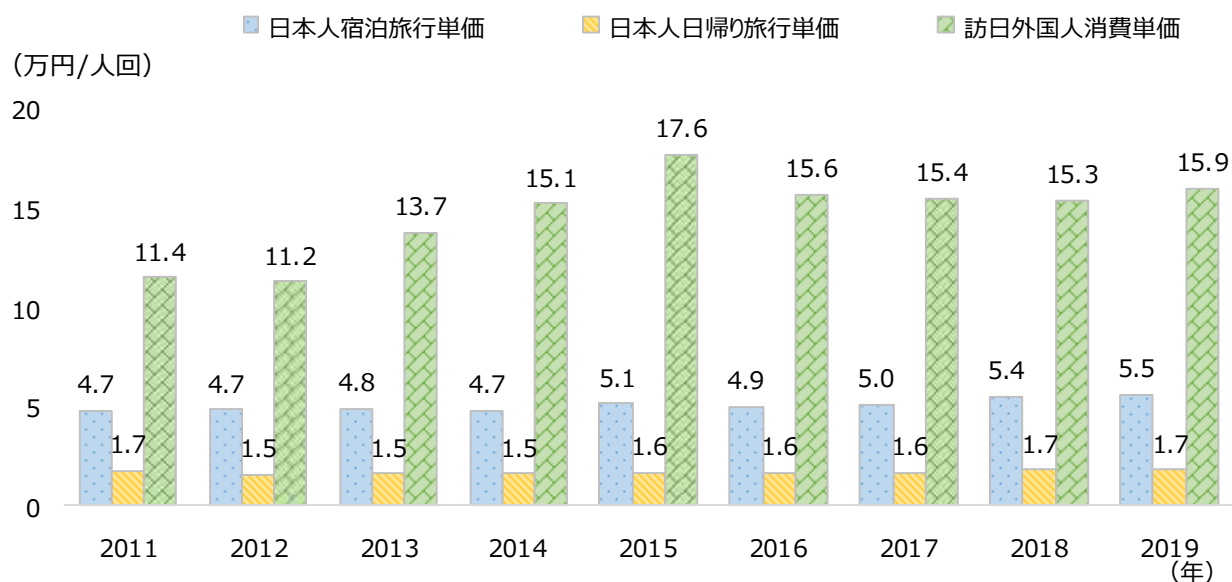


出所：観光庁「訪日外国人消費動向調査」、「旅行・観光消費動向調査」より算出

（４）１回当たりの旅行単価

１人１回当たりの旅行単価は、訪日外国人が突出して高い。日本人では、宿泊旅行が近年上昇傾向にあり 2019 年は 5.5 万円/人回、日帰り旅行単価は 1.7 万円前後で推移している。

図表 45 １回当たりの旅行単価



出所：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

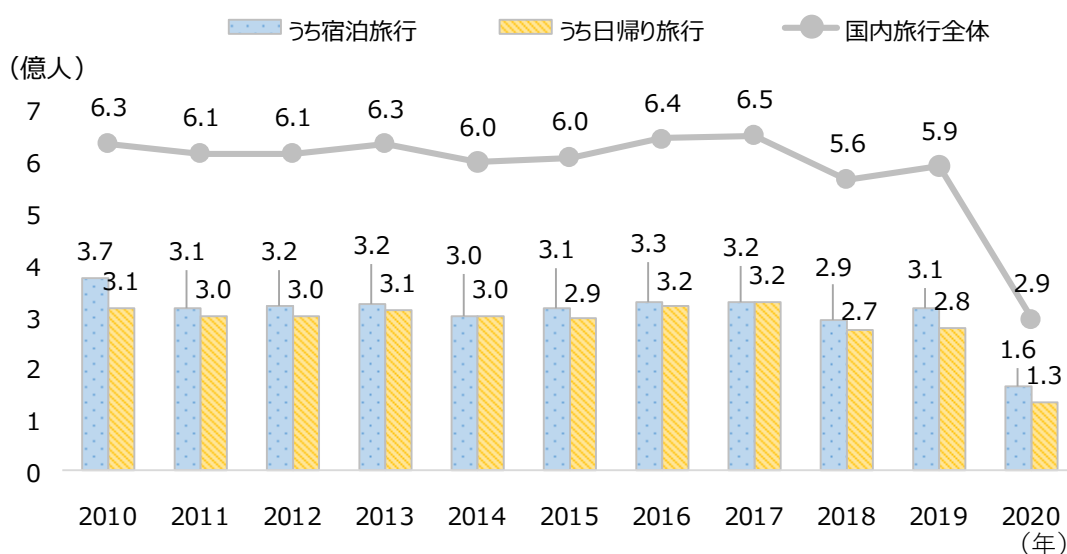
5. 新型コロナウイルス感染症拡大時における国内の旅行動向

(1) 入込客数

我が国の観光は、特に訪日外国人旅行者により順調に成長していたが、2019 年末に中国・武漢で確認された新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、2020 年は甚大な影響を受けた。

日本人の国内延べ旅行者数は、宿泊旅行・日帰り旅行ともに大幅に減少し、特に宿泊旅行は2019 年比 48.5%減の 1.6 億人だった。四半期ベースでは、緊急事態宣言及び県を跨いだ移動の自粛期間であった 4-6 月期での減少が顕著にみられる。

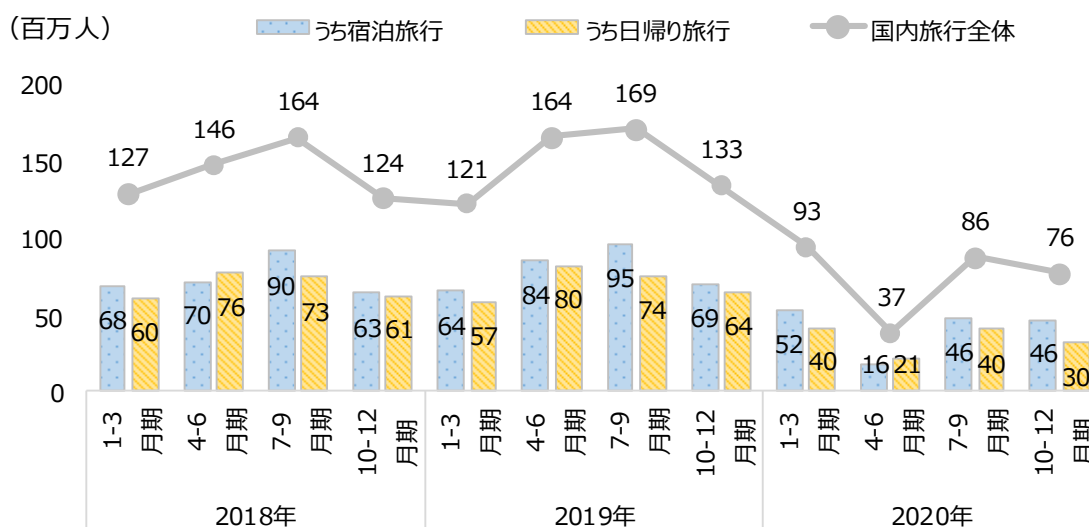
図表 46 日本人の国内延べ旅行者数の推移



(注) 2020 年は速報値

出所：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

図表 47 四半期別日本人の国内延べ旅行者数の推移



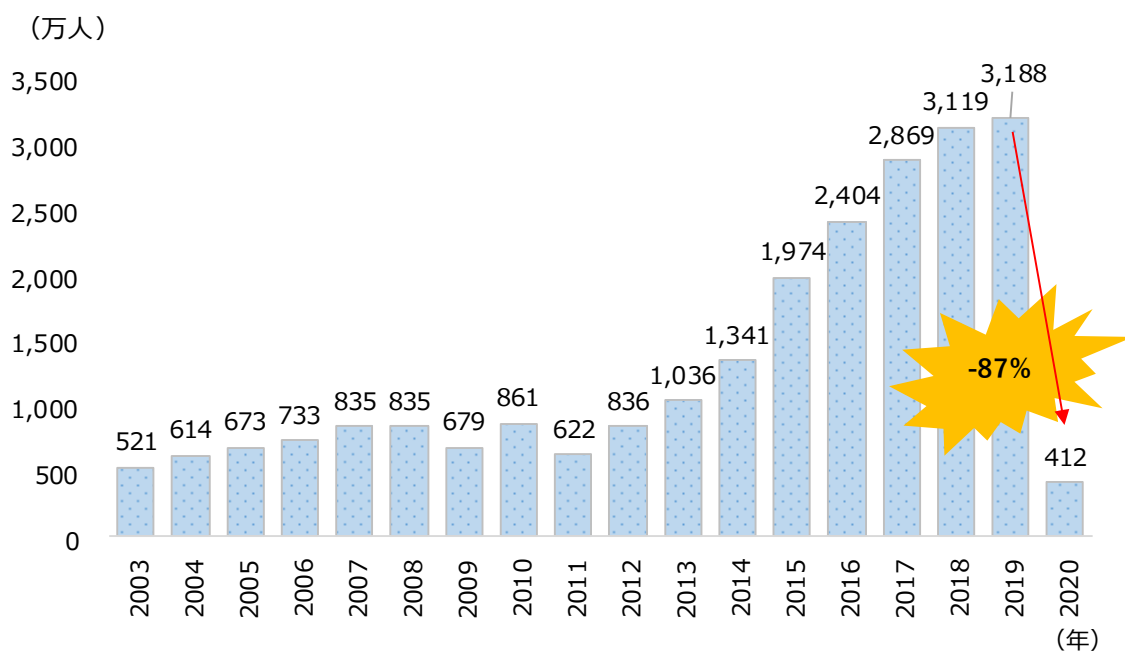
(注) 2020 年は速報値

出所：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

2020年の訪日外国人旅行者数は、新型コロナウイルスの感染拡大及び日本を含めた各国の入国制限措置により、2019年比87%減の412万人と大幅に減少した。

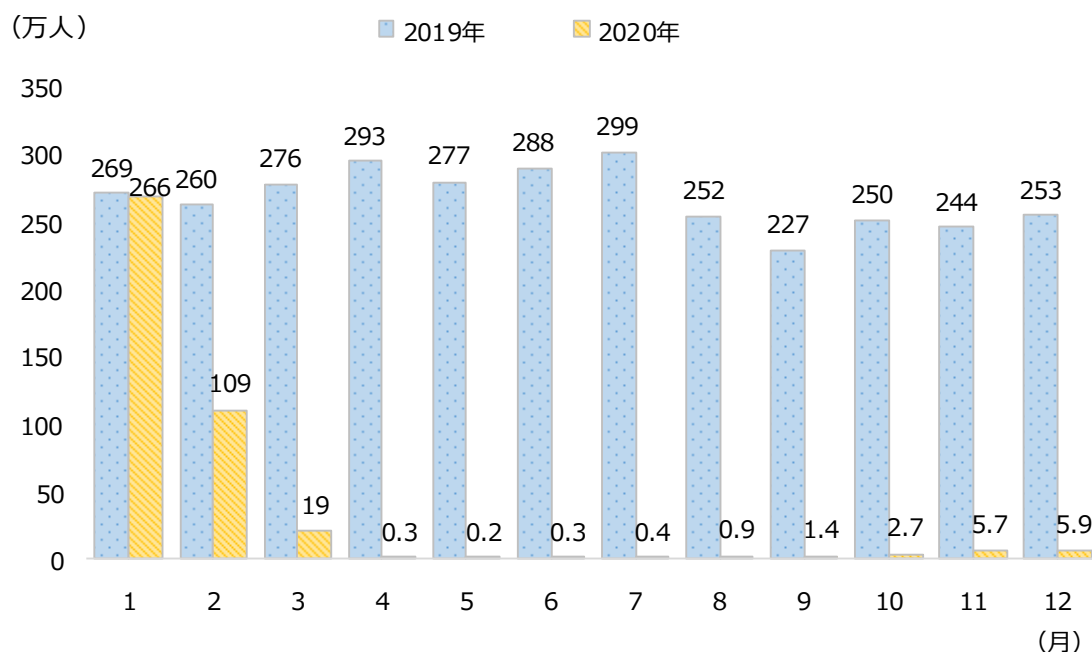
2019年と2020年の月別旅行者数を比較すると、2020年2月から減少がみられ、WHO（世界保健機関）によるパンデミック宣言が出された3月以降、訪日外国人旅行者はほぼ消失した。

図表 48 訪日外国人旅行者数の推移



出所：日本政府観光局（JNTO）

図表 49 2019年・2020年月別訪日外国人旅行者の推移



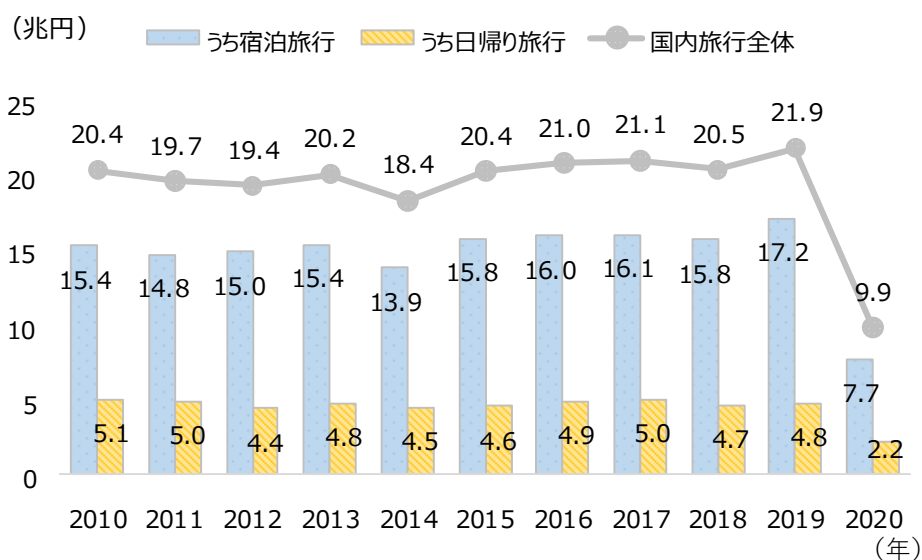
出所：日本政府観光局（JNTO）

(2) 消費額

日本人の国内旅行における旅行消費額の推移をみると、新型コロナの影響で2020年は、宿泊旅行・日帰り旅行ともに大幅に減少した。

なお、観光庁では同様の調査を訪日外国人旅行者にも実施しているが、2020年4月～6月期・7月～9月期・10月～12月期は新型コロナウイルスの影響で調査を中止している。

図表 50 日本人の旅行消費額の推移



(注) 2020年は速報値

出所：観光庁「旅行・観光消費動向調査」



©2016 大牟田市公式キャラクター
「ジャー坊」

大牟田市観光基本計画 2022～2026

策定 令和4年3月

発行 大牟田市

編集 産業経済部 観光おもてなし課

〒836-8666

福岡県大牟田市有明町2丁目3番地

TEL : 0944-41-2750

<https://www.city.omuta.lg.jp>



TADASHI NODA PHOTO©

OMUTA CITY Tourism basic plan 2022